

＜開会挨拶／来賓挨拶／スペシャルスピーチ＞

石井 敬太・日本アゼルバイジャン経済委員会会長
／伊藤忠商事（株）常務執行役員 エネルギー・化学品カンパニー プレジデント
開会挨拶

第10回日本アゼルバイジャン経済合同会議の議長を務めます、日本アゼルバイジャン経済委員会会長の石井敬太でございます。アゼルバイジャンとの経済合同会議が東京で開催されるのは、およそ5年半ぶりのこととなります。新たにアゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長に就任されたババエフ環境・天然資源大臣を団長とするアゼルバイジャン側代表団の皆様のご来日を心より歓迎申し上げます。また、先月の台風19号による我が国の被害に対しまして、ババエフ大臣より日本アゼルバイジャン経済委員会宛に温かいお見舞いのお手紙をいただきましたことを皆様にご報告申し上げるとともに、大臣のご厚情にあらためて御礼申し上げます。

本日は日本アゼルバイジャン双方より官民合わせて約100名と多くのご参加を得ております。本日の会議が実りあるものになるよう精一杯努めますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

宮本 周司・経済産業大臣政務官 来賓挨拶

経済産業大臣政務官の宮本周司でございます。本日第10回の日本アゼルバイジャン経済合同会議の開催に当たりまして、経済産業省を代表して一言ご挨拶をさせていただきます。

はじめに、ババエフ・アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長、そして石井・日本アゼルバイジャン経済委員会会長、両国の経済委員会会員企業の皆様方、そして事務局であるロシアNIS貿易会の皆様には、日頃から両国間の経済交流の深化に向けてご尽力をいただいております。深く感謝を申し上げます。ババエフ環境・天然資源大臣におかれましては、アゼルバイジャン側の経済委員会会長に就任されてから今回が初めての経済合同会議と伺っております。ババエフ大臣のお力を得て両国の経済交流がさらに活性化していきますよう、よろしく願いしたく存じます。

日本とアゼルバイジャンは1992年の外交関係樹立以降、エネルギー、そしてインフラ分野を中心に経済協力を進めてまいりました。2017年にはINPEXや伊藤忠商事が参画をするACG油田の権益が25年間延長され、事業が継続されることになったと聞いております。また本年9月に両国の経済協力のシンボルであるシマル・ガス火力複合発電所2号機が完成し、素晴らしい開所式が行われたことに心よりお祝いを申し上げます。このように両国の経済関係は緊密さを増してきております。

さらに、10月24日に世界銀行から発表されました、Doing Businessという世界各国における事業環境を評価する指標において、アゼルバイジャンは190カ国中34位にランクインしており、ビジネス環境の整備に積極的に取り組んでいる国であると認識もしております。他方、両国間の経済関係については、まだまだ発掘されていない可能性があると考えております。本日のこの日本アゼルバイジャン経済合同会議において、再生可能エネルギー、また運輸、ロジスティクスなど、非石油天然ガス分野についての議題もあると承知をしております。

本会議に参加をされている皆様におかれましては、この新しい分野での協力の可能性をぜひご議論いただきたいと思います。ババエフ大臣におかれましては、2016年から2018年にかけてアゼルバイジャン日本友好議員連盟の会長でもいらっしゃったと承知をしております。今後の両国間の関係発展に向けて、そのお力をお借りできればと期待もしているところでございます。

本日のこの経済合同会議が実り多き議論が行われ、日本とアゼルバイジャンの関係がより一層発展することを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

R. ハサノフ・アゼルバイジャン共和国外務次官 スペシャルスピーチ

親愛なる両議長、経済合同会議のメンバーの皆様、そしてご出席の皆様、まずはご挨拶申し上げます。日本側の皆様におかれましては、私たちを温かくお迎え頂くとともに、本日このような素晴らしい会議をオーガナイズしていただきまして、誠にありがとうございます。本日の成果は、アゼルバイジャンと日本の協力関係の益々の進化と拡大に寄与するものと確信しております。

両国の広範に渡る既存の協力分野に関しては、双方議長よりお話があるかと思しますので、私からは、経済合同会議の有効活用による二国間関係のさらなる進展を念頭におきつつ、アゼルバイジャンの優先的発展分野について簡潔に述べたいと思います。

ご出席の皆様、アゼルバイジャンは国際社会に対し広く門戸を開放し、互恵的な経済協力関係を築いております。アゼルバイジャンは元来、シルクロードにおいて東洋と西洋、また北欧・ロシアと中東・南アジアとを結ぶ役割を果たして参りました。この遺産を継承し、エネルギー、交通、通信、そして人々のコネクティビティ（連結性）をさらに促進することは我が国にとって非常に重要であり、内政および対外経済政策においても極めて重要な任務として位置づけられています。こうした認識に立ち、過去20年間に渡って各国とすでに戦略的パートナーシップを確立してきたエネルギー分野に加えて、輸送や通信といった分野においても協力を拡大できるよう期待しております。

貿易・投資促進もまた、コネクティビティの拡大にとり重要なポイントです。この点に関して、現在我々は日本アゼルバイジャン間投資協定の締結に向けて、交渉プロセスの強化を後押ししております。

有望な貿易投資分野の一つが農業です。アゼルバイジャンは良好な気候条件を有し、さらに農業を非資源分野の優先的発展分野として指定しているため、新たなビジネスチャンスとなるポテンシャルを秘めています。またアゼルバイジャンの地の利を活かすことができれば、二国間のみならず多数の周辺市場を射程に捉えたビジネスが可能となります。

ご存知のとおり、この20年間アゼルバイジャンは様々な分野において発展をして参りました。政府はエネルギーや輸送インフラなどの大規模プロジェクトを実施・主導しております。しかしながら、隣国アルメニアによる我が国の領土占領は引き続き大きな問題となっており、政情安定および幅広い地域の発展に影響を及ぼしております。アルメニアは、占領した我々の領土へ諸外国の自然人や法人を誘致しているほか、占領地から商品を他国へ輸出し、産地に関する誤解を与えることで、天然資源を搾取し、輸入国の消費者の権利を侵害しています。なお、アゼルバイジャンと日本が参加する国際機関の枠組みの中で採択された諸々の国際決議、そしてアゼルバイジャン国内の法律では、前述のような行為を禁止しております。この点につきましては、経済委員会の皆様にはぜひ、従来通り占領地での経済活動を行わないよう努めて頂きますことを、お願い申し上げます。

ご出席の皆様、先ほどお伝えした通り、我々二国間関係には、まだ手付かずの可能性が秘められています。この後のアゼルバイジャン側からの報告では、有望な協力分野について詳細な説明がなされるかと思います。経済合同会議は、我々の優先プロジェクトの達成に有効な実務的ツールであると考えています。ビデオ会議などによって両国の専門家同士が緊密に連携できる場を

より多く創出していくことも歓迎します。

本日の経済合同会議の成果が、二国間の経済協力を充実させ、それぞれの国民に利益をもたらすもの確信しております。あらためて主催者の皆様に御礼を申し上げます。実りある会議になるよう、心より祈念いたします。ご清聴ありがとうございました。

＜基調報告＞

石井 敬太・日本アゼルバイジャン経済委員会会長 基調報告

尊敬するババエフ・アゼルバイジャン共和国環境・天然資源大臣兼アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長、並びにご来日のアゼルバイジャン日本経済協力国家委員会の代表者の皆様、ご来賓ご列席の皆様、記念すべき第10回目の日本アゼルバイジャン経済合同会議に際し、日本側を代表して基調報告の機会をいただきましたことを大変光栄に存じます。

この度の経済合同会議は前回2017年2月バクーで開催された第9回から2年半余り、やや長いインターバルを経て久々の開催となりました。この間、二国間経済委員会の設立以来、アゼルバイジャン側議長を務めてこられたシャリホフ副首相が退任され、昨年11月にババエフ環境・天然資源大臣が新たにアゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長に就任されました。先ほど政務官もご指摘されましたとおり、ババエフ大臣におかれましては2016年から2018年にかけてアゼルバイジャン日本友好議員連盟の会長も務めておられていることから、日本をよくご存知な方であり、その方を相手側議長にお迎えすることは我々にとって真に心強く、嬉しい限りでございます。ここにあらためてご就任をお祝い申し上げますとともに、友好議員連盟会長としてすでに何度か来日のご経験があると同っておりますが、アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会の議長としての初来日を心より歓迎申し上げます。また私ごとではございますが、私自身本年6月に日本アゼルバイジャン経済委員会の会長に就任したばかりであり、今回が初の経済合同会議です。双方の先任のご功績に学びつつ、新任の議長・会長として、ともに新たな協力の一步を進めて参りたく、ババエフ議長、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、私からのご報告でございますが、最近のアゼルバイジャン経済の状況については、この後のババエフ議長の基調報告やそのほかのプレゼンテーションで、アゼルバイジャンから詳細な説明をいただけたと思いますので、詳しくは申し上げます。

去年、2018年のGDP成長率が1.4%、本年1月～9月が前年同期比で2.5%ということで、緩やかながら上昇傾向にあると理解しております。特に、我々日本の産業界が注目しておりますのが、天然ガスの増産で、前年比5.5%の増加でございました、2018年の傾向を引き継ぎ、本年2019年の生産量はすでに前年の192億㎥に迫る179億㎥に達しているということで、ガスの加工や新規ガスパイプラインの建設など、新たなビジネスチャンスにつながる可能性を大いに期待しております。

次に日本の経済ですが、内閣府の統計によりますと2018年度の日本のGDPは名目成長率で0.5%、実額で550兆4,000億円。これをドルに換算すると約5兆ドルに相当しますが、実質成長率は0.7%、実額で535兆6,000億円でした。ごく緩やかな回復傾向が続いており、今年はじめ、政府は2012年末から始まったこの景気回復は、第二次世界大戦後最長となった可能性があるというコメントを発表しております。しかしながら、昨年より日本は度重なる自然災害に見舞われており、つい先月も台風19号が東日本に甚大な被害をもたらしました。現在の緩やかな成長は、特に内需

の貢献によるものとされておりますので、産業・生活インフラ、農産物への台風の直接的な被害のみならず、観光業などの間接的被害を通じた経済の影響が懸念されております。

さて、日本とアゼルバイジャンの貿易傾向ですが、遺憾ながら長期にわたり低迷していると言わざるをえません。過去10年で両国間の貿易総額が最高であったのは、2012年の2億1,691万ドルでしたが、以降は1億ドルすらも割り込むことが多く、ことに直近の二年間は2017年が8,560万ドル、2018年が6,390万ドルと、大幅な低下が続いています。日本とアゼルバイジャンの貿易は、ほぼ日本からの輸出に占められると言っても過言ではありませんので、この低下はすなわち日本からの輸出の低下ということになります。

低下の要因は、輸出の60%~70%を占める鋼管の輸出が2017年の5,200万ドルから2018年の3,900万ドルへ25%も減少したためです。一方、日本の輸入は金額的には小さいものの、3年連続で増加しており、2016年の330万ドルから2018年は倍以上の860万ドルに拡大しております。これは2016年から始まったアルミニウムの輸入によるもので、同年の輸入の63%、2018年の86%をアルミニウムが占めているということが実態です。

このように、日本とアゼルバイジャンの間の貿易は輸出・輸入ともに単品依存傾向が強く、その結果、年による変動が激しく、発展性に乏しい状況が続いております。

また突発的に貿易額が増加する年があり、それは原動機やポンプ、荷役機械などの日本からの輸出によるものなのですが、これは単発的でなかなか長期トレンドにはつながっていないというのが実態です。これは両国の関係が石油関連ビジネスや経済支援プロジェクトなど特定の範囲にとどまっているということが要因だと考えております。

関連して、我々日本アゼルバイジャン経済委員会の現状を申し上げますと、会員は大手商社を中心に8社のまま、2012年以降増減がございません。この状況は安定していると肯定的に評価することはできるのですが、貿易の現状同様、発展性に乏しい状態になっている、停滞しているとも捉えられるわけです。つまり、日本とアゼルバイジャンの経済関係は、遺憾ながら、その範囲、プレイヤーともに広がりや欠いた状態にあるというのが実態だと思います。

現状を打破し、両国間貿易の安定的増加、経済関係の底上げを図るには、さらなるビジネスの新興、特に投資の促進が不可欠だと思っております。その際に鍵になりますのは、アゼルバイジャンが現在注力されている脱資源依存、経済多角化政策の促進だと思っております。ここ数年、貴国では脱資源依存、経済多角化政策を掲げ、非資源分野の産業育成と輸出振興に努めておられるものと理解しております。その方針に従い、本日の会議でもアゼルバイジャン側より運輸、ロジスティクス、農業、食品加工、観光、また、エネルギー分野では再生可能エネルギーなどに関わる報告がなされると伺っております。従来から両国の関係が構築されている石油ガス分野だけではなく、このようないわば新分野においても日本はその高度な技術、また資金力、人材を生かして、アゼルバイジャンの経済発展に大きく貢献ができる余地があります。それが日本に企業にとっては大きなビジネスチャンスになることを確信しております。

先ほど、宮本経済産業大臣政務官のご挨拶にありましたとおり、2017年には伊藤忠商事とINPEXが権益を保有するACG鉱区の契約が25年間延長されました。今年9月には東洋エンジニアリングが建設を進めていたシマル・ガス火力複合発電所2号機が完成しました。また10月にはアゼルバイジャン国営石油会社SOCARと石油天然ガス金属鉱物資源機構（JOGMEC）の間で石油ガス分野の共同調査契約が結ばれたと発表されました。このように日本とアゼルバイジャンの間

において石油ガス分野及び円借款等に関わる経済協力分野では、すでに確固たる実績があります。着実な発展を遂げていると思っています。

現在の成果をもとに、対象を農業や情報・通信、ロジスティクスなど非資源分野の新たな分野に広げ、また両国から新たなビジネス参加者を迎えることにより、両国の経済関係は新たな段階へ進むことが可能だと思っています。

長期的な経済発展を確保するために、脱資源依存、経済多角化政策を進めるアゼルバイジャンと、高度な技術を持つ日本とは、相互補完的なお互いに最適なビジネスパートナーとなりうる魅力的な存在です。また、そこにお互いの大きなビジネスチャンスが隠れております。新たな経済協力の可能性の発見と両国のさらなる経済関係の発展に向け、我々日本アゼルバイジャン経済委員会としてもさらなる努力を傾注していく所存です。

新規分野の開拓と参加者の裾野の拡大、また、それを通じた二国間経済関係の底上げのためには、政府と民間、さまざまなレベルでの情報交換と交流の活性化、相互理解の深化と成功のイメージの共有が欠かせません。本日の経済合同会議がそのための確かな、新たな第一歩として実り多いものになることを祈念いたしまして、私の基調報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

M. ババエフ・アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長 ／アゼルバイジャン共和国環境・天然資源大臣 基調報告

石井会長、ご出席の皆様、アゼルバイジャン共和国政府を代表いたしまして、皆様にご挨拶を申し上げます。東京に温かく代表団をお迎えいただきましたことに心より御礼申し上げます。また、天皇陛下のご即位に祝意を表し上げます。日本の平和、繁栄、調和がこの新しい令和の時代にも継続することを心から祈念いたします。

アゼルバイジャンと日本の関係は、我が国の独立以来非常に高い水準で発展してきました。二国間の外交関係は27年前に樹立されました。アゼルバイジャンと日本の歴史的な関係は1500年にも及び、シルクロードを通じて両国の交流が行われてきました。

今日、日本はアゼルバイジャンにとって重要な経済パートナーであります。そして政府レベルでもビジネスレベルでも素晴らしい協力が見られます。現在、両国政府間において非常に深い信頼関係があるおかげで、あらゆる分野で協力拡大・深化を図るチャンスが広がっています。

この協力という文脈において、2019年は大変重要な年となりました。と申しますのは、シマル・ガス火力複合発電所2号機が完成し、その開所式展にアリエフ大統領と山田賢司外務大臣政務官がご出席されました。これは二国間の信頼関係を象徴するものだと思います。

本日の経済合同会議は10回目の開催となります。経済合同会議が有益なものとなり、二国間関係の発展にポジティブな影響を与えてくれるものと確信しております。

二国間の貿易投資の傾向を見ますと、残念ながらその潜在能力をはるかに下回っていることがわかります。しかし、我々は状況を楽観視しておりますし、今後数年の間で貿易高および投資が増加すると信じています。

今日、様々な分野において二国間協力のポテンシャルを見出すことができます。例えば、工業、農業、輸送、通信、文化、観光、科学、教育、健康保健、環境保護などが挙げられるでしょう。こうしたすべての課題が今回の第10回経済合同会議の議題でもあると思われます。

二国間の政府関係者が一堂に会し協議するという伝統は、今日に至るまで非常に有効に機能してきました。残念ながら、エネルギー省およびSOCARの代表者は本日の会議に参加することが叶いませんでした。しかし、同分野の協力可能性と展望については、私が代わりに説明させていただき、詳細については、配布のプレゼン資料をご覧くださいと幸いです。

日本は我が国のエネルギー部門への投資が多い国の一つであります。伊藤忠とINPEXが参画するACGおよびBTCプロジェクトが主な事例として挙げられるでしょう。大変喜ばしいことに、SOCARは上流、中流、下流すべての部門において、日本企業と非常に良い協力関係を築いています。SOCARと日本企業との協力は1995年に遡ります。これは、伊藤忠グループがACGプロジェクトに参加することによって始まり、現在では我が国にとって主要な石油ガス生産の資産となっています。また伊藤忠やINPEXに加え、JAPEX、JOGMEC、三井物産、三菱商事、丸紅、双日なども、SOCARのプロジェクトに興味を示してくださり、参画されました。また、SOCARの尿素プラントプロジェクトについては、多くの日系の企業がEPC契約による工事請負業者（サブコントラクター）としてご参加頂きました。本プロジェクトについては、今後日本のメーカーとの長期的な業務委託契約を締結し、プラント設備のメンテナンスやスペアパーツの供給を行っていただきたいと思いますし、実現すれば二国間のさらなる経済関係の強化に資することでしょう。

また、JBICおよびNEXIが担われた重要な任務に対し感謝を申し上げたいと思います。これら二行は、SOCARをはじめとしたアゼルバイジャンの国営企業の様々な工業インフラプロジェクトのファイナンスに大きく貢献いただきました。またこの場をお借りして、日揮にも感謝を申し上げたいと思います。日揮はSOCARの中間管理職や技術チームに対して毎年日本にて研修を実施して下さっています。

横河電機、三菱重工、日立製作所、川崎重工、荏原、神戸製鋼、日本製鋼所、タツノといった多くの日系企業が機材・機械、パイプラインやスペアパーツをSOCARのプロジェクトに供給してくださっています。上流、中流、下流のプロジェクトすべてにおきまして、今後も日本のメーカーのご参加を心から歓迎いたします。

今日、アゼルバイジャンにおける主な課題の一つに、エネルギー安全保障の確立が挙げられますが、今後は官民パートナーシップ（PPP）を通じた新規発電所の建設によってそれを推進していく予定です。また再生可能エネルギー資源でも大きなポテンシャルを持っており、それらをフル活用できるよう努力していく所存です。再生可能エネルギー資源の活用と既存の発電所の民営化によって電源ポートフォリオの多角化を遂行し、エネルギー部門の発展を目指します。そのためには、投資と然るべき制度的枠組み、そして最適なタリフ政策が必要であると認識しています。

今日、アゼルバイジャンの電力供給における代替エネルギー資源の割合は、水力発電を含めて18%を占めます。この割合は2030年までに30%（1,000MW）に到達すると見込まれており、うち

350MWが風力発電、50MWが太陽光発電、そして20MWがバイオマス発電所によって供給される予定です。実現すれば、天然ガスの多くを節減することが可能になります。そこで日本政府に対しまして、新規発電所の建設、再生可能エネルギーの利用推進、そしてエネルギー効率の向上などに関する協力拡大を提案したいと思います。

輸送分野に関しても、二国間の伝統的な協力分野と言えるでしょう。アゼルバイジャンの地の利を最大化するために、我々は輸送インフラの近代化に多大な投資を行っています。アゼルバイジャンは欧州とアジア、中東の結節点であり、そして国際的なエネルギー安全保障と地域の発展にとって重要な役割を担っています。

アゼルバイジャンと日本とは遠く離れているものの、両国は輸送分野において非常に多くの共通点を持っています。したがって、南コーカサス地域における交通・物流の発展を目指す際、日本は我が国にとって非常に重要な協力パートナーとなります。この分野の発展を実現できれば、将来的には域内貿易にポジティブな影響を与えることでしょう。

また、2017年より開通したバクー～トビリシ～カルス鉄道を利用することにより、両国の経済協力を拡大させることが可能だと思います。さらに、シルクウェイ・ウエストは直行便による貨物輸送を可能にし、二国間の経済協力に貢献しています。

アゼルバイジャンと日本はさまざまな分野において関係を深化させてきました。先に述べました通り、その最たるものがエネルギー分野ですが、今後は観光や農業などほかの分野へも広げていくことを期待しております。特に農業はアゼルバイジャンの経済にとって重要な分野です。アゼルバイジャンの農産物を日本に輸出する可能性も十分あるでしょうし、日本の食品をアゼルバイジャン市場、あるいは我が国の輸送ポテンシャルを活かして欧州市場へ展開するということも有効かと思います。

先ほども申し上げたとおり、非資源分野の多角化に向けて様々な施策を講じております。そのなかで観光業は二国間経済を発展させる上で、非常に有益な分野だと思われます。アゼルバイジャンは東西の文化が融合する場所であり、観光客の多種多様なニーズに応えることができます。我が国は観光業を発展させる大きなポテンシャルを持っていると確信しています。

現在、アゼルバイジャンを訪れる日本人観光客の数も増加傾向にあります。2010年から2018年の間にアゼルバイジャンを訪れた日本人観光客の数は5倍に増えています。2016年以降、日本国民に対して入国ビザの手続きの簡素化が実施され、国際空港にてアライバルビザを取得することが可能です。日本人は30日間有効のシングルビザで入国することが可能です。また日本側はアゼルバイジャン国民に対して、マルチビザの取得手続きの簡素化を実施しました。二国間が観光業のポテンシャルをさらに発展させるためにも、両国の関係機関やプレス向けにツアーを行い、協力関係の強化に努めて参りたいと思います。

また現在、定期便の就航についての議論も行われており、チャーター便などの就航についての政府間の会議も行われています。こういったものが実現すれば、双方の観光業へ大きな刺激になると考えられます。

アゼルバイジャンは日本の経済成長の経験に大変関心を持っております。アゼルバイジャンはJICAによる経済支援に大変感謝をしております。様々な政府機関の職員向けに研修事業を実施していただいております。日本政府は常に教育、社会、文化、人道支援プロジェクトを通じてアゼ

ルバイジャン政府をサポートして下さっています。また、お互いに文化の日を設け、様々な文化人や芸術家が双方の国を訪れて文化交流を行っておりますことも、特筆すべきポイントでしょう。

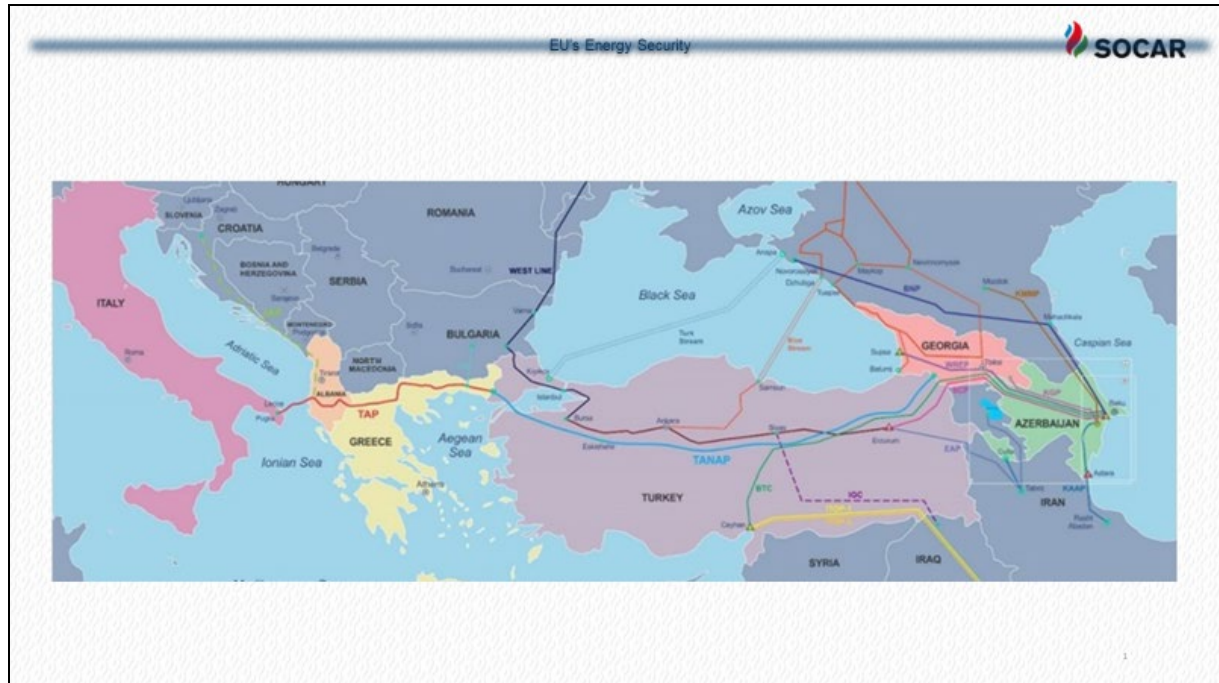
環境・天然資源大臣として、環境保護の分野における協力拡大について言及したいと思います。アゼルバイジャンは非常に豊かな長い歴史、そして美しい自然を持っており、毎年多くの観光客が我が国を訪れています。11のうち9の気候区分がアゼルバイジャンで見られます。非常に珍しい泥火山があるほか、世界最大の湖であるカスピ海も有名です。国内に10か所ある国立公園は、環境教育や学術研究、エコツーリズムの促進のために活用されています。国立公園では非常に稀な動植物を見ることができ、豹やガゼルなどが生息しています。国立公園のうち一部はユネスコの世界遺産としても登録されており、多くの観光客が訪れています。

現在、我々は急速に変化をとげる世界の中で暮らしています。同時に、多岐に渡る深刻な環境問題にも直面しています。気候変動、土壌劣化、生物多様性の損失、森林伐採などに、多国間で協調して取り組まねばなりません。一国だけで環境保全のシステムを確立することは不可能です。したがって、アゼルバイジャンはこの分野においても日本と協力を推し進めて行きたいと考えております。

アゼルバイジャンと日本は常に、世界の平和と安全の維持に貢献して参りました。日本がナゴルノ・カラバフ紛争に対し、主権、領土保全、国境不可侵の原則に基づいた公平な立場を支持していることは極めて重要です。

それでは最後に本日の会議が成功裡に、そして実り多きものになりますよう祈念しつつ、私の言葉とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

※以下は、ババエフ議長が SOCAR 代表者報告に代わって会場にて配布した参考資料



SOUTHERN GAS CORRIDOR SEGMENTS

SOCAR

Shah Deniz 2 Project Update

- Shah Deniz Stage 2 project, including expanded Onshore Terminal, Offshore Facilities and expanded South Caucasus Pipeline (SCPX) started up in 2018, ahead of schedule and below budget.
- Total Program Facilities progress is 95.2% as of the end of September, 2019.
- SD2 total project costs: \$21.9 billion, out of which \$19.18 billion spent as of the end of August, 2019.
- SD2 gas sales to Turkey commenced on 30 June and AGSC have successfully met gas delivery obligations since
- Production from Shah Deniz Bravo platform is being gradually ramped up to meet increasing contractual commitments with subsea wells from two production flanks having been put into production
- Drilling of remaining wells, delivery and installation of subsea hardware for the remaining flanks will continue over the coming years to reach planned plateau

President Ilham Aliyev and BP Upstream chief executive Bernard Looney during inauguration of Southern Gas Corridor in May 18

SDB QU and PR decks

Sangachal terminal expansion

2

SCP2 South Caucasus Pipeline Expansion (SCPX)

- SCPX overall project progress is 100% as of the end August, 2019.
- SCPX total project costs: \$4.5 billion, out of which \$4.34 billion spent as of the end of August, 2019.



TANAP

- TANAP overall progress equals to circa 99.9% as of the end of August, 2019.
- Total project costs: \$7.0 billion, out of which \$6.23 billion has been spent as of the end of August 2019.



TAP

- TAP overall progress is circa 89.3% as of the end of August 2019.
- Total project costs: EUR 4.6 billion, out of which EUR 3.75 billion spent as of the end of August, 2019.
- At end of August, 2019, 100% of the Right of Way was cleared and graded, approximately 100% of the pipe welded, over 99% of the pipe backfilled and over 98% of the land was reinstated on the total onshore pipeline in Greece and Albania. The 8 km onshore pipeline in Italy is also advancing in the available clusters. Total actual offshore construction progress reached 47.2%.

5

TANAP and TAP progress

TANAP

- Commenced delivery of gas to BOTAS in mid 2018
- Remaining scope for Gas to Europe is on schedule for completion during 2019

TAP

- TAP is continuing to target commencement of the delivery of gas to Europe in 2020
- Overall the project is over 89% complete, with over 98% of the pipeline through Greece and Albania installed and backfilled. Construction is also well advanced at the Greek and Albanian compressor stations.
- In Italy construction works continue to progress to schedule on all of the three work fronts: landfall site, onshore pipeline and pipeline receiving terminal

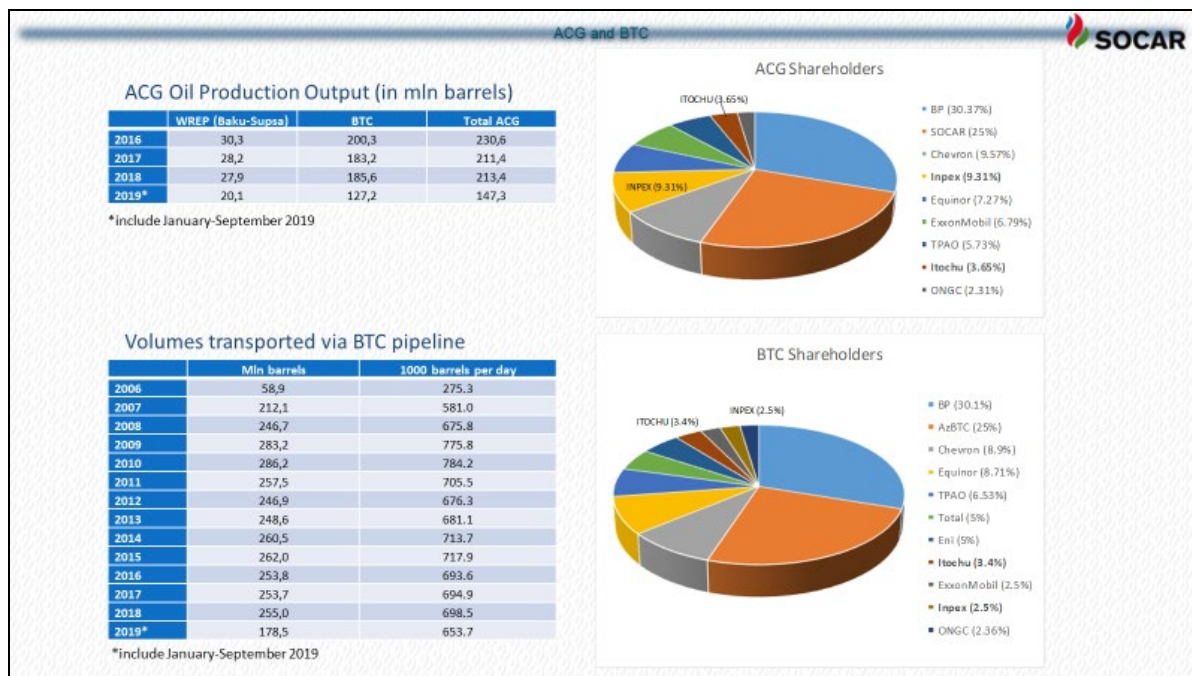
TANAP CSS and MS2 General View



TANAP & TAP Tie-in, Greece



6



SOUTHERN GAS CORRIDOR SEGMENTS



Cooperation under Baku-Tbilisi-Ceyhan (BTC)

- Japanese shareholders of the Baku-Tbilisi-Ceyhan (BTC) project: Itochu (3.4%) and Inpex (2.5%). The overall amount of dividends acquired by these companies from the very beginning of the project works out at circa 314 mln USD by Itochu and 231 mln USD by Inpex.
- The Japan Bank for International Cooperation (JBIC) was one of the entities financing the BTC project. JBIC granted a credit in the sum of 300 mln USD for the construction of the pipeline. In 2015, two other Japanese banks - Tokyo Mitsubishi UFJ Ltd. and Sumitomo Mitsui Banking Corporation participated at the refinancing of BTC by means of a credit to the total value of 433,8 mln USD.
- Japanese companies also participate as contractors in important Azerbaijani oil and gas projects:

South Caucasus Pipeline Expansion Project (SCPx)

- In February 2014, the contract was signed under the South Caucasus Pipeline Expansion Project in the total amount of 305 mln USD with Japanese Nippon Steel & Sumitomo Metal Corporation.

TAP

- In November 2015, the Consortium comprised of Greek Corinth Pipeworks Pipe Industry S.A. and Japanese Marubeni-Itochu Steel Inc. signed a contract with TAP AG totaling circa 242 mln Euro for supplies for the TAP pipeline of 495 km in length and 48 inches in diameter stretching through the territory of Greece.

6

- Currently "Azerikimya" Production Union cooperates with the following Japanese companies within the renovation project on the ethylene production unit:
 - Yokogawa
 - Nihon Koso
 - Mayekawa
- The following companies have been supplying "Azerikimya" PU with materials, spare parts and equipment for current operation and maintenance:
 - Yokogawa Electric
 - Arrowhead International
 - Kuken Kogyo Co
- The Steam Generator Unit operating in the frame of "Azerikimya" PU was constructed and put into operation by Mitsubishi Heavy Industries, Mitsubishi Electric and Choda

7

A credit agreement amounting to 485.8 mln USD was signed with financial entities such as JBIC (Japan Bank for International Cooperation) and NEXI (Nippon Export and Investment Insurance).

According to the information to late-June 2018, 458 mln USD has been already spent.

Japanese Itochu Corp. form part of STAR EPC Consortium.



8

＜報告：第一部＞

浅和 哲・(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 探査部 部長 報告「JOGMECとSOCARの協力関係の深化について」

本日、両国の政府関係者やビジネス関係者が一堂に会する日本アゼルバイジャン経済合同会議という貴重な機会において報告の機会をいただきましたことを、大変感謝申し上げます。

最初に我々JOGMECの組織について簡単にご紹介したいと思います。JOGMECは我が国への石油などのエネルギー安定供給をミッションとする法人でございます。石油公団と金属鉱業事業団が2004年に統合してできた、100%の政府出資の政府機関でございます。JOGMECは資源エネルギーの専門機関として、石油・天然ガスだけではなく、金属鉱物、備蓄、石炭、地熱といった部門を有しており、日本企業への支援業務を広く実施しております。

我々の石油・天然ガス部門の探査部の業務ですが、簡単に言えば地質的にリスクが高いところ、民間企業がなかなか単独では出ていけないところに、JOGMECが先駆的に出て行って地下の石油・天然ガスの調査を実施するというものです。この地質構造調査によってリスクを低減した上で、我々の事業を日本の民間企業の方に事業承継をすることによって、最終的に日本企業の方に権益を取ってもらうという形で、今アゼルバイジャンとの協力関係も含め、エネルギーの安定供給に貢献するという事業でございます。

これまでアゼルバイジャンにはJOGMECの前身である石油公団時代を通じて、我が国企業への資金支援を実施してきました。具体的にはACGの石油開発事業やBTCパイプラインの建設事業です。JOGMECといたしましても、アゼルバイジャンを我が国へのエネルギー供給の重点国として位置付けており、引き続き関係強化を図ってきたところでございます。

2018年5月に、SOCARとの間で石油開発上流分野の包括協力を目的とする、我々がMOCと呼んでいるMemorandum of Cooperationを締結しました。MOCは我々探索部門が行っている地質構造調査、また人材協力といったものを協力協定の柱と定め、具体的なプロジェクトの組成に向けて双方で協議を進めるということで確認したところでございます。

このMOCの締結を受け、まさに先月10月24日、JOGMECとSOCARの間でアゼルバイジャンの陸上鉱区における石油天然ガスの共同調査契約の締結に至ったところでございます。JOGMECにとってはアゼルバイジャンで初めての石油天然ガスの調査事業となります。この調査は来年2020年から本格的に開始する予定であり、調査期間は約3年間を想定しています。地下の有望構造を見つけるための地震探査を中心に作業を進めてまいります。最終的にこの調査結果を日本企業に引き継ぐことにより、日本の民間企業のアゼルバイジャンへの進出を後押しするということでございます。

この調査のキーポイントとしては、いくつかの意義や期待といったものがあるのですが、三点ほど挙げられます。

一つ目が産油国協力の強化、SOCARとのさらなるパートナーシップの強化が挙げられると思います。JOGMECはリスクマネー支援を通じて、アゼルバイジャンとの協力関係を構築してきたところでございますが、今回の調査によって、さらに強固で信頼できる関係を築いて参りたいと思っています。

二つ目は投資の拡大です。今回のJOGMECによる調査の結果、有望性が確認できれば、日本企業によるアゼルバイジャンの石油天然ガス炭鉱事業への参入に弾みをつける呼び水となる役割を果たすことができるのではないかと考えています。

さらに三つ目、これは我が国のエネルギー政策上の見地からの話になりますが、日本にとってのエネルギー供給源の多角化に向けた取り組みとなると思います。今回の調査プロジェクトが成功し、将来、日の丸原油の獲得につながれば、中東依存度の低下、また供給源の多角化へと貢献するということも期待できます。

次に、SOCARからの研修生を招聘して実施しているJOGMECの人材育成に関する取り組みについて簡単にご紹介します。JOGMECは、我が国の資源外交に貢献し、また資源保有国との関係強化を目的とし、産油、産ガス国の政府機関、国営石油会社などから、石油開発の技術者を日本に招き、技術研修を実施しています。具体的には、JOGMECは千葉県の幕張に技術センターを持っており、そこの研修施設における探鉱地質、物理探鉱、掘削マネジメント、輸送工学といった研修を実施しています。多くの参加者の方から高い評価を得ているところでございます。

この技術研修制度は1989年に創設されました。SOCARからは1997年から毎年参加いただいております。アゼルバイジャンからの研修生は累計で34名にのぼっております。6ページ目のスライドを見ていただくと分かるのですが、左側の写真は技術研修を受けている風景で、右側の写真は京都への訪問をしている記念写真です。JOGMECとしては、単なる技術研修だけではなく、日本の文化を知ってもらいたい、日本の応援団になってもらいたいという意味も込めまして、技術研修だけではなくて日本の文化を知る古都京都への訪問、日本語クラス、習字、生花、お茶といったものも取り入れた形で研修を実施しています。

さらに最近のトピックスとしていくつかご紹介すると、SOCAR向けの特別研修というものがございます。先ほどMOCの人材育成という協力の事業について話しましたが、それに基づき、今年の11月と来月12月にかけて、SOCAR側からの強い希望もあり、日本式のマネジメントであるカイゼン研修を実施しています。SOCAR側からは13名の研修生が来日する予定で、来週から開講する予定でございます。このカイゼン研修は、アゼルバイジャン側のアブドラエフ総裁からも強い関心をいただいておりますし、ぜひ日本で研修をしてほしいとの話がありました。

このカイゼン研修では、参加者がアゼルバイジャンに戻った後も、それぞれの現場においてカイゼンのシステムを適用できるような必要な知識、ノウハウの習得を目的としています。単なる講義だけではなくて、カイゼンマネジメントシステムを適用して効率化や生産性の向上に取り組んでいます。現場の施設も視察する形での研修を予定しています。具体的にはカイゼンの本家、トヨタ自動車や電力、ガスプラントといったところも訪問する予定になっています。

最後のまとめですが、今回ご紹介したように石油・天然ガスの調査、また人材育成といった事業を通じて、JOGMECとSOCARとの関係はかなり深まっていると感じています。強力なパートナーシップのもと、今後ますます双方の信頼関係を構築していくことを我々は目指しております。JOGMECとしても引き続き両国の発展に貢献してまいりたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

(※以下、報告資料より一部抜粋)

Overview of JOGMEC



□ Japan Oil, Gas and Metals National Corporation (JOGMEC)

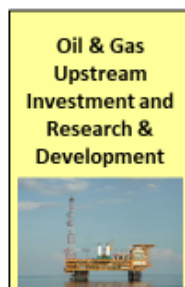
Established: February 29th, 2004 [previously known as JNOC & MMAJ]

Capital: 940 Billion Yen (As of May, 2019) = US\$ 8.5 Billion

□ Mission

To secure a stable supply of oil, gas, coal, mineral resources and domestic geothermal energy for Japanese industries and citizens

□ Activities



- Financial Assistance
- Technology Development
- Technical Support
- Geological & Geophysical Surveys
- HR Development etc.

Metals Strategy & Exploration, and Technology Development



Stockpiling



Mine Pollution Control



Coal Strategy & Exploration, and Technological Support



Geothermal Resources Development



Memorandum of Cooperation



- JOGMEC and State Oil Company of the Azerbaijan Republic (SOCAR) signed a Memorandum of Cooperation (MOC) for mutual cooperation in oil and gas upstream sector on May 30, 2018.
- JOGMEC and SOCAR agreed in MOC for mutual cooperation in technical areas, including **geological & geophysical survey**, and **human resource development** in oil and gas upstream sector.



Japan Oil, Gas and Metals National Corporation

Geological & Geophysical Survey



- ❑ JOGMEC and SOCAR signed the Joint Study Agreement for the evaluation of the oil and gas potential in onshore Azerbaijan, in Baku, on October 24, 2019.
- ❑ JOGMEC will encourage Japanese companies to enter into the oil and gas upstream business in Azerbaijan with the promising survey results which would contribute to the further development of oil and gas in Azerbaijan Republic.



Japan Oil, Gas and Metals National Corporation

Geological & Geophysical Survey



Key Points

- ❑ Strengthen Partnership
- ❑ Encourage Future Japanese Companies' E&P Activities
- ❑ Contribute to Diversification of Energy Sources



Japan Oil, Gas and Metals National Corporation

Exchange of Joint Study Agreement in Baku

(right) Mr. Huseynov, Vice-president of SOCAR

(left) Mr. Yokoi, Executive Vice President of JOGMEC

Human Resource Development



Continuous participation from SOCAR to JOGMEC's "Overseas Training Program"



- Exploration Geology
- Geophysics
- Reservoir Engineering
- Drilling Management etc.

Total 34 participants from SOCAR since 1997



Picture of the Lecture
Japan Oil, Gas and Metals National Corporation



Excursion to Kyoto

Human Resource Development



"Custom Training Course" newly arranged for SOCAR in this November - December

- ✓ Japanese management method "KAIZEN" training for improvement in productivity
- ✓ 13 participants from SOCAR including its executives
- ✓ Exclusive experience at Japan (visit crude import facility, refinery, cutting edge technology of automobile etc.)

What is KAIZEN ?

KAIZEN 「改善」 is Japanese word
KAI 「改」= Change
ZEN 「善」= Better



Change for the Better
Continuous Improvement

KAIZEN is Step by Step activity



仙石 雄三・国際石油開発帝石（株）（INPEX）
ユーラシア・中東・アフリカ事業本部 執行役員
報告「アゼルバイジャンにおけるINPEXの活動紹介～ACGプロジェクト、人材開発」

本日はINPEXのアゼルバイジャンにおける活動、ACG油田開発プロジェクト、および人材開発への貢献について紹介致します。

INPEXは現在、日本国内はもとより世界20数か国でおよそ70の探鉱・開発・生産プロジェクトを展開する日本最大の石油・天然ガス開発企業です。昨年、オーストラリアにおきまして、弊社は日本企業として初めて大型LNGプロジェクト全体を指揮・管理する操業主体となるオペレーターを務めておりますイクシスLNGプロジェクトの生産を開始しました。我々は、日本をはじめとする世界のエネルギー需要に応えていくことで、社会にとってかけがえのないリーディングエネルギーカンパニーとなることを目指しています。

アゼルバイジャンのACGプロジェクトはINPEXグループのグローバルポートフォリオにおける重要プロジェクトの一つとして位置付けており、アゼルバイジャンとSOCARとの良好な関係をこれからも維持、発展させていきたいと考えています。

ACGプロジェクトは1994年に生産分与契約（PSA）が締結され、今年で25周年を迎えた超巨大油田の開発・生産プロジェクトです。バクー沖合のカスピ海上にあります、アゼリ、チラグ、およびグナシリの各油田にて1997年より生産操業を行っており、昨年の平均レートで日量58万4,000バレルの原油を生産しています。英国のBP社を中心としたAIOC社が操業の主体を担うオペレーターを務め、アゼルバイジャン国営石油会社でありますSOCAR社をはじめとした合計9社の大手国際石油企業のコンソーシアムによりプロジェクトを推進しています。

日本企業といたしましては、伊藤忠商事様が1996年に、弊社INPEXが2003年にそれぞれプロジェクトへの参画を果たしました。

ACG油田から生産された原油は、主にアゼルバイジャンのバクー、ジョージアのトビリシ、トルコのジェイハンを繋ぐBTCパイプラインを通じて、ジェイハンより需要家に向けて出荷されています。

PSAは当初契約期限が2024年でしたが、一昨年、2017年にSOCAR社と弊社を含む権益保有者の間で25年間の契約延長につき合意がなされ、2018年1月にその延長に係る改訂PSAが発効しました。これにより半世紀を超える長期のプロジェクトとなりました。

ACGプロジェクトの最近の活動としては、本年4月、新規プラットフォームの設置による追加開発計画の最終投資決定がなされました。この7基目となる生産プラットフォームはアゼリ・セントラル・イースト、頭文字を取りACE（エース）プラットフォームと呼ばれ、現在、建設作業を進めており、2023年の稼働開始を見込んでいます。

これまでACGプロジェクトにおきましては、すでに累計360億ドルを超える投資がなされておりますが、今回の決定により、さらにおよそ60億ドルの追加投資が見込まれています。

弊社は引き続き、SOCAR、およびパートナーと協力し、ACGプロジェクトにおける生産量の維持および確認埋蔵量の拡大を含めたプロジェクト価値の最大化に向けて取り組んでまいります。

続きまして、INPEXグループが行っておりますSOCAR社の若手エンジニアを対象とした人材

開発活動についてご紹介致します。

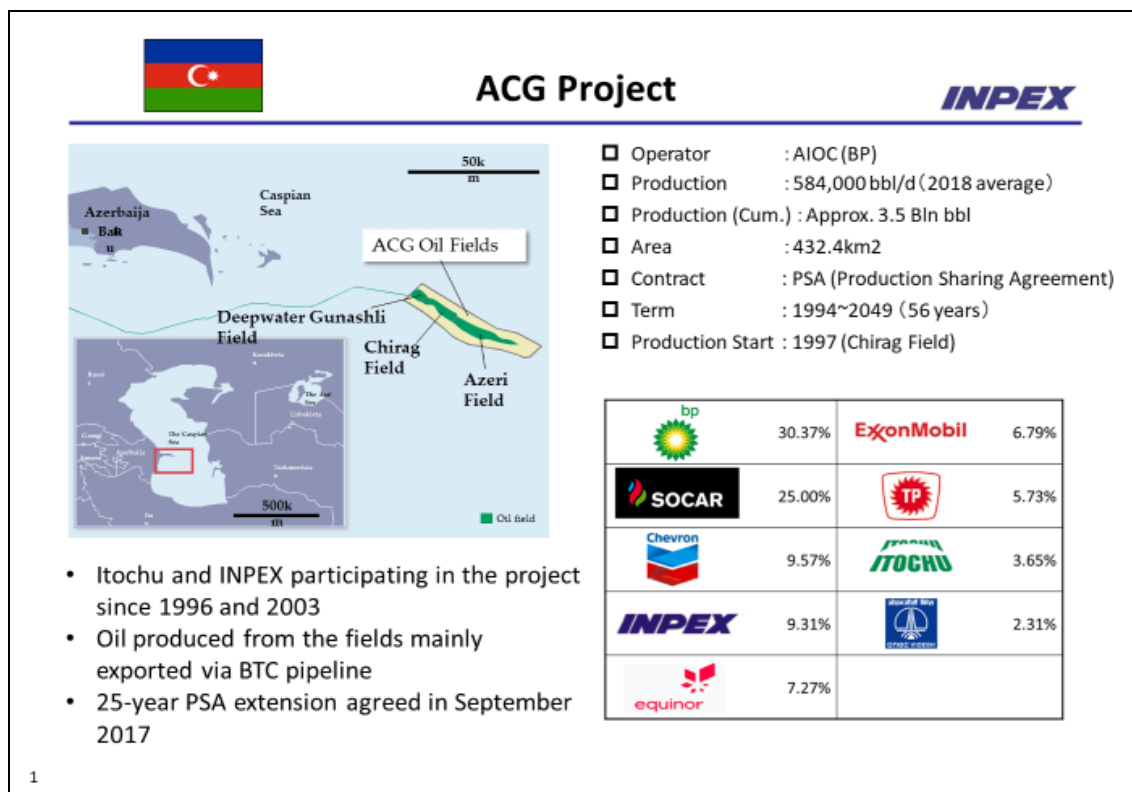
2016年以来、早稲田大学創造理工学部（School of Creative Science and Engineering）の栗原教授のご協力をいただきながら、SOCAR社の若手エンジニアを日本に招き、三カ月間で実用的なサブサーフェス（地下）の評価技術および開発計画の策定を体系的に学ぶ研修を実施してきております。この研修はアゼルバイジャン・日本両国政府のサポートを受け、実現されたものであり、この場を借りて深く御礼を申し上げます。本年度で3回目を迎えました本研修は、研修生およびSOACR社マネジメントより高い評価をいただいています。先日、3か月間の研修を終えた研修生から直接話を伺う機会がありましたが、大変充実した研修であったとの高い評価をいただいています。

また、2017年及び2018年には、アゼルバイジャンに出向き、数週間の短期講座として「EOR、原油の増進回収法に関するセミナー」をバクーにおいて開催し、こちらについても高い評価をいただいています。

なお、これら研修の実施に際しましては、経済産業省「産油国石油精製技術等対策事業費補助金」採択を受け、同補助事業として実施致しております。

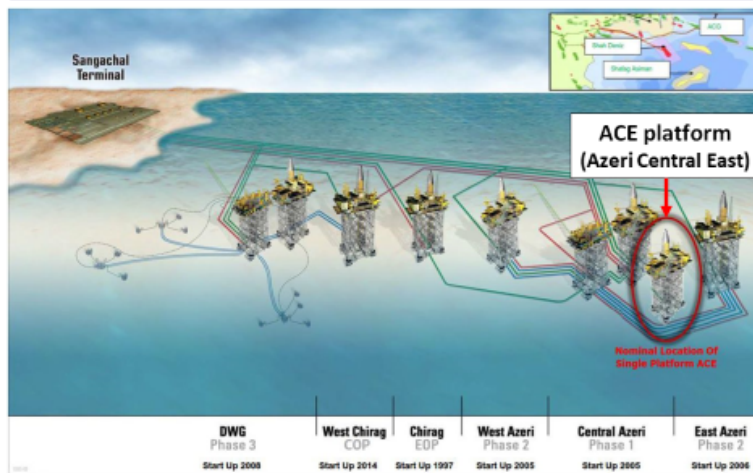
弊社がアゼルバイジャンの将来を担う若手エンジニアの人材育成に貢献できることを大変嬉しく思っております。今後も引き続き人材開発に対して貢献していく所存です。ご清聴ありがとうございました。

（※以下、報告資料より一部抜粋）



ACG New Production Platform

INPEX



- Water depth of approx. 140m
- Consist of a new 48-slot drilling and processing platform installed between Central Azeri and East Azeri facilities
- Liquid processing capacity : 100,000 bbl/d

- ACE (Azeri Central East), the 7th offshore production platform construction ongoing
- Final Investment Decision for this \$6 billion development made in April 2019
- First production expected in 2023

2

Human Resource Development Training Course for SOCAR engineers

INPEX



- Since 2016, inviting SOCAR young engineers to 3 months tailor-made training course focusing on practical subsurface evaluation and field development planning in Tokyo with the support of Waseda Univ. and METI
- 'EOR special seminar' held in Baku in 2017 and 2018
- 3rd Training Course in Tokyo conducted in Aug. - Nov. 2019

3

0. ママドフ・アゼルバイジャン中小企業発展庁 長官 報告「中小企業分野における協力の展望」

尊敬する共同議長殿、ご参加の皆様、ご挨拶申し上げます。また、第10回日本アゼルバイジャン経済合同会議をオーガナイズして頂きました双方関係者の皆様にも心からお礼申し上げたいと思います。

日本はこれまでアゼルバイジャンに67億ドルを投資してきました。またアゼルバイジャンは日本に対して18億ドルの投資を行い、うち国家石油基金による日本資産への投資が13億となっています。現在、貿易、サービス、農業、建設業といった分野の日本企業33社がアゼルバイジャンに登録しています。なお日本企業は4件の国営プロジェクトの実施に工事請負業者（サブコントラクター）として参画しており、金額にして4億3,330万ドル規模になります。2019年1月～10月の累計貿易取引額は2億6,960万ドルでした。アゼルバイジャンから日本への輸出品目を見ると、国際商品（コモディティ）の輸出増加が顕著に現れています。

現在、我が国は非資源分野の製品の輸出拡大による貿易構造改革に取り組んでおり、企業支援を含め、様々な分野で拡充のポテンシャルがあると思います。アゼルバイジャン経済への投資総額は2,685億ドルです。外国投資は1,368億ドル、うち外国直接投資（FDI）は896億ドルです。対外債務はGDP比わずか17%です。

国際機関の経済レポート上でも、アゼルバイジャン経済が高評価されています。Doing Business 2019を例にとると、ビジネス環境の順位では25位にランクインし、上位国の中に含まれています。また指導者の改革への意志については141カ国中5位、輸送インフラの充実度については31位にランクインしました。また道路インフラの充実度については27位でしたが、これはCIS諸国中では1位となります。鉄道の充実度は34位、輸送サービスの効率については34位、電力へのアクセスについては2位でした。

非資源分野を持続可能かつ競争力のある分野へ発展させることは、我々にとって極めて重要な任務です。インダストリアルパークやテクノパーク、アグロパーク、経済特区を創設し、生産性向上や国産品輸出、投資促進を図っております。インダストリアルパークの入居者は、特別な税控除やインセンティブを受けることができます。2016年に施行された投資促進に関する法律がこうした税制措置の法的根拠となっております。また「メイド・イン・アゼルバイジャン」ブランドの海外促進も積極的に行っており、輸出促進に向けたミッションの派遣も実施しています。

アゼルバイジャン政府は、ビジネス支援や起業支援にも重点を置いています。その関係で、2017年の大統領令によって中小企業発展庁が創設され、民間セクターにおける規制の改革、企業の競争力強化、中小企業向けのファイナンス拡充などが実施されました。そして2025年以降の戦略目標としては、中小企業の割合をGDP比で60%、雇用の70%、輸出の40%まで引き上げることを目指しています。これらの目標達成には、貿易や投資、産業、ICT、サービスなど経済の様々な分野で外国のパートナーたちとの協業が不可欠です。

中小企業の発展には、明確なビジョン、そして彼らのニーズに対する理解なくしては達成しえません。したがって、我々は戦略的優先事項を策定しました。まず、ビジネス実施の手続きをより効率化させるとともに、中小企業向けに提供されるG2B・B2Bサービスをモニタリングし、改善に向けて然るべき施策を講じます。また、中小企業へ最新テクノロジーを提供し、能力開発な

どの支援を行っていきます。加えて、コンサルティングや販促支援を通じた中小企業の海外進出サポートも実施します。また中小企業は資金繰りに難を抱えていることが多いため、我々は彼らのニーズを満たすような新たな資金支援スキームの可能性を模索しています。

当庁は、管理本部と所管機関である中小企業開発センター、中小企業開発基金、官民パートナーシップ開発センター、中小企業公社から成ります。また中小企業間との連携に際しては、中小企業開発センターと中小企業フレンドネットワークを通じた地域的アプローチ、また関連機関や団体、企業へお繋ぎする分野的アプローチなどを最大限に活用しています。

中小企業発展庁は、中小企業のビジネス環境に係る法整備も行っています。中小企業発展に関する法律を起草したほか、税法改正を実現しました。こうした取り組みにより、零細企業や個人事業主、スタートアップ、そしてクラスターに参加する中小企業にとってより良好なビジネス環境が整備されつつあります。ほかにも、中小企業に関する基準の更新、政府調達制度の改定、中小企業による公的サービス利用の簡素化などを実現しました。これまで10以上の中小企業発展に係る法律が策定されました。

また以上の取り組みのほかに、当庁所管下にパブリック・カウンシルを創設しました。これは15の協会と200の企業から成るもので、優先発展分野に該当する中小企業のマーケティング活動などへ資金を供給することを目的としています。

当庁では、中小企業の潜在力向上に向けて、さまざまな研修や海外視察プログラムなどが企画されています。また「中小企業ボランティア・プログラム」では、若手の専門家や学生による起業活動を支援・奨励しています。「中小企業支援プログラム」では、展示会出展などを通じて中小企業の海外展開のサポートを行っています。今日までに、約100の中小企業が当プログラムを利用して展示会に参加し、成果を挙げてきました。

当庁は、我が国の中小企業と外国投資家とを結ぶ種々の支援も提供しており、すでに数々の国際機関や外国の政府系機関とパートナーシップを確立しています。ちなみに2019年には当庁の職員2名がJICAの研修プログラムに参加させていただきました。

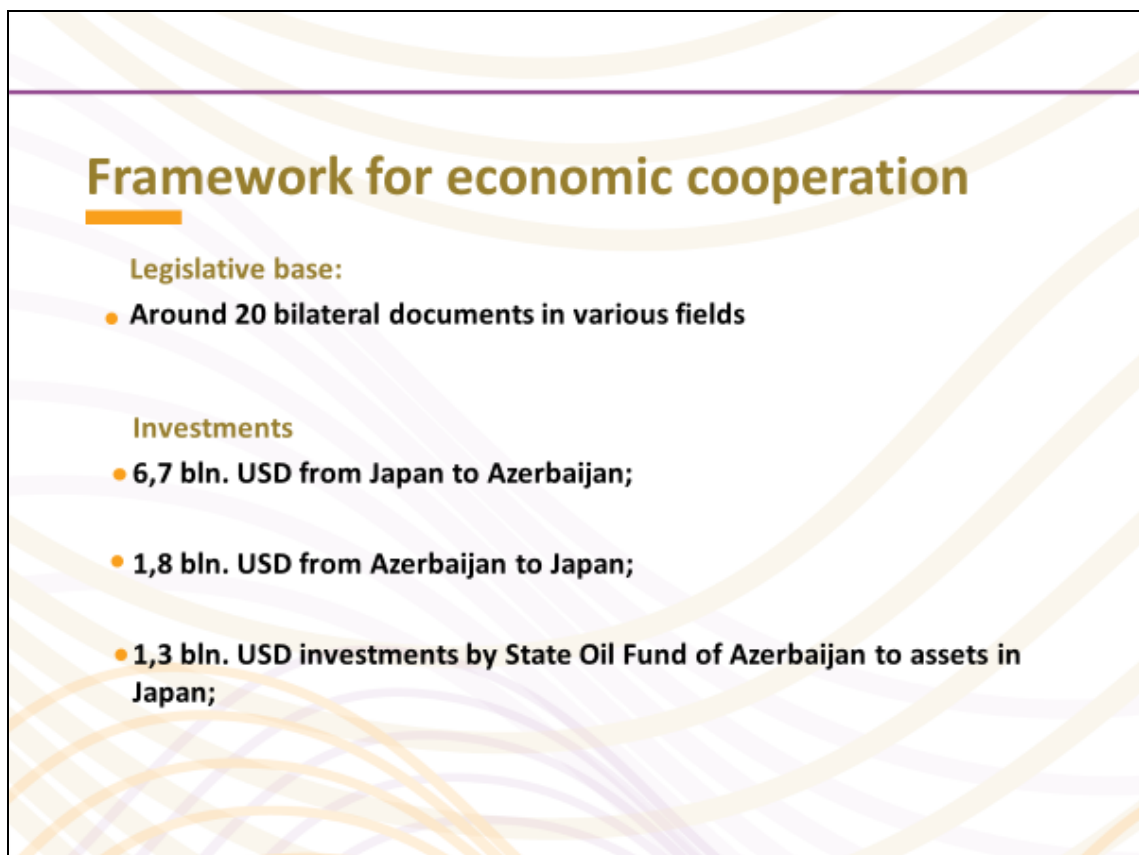
親愛なる皆様、当庁は日本の関係機関とのパートナーシップ確立に大変関心を持っており、この場をお借りして具体的な協業の提案を行いたいと思います。

第一に、ビジネス・フォーラムや展示会など経済イベントを共同で実施し、双方の中小企業に交流の場を提供することです。第二に、観光業やICT、イノベーション、食品加工といった分野に関する投資プロジェクトに関する情報交換・共有を行い日本の投資家をアゼルバイジャンに誘致することです。第三に、日本の中小企業庁、中小企業基盤整備機構、およびその他関係機関との間に協力関係を結び、能力開発やハイテク技術の導入などを目的とした経験交流を行うことです。将来的には、分野ごとに日本のハイテク技術をアゼルバイジャンの中小企業向けに供給するといった共同プロジェクトにも取り組めるかもしれません。そして第四に、アゼルバイジャン国内の中小企業向けのファイナンスや官民パートナーシップ事業の支援などにおける、JICAとの協力です。JICAにおかれましては、当庁所管下にある中小企業発展基金への参画を検討いただけますと幸甚です。第五に、当庁は貿易関係やビジネス関係の促進において重要な役割を担っている関係から、ぜひJETROやROTOBOと協力し、日本企業のアゼルバイジャン進出を促進するほか、ビジネスミッションの組成・派遣、B2Bイベントの主催などを実施したいと考えております。第六に、アゼルバイジャンの中小企業向けに日本企業あるいは工場への訪問をアレンジし、能力向

上や新技術の導入を後押するプログラムを検討いただけますと幸いです。これまでに、お互いに協力し合って、経営者や若手の企業家たちの研修プログラムを成功裡に行ってきた実績があるため、提案のようなプログラムも実現可能と確信しております。

本日の経済合同会議が二国間の協力関係をさらに発展させる素晴らしい成果を生み出すことを信じてやみません。ぜひ近い将来、このような共同活動に皆様よりご参加いただければと思います。ご清聴ありがとうございました。

(※以下、報告資料より一部抜粋)



Framework for economic cooperation

Legislative base:

- Around 20 bilateral documents in various fields

Investments

- 6,7 bln. USD from Japan to Azerbaijan;
- 1,8 bln. USD from Azerbaijan to Japan;
- 1,3 bln. USD investments by State Oil Fund of Azerbaijan to assets in Japan;

Framework for economic cooperation

Japanese companies in Azerbaijan

- 35 companies registered in Azerbaijan;
Fields: trade, services, agriculture, construction, industry;

State-owned projects

- Japanese companies are involved as subcontractors to the implementation of 4 state-owned projects
- Total value of these projects is 433,3 mln USD.

Trade turnover

- 269,6 mln. USD (January-October, 2019)

Economic indicators and positions

Volume of investments to economy of Azerbaijan

- Total – 268.5 bln. USD;
- Foreign investments – 136,8 bln. USD;
- FDI – 89,6 bln. USD;

Doing Business 2019 Report

- Azerbaijan ranks 25th
- Azerbaijan is in the list of the 20 most reformist countries

World Economic Forum Report 2019

- 5th place for leadership's desire for reforms
- 31st place for transport infrastructure,
- 27th place for road infrastructure
- 34th place for railways,
- 12th place for efficiency of transport services
- 2nd place for access to electricity

Non-oil sector development

- Is one of the priorities for state policy
- Increase production, stimulate local export and promote investments through creation of industrial and technological parks, industrial quarters, agro parks and special economic zones
- Investment promotion document
- Tax exemptions for residents
- “Made in Azerbaijan” brand
- Export missions
- Azerbaijan Trade Houses
- Trade Representative offices

Establishment of SMBDA



Small and Medium Business Development
Agency of the Republic of Azerbaijan
(SMBDA) was established by Decree No.

1771

of the President of the Republic of
Azerbaijan

dated December 28, 2017.

The Charter and structure of the Agency
have been approved by the Decree of the
President of the Republic of Azerbaijan
No 148 dated 26 June 2018.



Perspectives of cooperation in SME sector

Strategic goals

The share of micro, small and medium-sized businesses



Perspectives of cooperation in SME sector

Strategic priorities for SMB development



Organizational Structure of SMBDA



Small and Medium
Business Development
Agency Administration



Small and Medium
Business Houses



Small and Medium Business
Development Centers



Public-Private Partnership
Development Center



Small and Medium Business
Development Funds

4 types of contact platforms

Four types of contact platforms with entrepreneurs are being used to implement the SMBDA's strategic business objectives

01

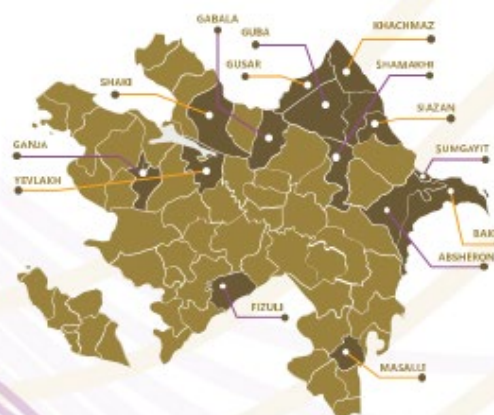
Teritorial

- SMB Friend Network
- SMB Development Center

02

Sectoral

- SMB Club (relevant and sectoral associations and focus groups)
- SMB Cluster companies



Perspectives of cooperation in SME sector



Legislative improvements:

- **The Law on SMB**

A draft law "On Small and Medium Entrepreneurship Development" was prepared and submitted to the Government with proposals and participation of the SMBDA

- **Tax incentives**

Startups Micro business SMB Clusters

- **Updated criteria for SMB**

Micro Small Medium

- **Public utilities**

Access to public utility connection services for SMEs have been simplified.

- **Public procurement**

Public Procurement Law for SMBs have been reformed.

SMBDA has drafted more than 10 legal acts promoting SMEs in the country and providing various government support mechanisms.

Perspectives of cooperation in SME sector



Support Actions:

- **Public Council**

Public Council was established to ensure public awareness about SMBDA's activities.

- **Business Associations**

Active work is underway to strengthen business associations and promote establishment of new associations.

- **Market research support**

- **Support for access to trade networks**

- **Trainings**

- **Model Factory**

Perspectives of cooperation in SME sector

● SMB volunteers

The "SME Volunteers Program" was established to encourage young professionals and students to voluntarily participate in the entrepreneurship development initiatives, as well as increase youth employment potential and involvement in the SMEs. Currently, numerous SMB volunteers operate at SMBDA and SMB Friend Network.

● Support for participation in exhibitions

Supporting the SMBs participation at various fairs, exhibitions and events in scope of "SMB Support Program".



Perspectives of cooperation in SME sector

International Cooperation



● Bilateral relations

Turkey
UAE
Saudi Arabia

Switzerland
Poland
Singapore

South Korea
Russia

Israel
Kazakhstan

● International Institutions

Asian Development Bank
Islamic Development Bank
European Union
KPMG

United Nations
OECD
GIZ
Price Waterhouse

KOICA
Ernst & Young
Deloitte
IFC

Proposals for cooperation



- organizing joint economic events with participation of SMEs from both countries (business forums, exhibitions, fairs);
- exchange of information on potential investment projects in both countries on tourism, ICT, innovations, food processing, attract more Japanese investments to Azerbaijan;
- establish cooperation with Small and Medium Enterprise Agency of Japan and SME Support Japan, bring advanced technologies to SME's activities;

Proposals for cooperation



- Partnership with Japan International Cooperation Agency (access to finance for SMEs in Azerbaijan, public-private partnership projects, SME Development Funds under our Agency;
- Cooperation with Japan External Trade Organization and ROTOBO (facilitate participation of Japanese companies in related sectors of economy of Azerbaijan, organize mutual business missions and B2B events);
- study and site visits for our SMEs to Japanese companies to increase their skills and knowledge and apply new technologies in their further business operations.

Ⅰ. アリエフ・バクー国際海洋貿易港 社長顧問 報告「バクー港～あなたのためのユーラシアのハブ」

両議長、そしてご出席の皆様、本日はバクー港についてご説明する機会をいただきまして誠にありがとうございます。

国際輸送ルートの十字路口に位置し、シルクロードの時代より輸送ハブとしての役目を担い続けてきたアゼルバイジャンは、域内最大の輸送・貿易ハブになる可能性を大いに秘めています。

スライドに東西輸送回廊（East-West Transit Corridor）が示されていますが、これは中国あるいは中央アジアと欧州間を最短で結ぶルートとして注目されています。また同じくスライド上に示されている南北回廊（North and South Corridor）は、湾岸諸国や南アジア諸国からイランやアゼルバイジャン、そして北欧諸国を結ぶルートとして、やはり期待されています。中国の「一帯一路」政策によって新シルクロードが現出しつつ中、輸送ハブの存在が益々重要視されてきております。スライド上にもある通り、ホルゴスやアクタウ（カザフスタン）、トルクメンバシ（トルクメニスタン）、メルシン（トルコ）、バンドル・アッパース（イラン）、ヴァルナ（ブルガリア）、コンスタンツァ（ルーマニア）などが新興のハブ拠点として開発が進んでいますが、バクーはこれらハブの中心に位置し、まさに名実ともに「一大ハブ拠点」となっています。

さて、バクー港のグランド・ハブ・ビジョンについてご説明したいと思います。この構想では、特別法制度の下、港、自由貿易区（FTZ）、アリヤート地区、アプシェロン半島に所在する石油化学産業、そして種々の戦略的輸送・非輸送プロジェクトを相互に関連させることで統合的な発展を目指します。アゼルバイジャンは欧州とアジアを繋ぐ商業的な架け橋としてだけでなく、ユーラシア大陸における主要な輸送・貿易ハブになるポテンシャルも秘めていると確信しています。すなわち、バクー港とFTZが、サプライチェーンの中の一点としての地位に甘んじるのではなく、域内における一大ハブ拠点として機能し、南コーカサスや中央アジア、イラン、南ロシア、トルコといった周辺市場へ広範な物流サービスや高付加価値サービスを供給できるようにすることが、我々の目標です。

グランド・ハブ・ビジョンの根幹部分を成すひとつが、港の拡張計画です。既存の港は拡張性が限定されているため、アゼルバイジャン政府は港をアリヤート地区へ移すことを決定しました。アリヤート地区には鉄道および高速道路が通っているほか、新港からロシア国境まで250km、イラン国境まで200km、中央アジア市場まで400km、トルコ国境まで1,000kmと、周辺市場へのアクセスも至便です。

新港の第一期工事は昨年5月に竣工し、RORO船専用バースや国際フェリー専用バース、コンテナバース、コンテナヤードが拡充されました。工事後のコンテナ取扱量は1,500万tにまで増加しております。現在では第二期の工事が開始されており、コンテナ取扱量が最大2,500万（50万TEU）にまで拡大する見込みです。実現すればカスピ海地域における最大規模の港になります。スライド「Port of Baku at a glance」には2018年のバクー港の統計が示されていますが、2019年9ヵ月過ぎた時点で、すでにこれらの数字をすべて上回っています。

グランド・ハブ・ビジョンのもう一つの根幹部分が、FTZに係る施策です。2016年9月7日、アゼルバイジャン政府はDPワールドとBCGとの間で、FTZ創設に関する役務提供協定を結びました。ご存知の通り、DPワールドはジュベル・アリー港をはじめとした65の港湾とFTZを運営して

いる世界屈指の港湾オペレーターです。そして我が国に創設されたFTZには、最も先進的な法制度が適用されています。FTZ創設の主眼は、アゼルバイジャン経済の多角化、新規ビジネスの開拓、そして雇用の創出にあります。また魅力的かつ競争的なビジネス環境が整備されることにより、非資源分野の外国投資家誘致を加速できますし、国家予算における非資源分野のシェア拡大も期待できるでしょう。

FTZのメリットととして、第一に地理的優位性が挙げられます。先に述べた通り、アリヤート地区の近隣には巨大な消費者市場が存在しており、それらへのアクセスも良好です。第二にアゼルバイジャンの経済的競争力です。我が国は最も競争力のある経済ランキングで138カ国中38番になっているほか、労働市場の効率性ランキングでも26位と上位に位置しております。事実、アゼルバイジャンは域内で最も労働力の安価な国のひとつとなっています。イラン市場について少し言及しますと、同国北部の人口の25～30%がアゼリ語を話すため、我々と同じ言語でコミュニケーションをすることができます。そこで、もしFTZが国境近辺に設けられれば、新たなビジネスチャンスを広げられるのではないかと考えております。

FTZの最大のメリットは、税制上の優遇措置を受けられることでしょう。入居企業は所得税や関税の免除・減税といった特典を享受することができます。また、ワンストップでさまざまな登録や事務手続きが行えるというサービスもあります。そして、独立した仲裁センターも存在しており、外国投資家が安心して事業を行える環境が用意されています。

アゼルバイジャンの既存の危険物保管倉庫は、残念ながら現状国際基準を満たしていません。その代わり、我々は外国投資家へ石油化学設備や共用の供給基地を提供することができます。2001年から今日に至るまで、我々はアゼルバイジャンで活動する大手石油ガス企業向けにそれらを提供し続けています。

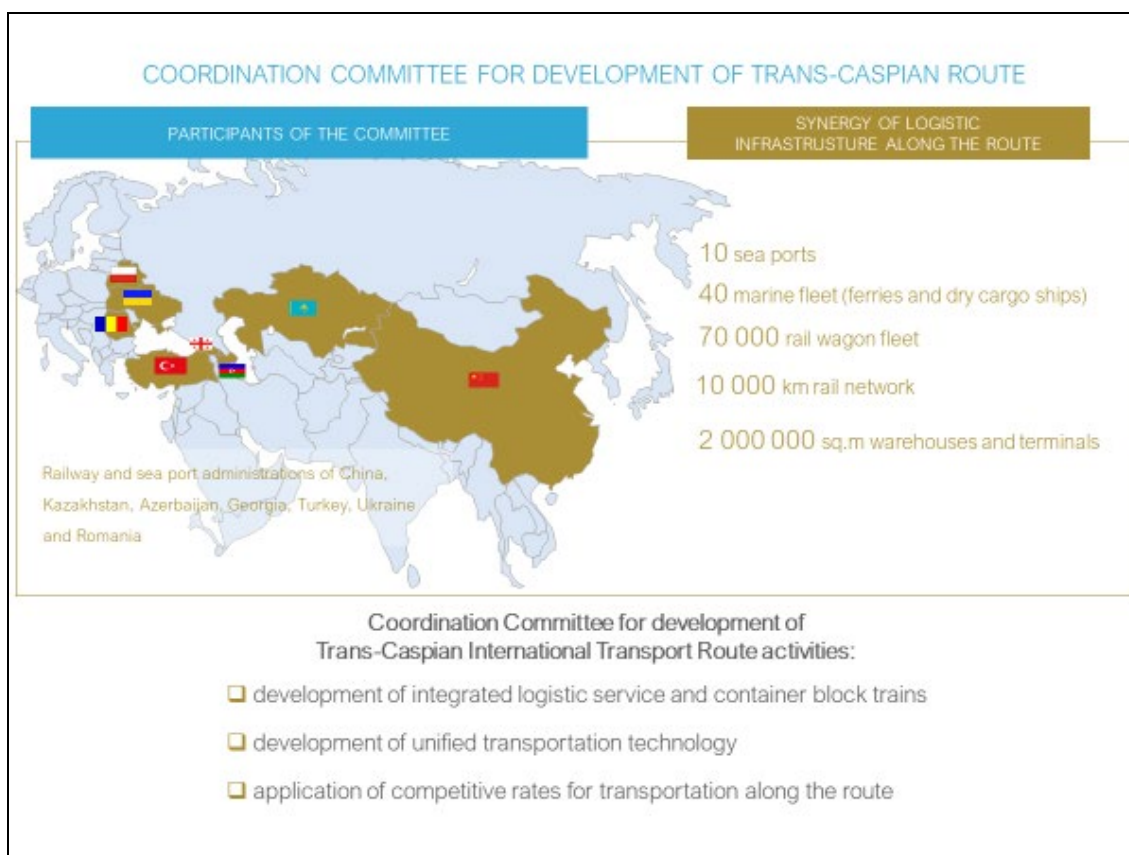
高付加価値サービスの提供も重要です。トランジット輸送貨物に係るサービス提供は、どの国際港にとっても基本的なビジネスですが、加えて半製品の組み立てや加工、ラベリング、保管といったサービスを将来的に提供できるよう体制を整備しているところです。

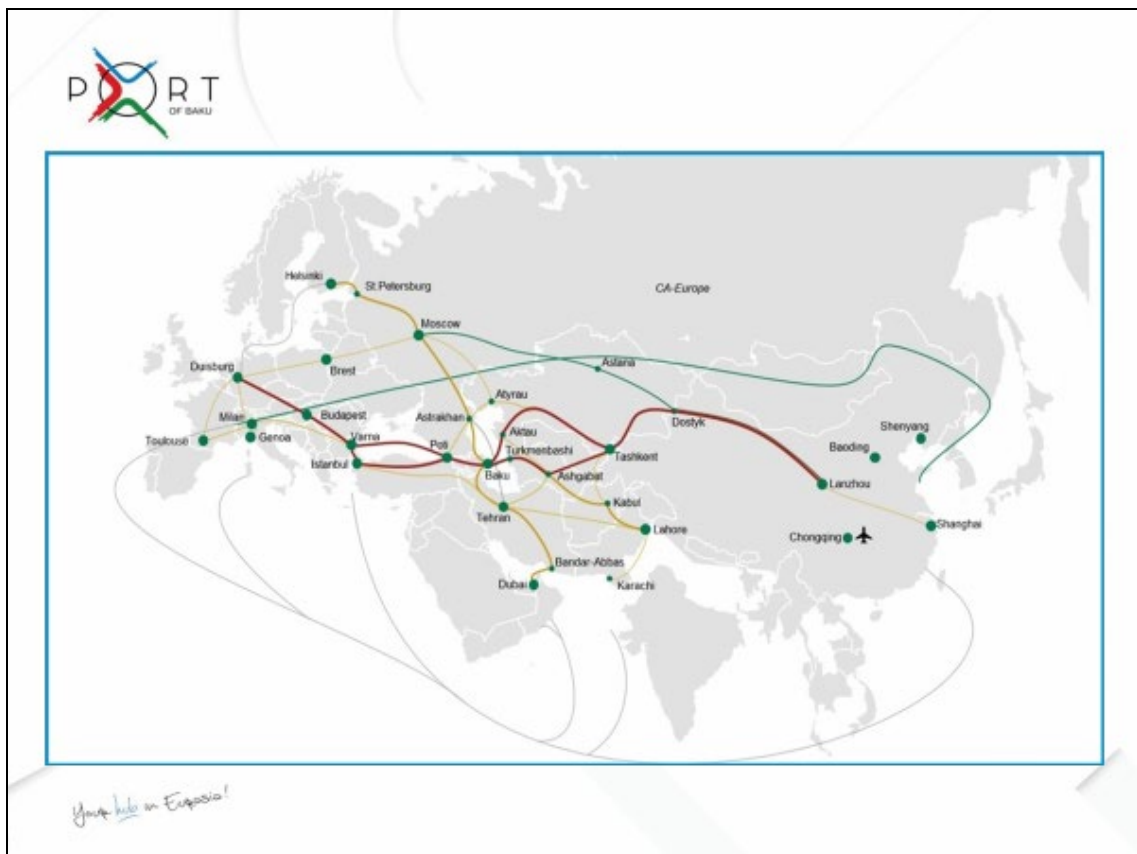
産業クラスターの集約と統合もまた我々が重視している点です。多くのメーカーは消費者市場の近くで製品を完成させることを望む傾向にある点に鑑みれば、アリヤート地区は最適な場所であることに疑いありません。先に申した通り、アリヤートから1億3,000万人の市場へ容易にアクセスすることができます。スライド「Potential Clients」では、FTZにおける潜在的なクライアント候補が分野ごとに示されています。

2019年10月16日、バクー港は欧州港湾機構（ESPO）によりグリーンポート認証を与えられました。グリーンポート認証を有する港はカスピ海地域ではバクー港のみであり、エネルギーの効率化や自動化などグリーンテクノロジーを積極的に導入する取り組みが評価された証でもあります。

最後になりますが、我々には非常に魅力的で競争力のあるビジネス環境が整っていることはすでに述べた通りですが、加えて、政府の強力な支援や法整備が確立している点も極めて重要であり、外国投資家は強い確信を持って事業を行うことができます。ご清聴ありがとうございました。

(※以下、報告資料より一部抜粋)





The Port's Hub Strategy

"The Port of Baku grand hub vision includes an integrated development model that links the port, Free Trade Zone, petrochemical industry, the Alat township and other strategic transport and non-transport projects under the umbrella of a Special Legal Regime (e.g. Production Sharing Agreement)."

We've been serving you as a hub alongside the ancient silk road... we still do!

ALAT
The new Port of Baku



The Port's Location



ALAT
LOCATION IDEAL

To and from:

- the West (Turkey & EU);
- the East (Central Asia, China, Japan);
- the South (Iran & India);
- the North (Russia & Northern Europe).

By rail, road and the Caspian sea

FREE ECONOMIC ZONE

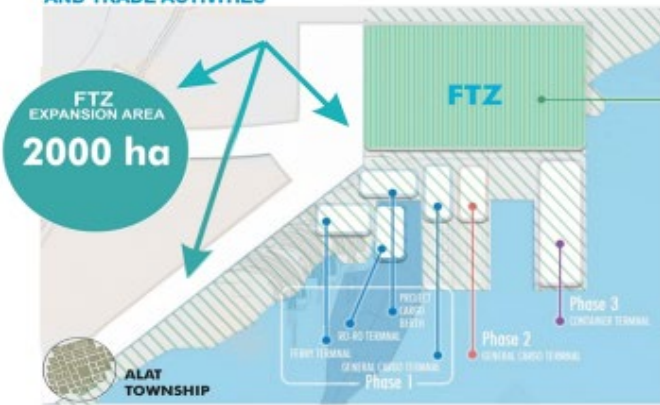
- Special Legal Regime;
- Tax & customs incentives;
- One-stop shop;
- Transport and logistics cluster;
- Packaging, labelling and consolidation;
- Oil & gas supply facilities;
- Offshore supply facilities;
- Manufacturing;
- Pharmaceuticals.





Phased Development of the Port of Baku at Alat

FOR LOGISTICS INTENSIVE INDUSTRIES AND TRADE ACTIVITIES



FTZ
EXPANSION AREA

2000 ha

The New Baku International Sea Trade Port at Alat is being built over an area of 400 ha in 2 phases.

120 ha → 400 ha

Phase	Capacity
1 PHASE	15 MILLION TONS of general cargo +100.000 TEU
2 PHASE	25 MILLION TONS of general cargo +500.000 TEU
3 PHASE	+1.000.000 TEU

Your hub in Eurasia!



Port of Baku at a glance

Planned area increase:

400 ha.

Additional 450 ha will be allocated for
Free Economic Zone



in 2018

**throughput:
3,8 million tons**



in 2018

42999 wagons



in 2018

21401 wheeled vehicles



in 2018

47736 passengers (+45.2%)



in 2018

22887 TEU containers (+54.4%)



Objectives of Alat Free Trade Zone



Stimulate diversification from oil gas



Stimulate export



Bring best practices and global companies in the country



Increase human development by presence of global companies in the economy



Generate GDP impact and create additional employment



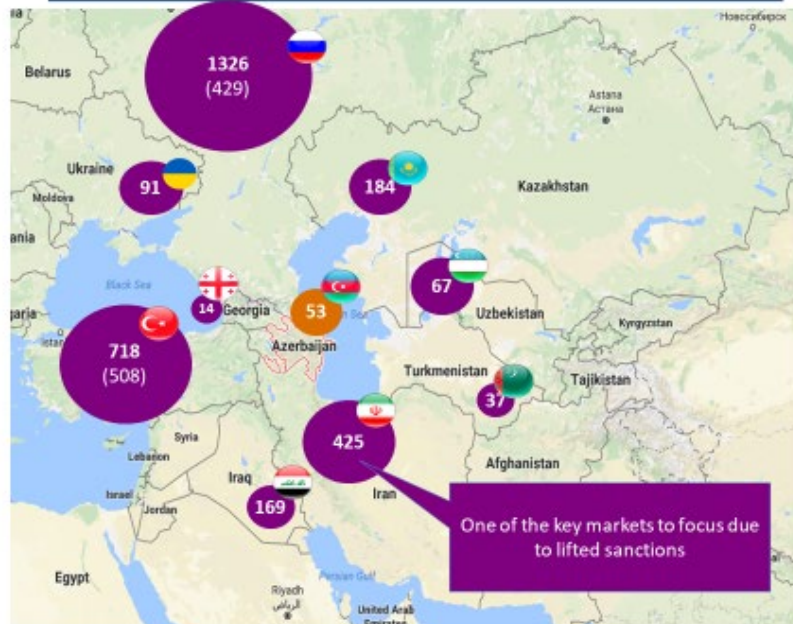
Promote FDI – bring international industrial companies or foreign investments into local firms

Over \$3 trillion of GDP in nearby countries – high potential for export oriented FTZ to be located centrally in Azerbaijan

Regional markets summary

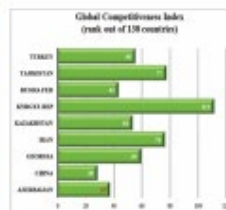
- Azerbaijan economy is relatively small (\$53 bln of GDP) comparing to the biggest countries in the region - **Turkey, Russia, Iran, Kazakhstan** – with over \$3 trillion of GDP
- Over **130mln population** within 1000km radius
- Large imports** into nearby countries creating opportunities for AFTZ
- Most of business opportunities regarding establishment of new green-field industries in AFTZ, shall be **export oriented**

GDP \$B (Imports \$B), 2015



Azerbaijan is the most competitive economy in the region with one of the highest labor market efficiency indicator

	Azerbaijan	China	Georgia	Iran	Kazakhstan	Kyrgyz Rep	Maldives	Tajikistan	Turkey
Global Competitiveness Index (Rank out of 138 countries)	27	28	39	76	53	111	43	11	55
Subindex A: Basic requirements	49	30	46	61	62	108	59	70	56
1st pillar: Institutions	45	41	41	50	49	105	58	40	74
2nd pillar: Infrastructure	31	42	65	59	63	113	55	181	48
3rd pillar: Macroeconomic environment	30	8	40	72	68	98	56	88	54
4th pillar: Health and primary education	73	41	64	49	50	104	62	70	78
Subindex B: Efficiency enablers	59	30	49	59	53	112	58	90	53
5th pillar: Higher education and training	70	34	39	60	57	107	52	70	56
6th pillar: Goods market efficiency	56	56	46	111	62	75	87	71	52
7th pillar: Labor market efficiency	26	39	43	154	20	102	49	53	126
8th pillar: Financial market development	91	56	38	151	104	96	108	187	82
9th pillar: Technological readiness	31	74	65	97	58	117	62	114	87
10th pillar: Market size	63	1	81	79	45	120	5	120	17
Subindex C: Innovation and sophistication drivers	49	29	113	122	70	123	68	90	61
11th pillar: Business sophistication	46	34	102	108	97	118	72	74	83
12th pillar: Innovation	44	30	116	99	59	123	58	46	71



- Azerbaijan is the most competitive economy of the region. It is the 38th most competitive economy in the world, out of 138 countries.
- Azerbaijan ranks 26th in the world according to its labor market efficiency. In fact, Azerbaijan has one of the cheapest labor costs in the region. It is 2.5 times cheaper than labor in China and 3.8 times cheaper than labor in Turkey.
- In addition, the Azerbaijani mostly speak Turkish and Russian, the two large nearby markets that is a significant advantage.

Your link to Europe!



Recent opening of the Iranian market increases the attractiveness of the region

Azerbaijan is well-positioned to become a hub to serve Iranian market



Geographical proximity to the market
Most populated regions of Iran are located close to Azerbaijan



Cultural similarities (approximately 25% of Iran's population comprise of ethnic Azeris)



Ongoing relationship with Iranian companies



Language similarities

Consumer base is located close to Azerbaijan, while most of the production sites are located far in the South



Population density
0-4
10-24
25-49
50-74
75-99
100-149
150-299
1,000+

Further than 1,000 km from AFTZ

Yanq' hile in Euphrat!

Alat Free Trade Zone (AFTZ) value proposition is based on country's fundamental advantages and proposed incentives





Business and Services



Ambient Warehouses –designed with natural ventilation to increase operator efficiency and comfort;



Chilled and Frozen Warehouses – Azerbaijan has a lack of good quality temperature controlled facilities and as such demand for these facilities is high;



Dangerous goods storage –facilities such as these exist in Azerbaijan but not to the international standards even though they may be certified;



Petrochemical facilities –oil and gas storage and treatment;



Common use supply base- logistics services to support BP and other energy firms' operations in Azerbaijan;



Processing/manufacturing- industries of high creation of value such as food processing , building materials, steel treatment;



Value added services –additional activities such as assembling, packing, processing, labeling etc. Such services encompass both logistical and industrial activities;



Consolidation concentration distribution center–serving the markets of the south Caucasus, Central Asia, Iran, South Russia and Turkey.

Your idea in Europe!



Potential Clients



Your idea in Europe!



Green Port and ISO certifications

The Port of Baku passed yet another milestone in 2019 by acquiring the Port Environmental Review System (PERS) certification that is regulated by the European Sea Port Organization (ESPO). The Port of Baku has become the first port in the Caspian basin to hold this proof of quality in practice.

We apply the ESPO environmental policies and guidelines to our business practices and operations, particularly to green guide: Exemplifying, Enabling, Encouraging, Engaging and Enforcing.

We also hold ISO14001:2015, ISO 9001:2015 and OHSAS 18001:2007 certification.



Why Special Legal Regime?



Azerbaijan's economic success in oil sector is President Heydar Aliyev's brand!

1. A valuable product or project (Azeri-Chirag-Guneshli)
2. High level of political support for the project on the level of president Heydar Aliyev
3. An attractive and competitive business climate that brought oil investors and developers to Azerbaijan
4. Production sharing agreement

Yankee hole in Eurasia!



Azerbaijan's economic success in non-oil sector will be President Ilham Aliyev's brand!

1. A valuable product (Alat free trade zone)
2. An attractive and competitive business climate culture that would bring non-oil investors and developers to the zone
3. High level of political support for the project on the level of President Ilham Aliyev
4. Special Legal regime regulating the activities in the zone

木村 顕悟・伊藤忠商事（株）バクー事務所 所長
報告「アゼルバイジャンにおける再生可能エネルギーの取り組み」

皆様、東京によろこそいりました。木村顕悟と申します。バクー事務所のゼネラルマネージャーをしております。まず伊藤忠商事について簡単に説明します。議長およびババエフ大臣が先ほどご紹介いただきましたように、1994年に伊藤忠はアゼルバイジャンへ進出しました。そして1996年に日本企業としては初めてとなる事務所をバクーに開設しました。ACGの油田ガス開発プロジェクトに参加するためです。

さて、私からは当社の非石油・ガスセクターの活動について、すなわち再生可能エネルギー分野における活動についてご説明したいと思います。スライド1ページ目をご覧ください。こちらのスライドで紹介しているのは大規模太陽光発電事業です。BPと伊藤忠はACGプロジェクトで20年以上に渡る協力を通じて、アゼルバイジャン経済の発展に貢献してまいりました。ババエフ議長がおっしゃったように、アゼルバイジャン政府はパリ協定を締結しており、再生可能エネルギーの発電の比率を2030年までに30%に引き上げる目標を掲げました。伊藤忠商事は電力セクターにおいて非常に広範囲な経験を有しております。伊藤忠では世界で10GWの電力資産を保有、あるいは操業しています。アゼルバイジャン全体の発電能力はだいたい7GWになります。したがって、伊藤忠の電力資産は10GWということなので少しだけではありますが、アゼルバイジャンより上回っています。BPと伊藤忠は5GW以上の再生可能エネルギー発電を世界中で保有、あるいは操業しています。BPと伊藤忠は、現在アゼルバイジャンの再生可能エネルギーの目標達成に貢献すべく、大規模太陽光発電事業の共同取り組みに向けて協議を行っている最中です。

スライド2ページ目をご覧ください。こちらのスライドでは我々の協力活動、すなわち小型太陽光発電のパイロット事業について説明します。伊藤忠は環境・天然資源省と協力して、アゼルバイジャンにおける温暖化ガスの削減の取り組みに協力しており、大規模太陽光発電事業に加え、小型太陽光発電のパイロット事業も推進しております。これらは持続可能で環境に優しいプロジェクトになります。

ババエフ議長がおっしゃったように、アゼルバイジャンには10の国立公園があります。伊藤忠はこのうちの二つの国立公園に小型太陽光発電を設置する予定です。サイト1がシルヴァン国立公園です。だいたいバクーの南西部100キロに位置する公園で、発電容量9×270Wのパネルを設置し管理棟に電力を供給する予定です。サイト2はギジル・アガジュ国立公園で、150kmほどバクーから西部に行ったところにあります。発電能力は約5KWで、管理棟と研究所に電力を供給する予定です。伊藤忠はこの小型太陽光発電の設置を年内に完成したいと思っています。

最後のスライドをご覧ください。これがアゼルバイジャンにおける伊藤忠の歩みです。伊藤忠の主な投資活動は、現時点では石油・ガス分野になっております。むろん、ACG石油・ガスプロジェクトに参画しているからです。しかし、我々としては新しいビジネス分野である再生可能エネルギーにも取り組みに挑戦したいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

(※以下、報告資料より一部抜粋)

Mega Solar power project in Azerbaijan



- ❑ BP and ITOCHU have more than 20 years of successful history of collaboration in ACG project and made significant contribution to the economy of Azerbaijan.
- ❑ Azerbaijan aims to increase the portfolio of the renewable energy up to 30% by 2030.
- ❑ ITOCHU owns and/or operates 10GW of power assets in the world. Together BP and ITOCHU own and/or operate more than 5GW of renewable energy globally.
- ❑ BP and ITOCHU are under discussion to collaborate developing a mega solar power project to contribute the Azerbaijani renewable target.

Total capacity of power generation facilities in Azerbaijan

Year	Thermal	Renewable Energy (RE)					Unit: MW	
		Hydro	Solar	Wind	Others	RE total	RE (%)	Total
2000	3,990	922	-	-	-	922	19%	4,912
2010	5,401	995	-	2	-	997	16%	6,398
2017	6,748	1,106	28	16	43	1,194	15%	7,942

Source: State Statistical Committee of Azerbaijan

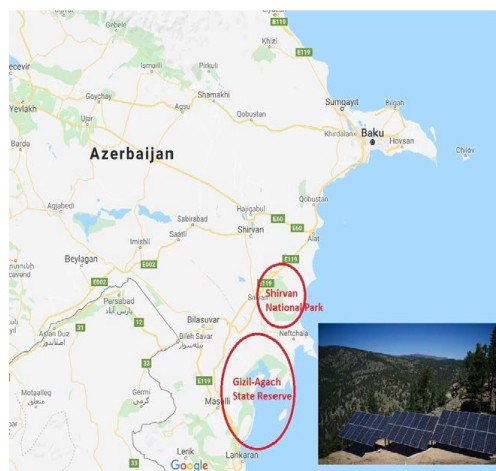
1

Confidential

Pilot project of mini solar power



- ❑ ITOCHU takes initiative to cooperate with the Ministry of Ecology & Natural Resources to reduce the emission of greenhouse gases in Azerbaijan.
- ❑ ITOCHU will implement a pilot project of mini solar power stations to contribute to the further prosperity of the country in a sustainable and environmentally friendly manner.
- ❑ Site 1: Shirvan National Park
Capacity: 9 x 270W panels - 2.43 kW
Supplied to Administrative building
- ❑ Site 2: Gizil-Agach State Reserve
Capacity: 18 x 270W panels - 4.86 kW
Supplied to Administrative building & laboratory



2

Confidential

Overview of ITOCHU in Azerbaijan



- In 1996 Establishment of ITOCHU Oil Exploration (Azerbaijan) Inc.
- In 1996 Participation in ACG Project
- In 1997 Establishment of Baku Representative Office of ITOCHU Corporation
- In 2002 Participation in BTC Pipeline Project
- In 2017 Signing PSA extension agreement for ACG Project (until 2049)

We wish to expand into the new business field of renewable energy for investment in addition to oil & gas sector in Azerbaijan!

3
Confidential

※第一部質疑応答なし

＜報告：第二部＞

N. ジャファロフ・“ADY Container” LLC ディレクター 報告「貨物輸送分野における協力の可能性」

ご出席の皆様、本日はアゼルバイジャン鉄道が参画する国際輸送ルートについて紹介させていただき機会を賜りまして、アゼルバイジャン鉄道を代表して感謝申し上げます。

何世紀にも渡って、カスピ海地域はシルクロードを経由した東西文明の十字路としての役割を果たしてきました。そして、石油・ガスが世界経済のエンジンとなっている今日において、カスピ海地域は再び戦略的意義を有するようになりました。こうした背景を受けて、アゼルバイジャン政府は2005年以来、インフラプロジェクトに90億ドルを投資、また中期的には道路や鉄道、港などの建設・近代化に150億ドルを投資してきました。なお、アゼルバイジャンで最初の鉄道が完成したのは1880年であり、2020年には建設140周年を迎えます。鉄道による石油輸送を初めて実現させたのは我が国であり、現在鉄道路線の長さは2,910km、80%が電化路線、そして60%が自動信号システム導入済みとなっています。

ADY ContainerおよびADY Expressはアゼルバイジャン鉄道の子会社であり、あらゆる地域の様々な産業向けに鉄道と海運を組み合わせた物流サービスを提供しています。アゼルバイジャンの鉄道輸送能力を強化して欧州～アジア間の輸送ニーズに対応するため、我が国政府は東西輸送回廊の拡充プロジェクトを数多く行っています。2017年には、アゼルバイジャン鉄道は2つの域内鉄道インフラプロジェクトを実施しました。一つ目が、バクー～トビリシ～カルス鉄道（以下BTK鉄道）の開通です。総距離849kmの鉄道で、中央アジアからアゼルバイジャン、ジョージア、トルコを経由して欧州へ貨物輸送が可能となります。現在、BTK鉄道の年間輸送能力は約200万tですが、そのうち活用されているのは30%に留まっております。鉄道工事が全て完了すれば、BTK鉄道の輸送能力は5年間で500万tに増強される予定となっています。ロシアを経由する北方ルートでの輸送量が急増していることに鑑みれば、BTK鉄道は欧州と中央アジア、そして中国を結ぶ非常に重要なオルタナティブになると考えられます。

二つ目のプロジェクトが、アゼルバイジャンのアスタラとイランのアスタラを結ぶ鉄道敷設プロジェクトです。こちらも2017年に完成し、総距離8km、イラン側のアスタラ駅ターミナルのオペレーションはADY Expressが担っています。鉄道敷設により、イランからアゼルバイジャンを経由してロシアやバルト海諸国、黒海沿岸諸国へ貨物輸送が可能となりました。また現在では、イラン側アスタラ～ラシュト間を結ぶ鉄道が建設中です。これが完成すれば、湾岸諸国からアスタラを経由しバルト海諸国や黒海沿岸諸国への鉄道輸送ができるようになり、これまで海上輸送で50日間かかっていたところを、20日間に短縮することが可能となります。

さて、トランスカスピ国際輸送ルート（以下TITR）についてご説明したいと思います。TITRは極東と欧州を鉄道で結ぶプロジェクトで、アゼルバイジャン鉄道が中国の一帶一路政策に参加すると同時に始まったものです。また2014年にカザフスタン国営鉄道およびジョージア鉄道と協議を行い、トランスカスピ国際ルート調整委員会を設立しました。同委員会の主要メンバーは、カザフスタン国営鉄道、アクタウ国際貿易港、アゼルバイジャン鉄道、アゼルバイジャン・カスピ海運、バクー国際港、ジョージア鉄道、バトゥーミ貿易港となっています。そして2017年2月

に、同委員会はTITR国際協会を設置し、単一タリフ制度の策定や輸送技術の統一化を図ったことで、TITRのコンテナ輸送量が劇的に増加しました。また他にも、関係国間との貨物列車輸送に関する情報共有システムの開発、ブロックトレインの導入なども実現しました。

メンバー諸国は、インフラ開発や鉄道の管理、物流センターおよび港の効率性向上、輸送スピードの向上、鉄道路線の短縮化に継続的に努めています。具体的には、(1) 2014年より連雲港市の物流ターミナルの管理委託を請け負っています。物流ターミナルの株式49%をカザフスタ国営鉄道が保有しており、中国や韓国からTITR経由で貨物を出荷しています。(2) カザフスタンのジェズカズガン〜ベイネウ間に鉄道を新設し、東西を結ぶ鉄道距離を約1,000km短縮しました。

(3) アクタウ国際港の拡張工事およびクルィク港の新設により、TITRの輸送能力が3,000万t／年以上に増強されました。(4) バクー新港の移設工事とFTZ設置については、先の報告者が詳しく説明した通りです。新港の敷地面積は400ha、うち120haがFTZとなっています。(5) 次世代型フェリーの導入計画が、アゼルバイジャン・カスピ海運によって検討されています。これは最大58台の乗用車を積載できる大型のフェリーとなります。(6) カズモルトランスフロート(カザフスタン海運)が新たにフィーダー船2隻の就航を開始しました。1隻あたりの積載能力は140TEUとなっています。(7) TITRとBTK鉄道とを効率的に接続することにより、南欧や中欧など仕向け地の多様化に取り組んでいます。(8) デンマークの海運大手MAERSKがポチ港〜オデッサ港間のフィーダー船定期就航を開始しました。また現在では、アゼルバイジャン・カスピ海運がポチ港〜コンスタンツァ港間のフィーダー船定期就航開始に向けて準備を進めている最中です。

ADY ContainerはDHLグループと共同で、連雲港市からトルコのマニサまでパイロット鉄道を試験運転しています。連雲港市からマニサまでの輸送所要時間はたったの14日と、海上輸送の35日に比して非常に短いリードタイムとなっています。このプロジェクトは鉄道主体の複合一貫輸送の成功例のひとつだと言えるでしょう。

アリヤート地区に設けられたFTZについて、先の報告者の説明の補足として一言付け加えさせていただきます。FTZはアゼルバイジャンを経由した多国間輸送およびユーラシアのサプライチェーンにおいて極めて重要な役目を果たします。バクー新港は東西と南北の鉄道を結ぶ接続地点に位置するため、FTZとバクー新港は中央ユーラシアの一大物流ハブとして広範な高付加価値サービスを提供することができるのです。

アゼルバイジャンは、日本と西アジアや東欧諸国との間を繋ぐ物流網に対し、多様なソリューションを与えることができます。海上輸送ではなく、アゼルバイジャンを経由した鉄道輸送を選択すれば、リードタイムをかなり短縮することができます。そこで、この場をお借りして、日本の皆様に2つの提案をさせていただきます。第一に、TITRの利用です。TITRを利用すれば、連雲港市から黒海沿岸諸国、トルコ、イランなどへの輸送時間は14〜17日であり、海上輸送の25〜40日より短い日数での輸送が可能です。第二に、ロシア極東の港とアゼルバイジャンや周辺地域との間を定期運行するブロックトレインの整備です。シベリア鉄道の総距離はTITRより長いものの、走行速度が速い上、単一モードであることから、リードタイムはTITRと同じです。こちらの長所は、貨物列車が走る鉄道の軌間が一貫して1,520mmであるため途中で貨物積替えを行う必要がなく、商品の安全性向上が期待できます。また、輸送プロセスを改善することによって、コンテナ取扱量の増加、コスト削減、リードタイム短縮、コンテナの常時追跡サービスなどを実

現し、日本の顧客へ提供したいと考えています。

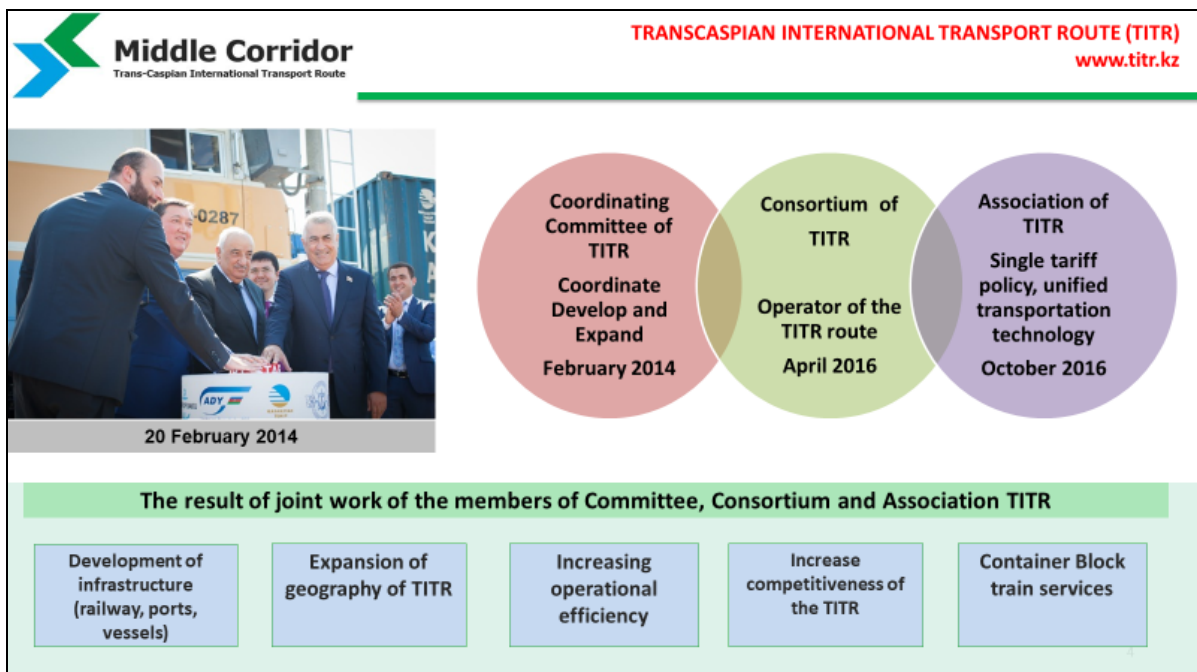
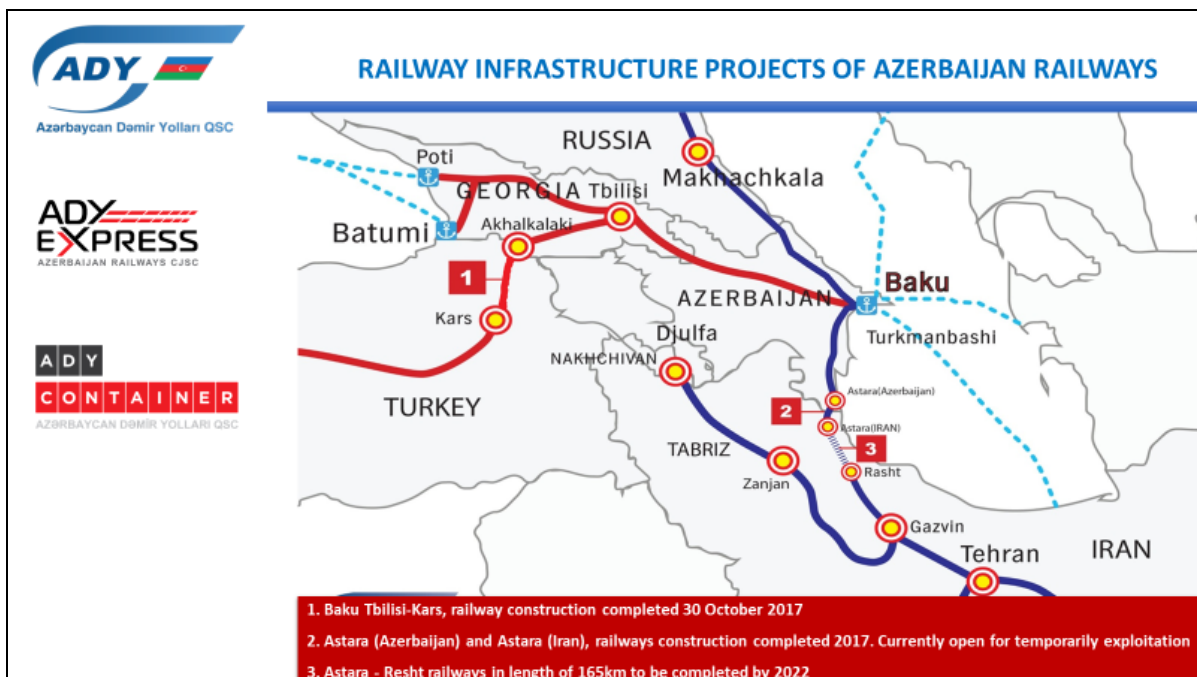
一般的に、日本はフィーダー船を使って中国や韓国の港へ少量のコンテナを輸送し、そこで遠洋コンテナ船へ積替えを行い最終仕向け地へ輸送していると聞いています。ロシア極東港やシベリア鉄道を利用すれば、少量のコンテナを目的国の物流ターミナルまでより迅速に輸送することが可能になるでしょう。日本とトルコあるいはイランとの貿易統計を見ると、ユーラシア大陸を横断する鉄道輸送の活用が極めて大きなポテンシャルを秘めていることが分かります。そして、繰り返しになりますが、アゼルバイジャンは日本とそのパートナー諸国とを結ぶ多面的な輸送・物流サービスを提供することができると確信しています。以上、ご清聴ありがとうございました。

【ババエフ議長コメント】

日本のパートナーの皆様には、TITRやシベリア鉄道を利用した際のリードタイムの短さに特に着目していただきたいと思います。極東からアゼルバイジャンあるいは欧州までの輸送日数は海上輸送に比べ3倍も短いため、皆様にとっても有力な選択肢になると確信しています。ぜひ、本日会議に参加していない日本企業の皆様にも、報告にあった情報を共有して頂けると幸いです。

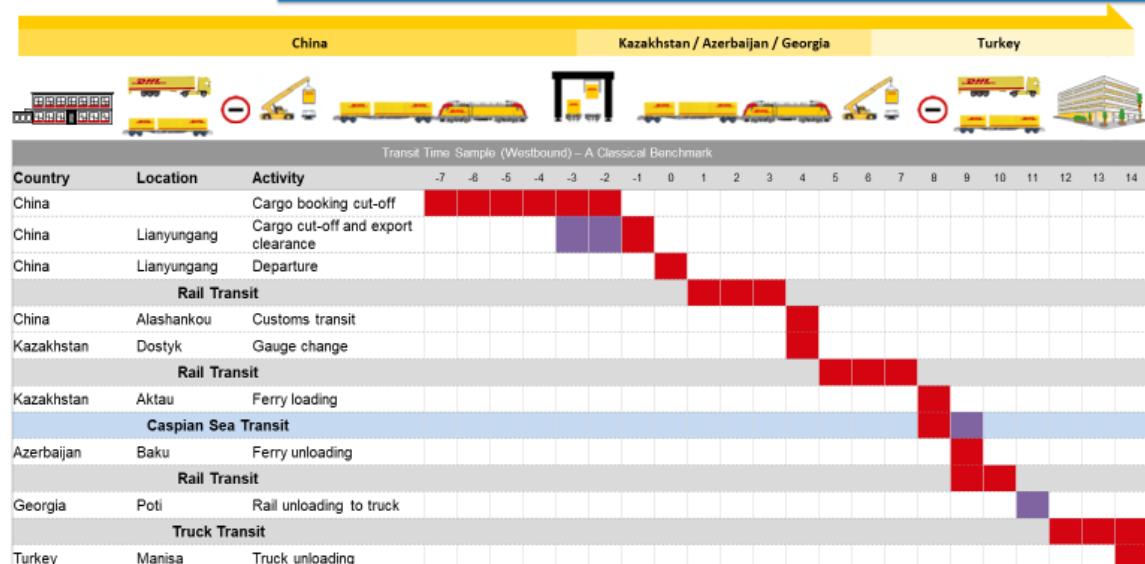
(※以下、報告資料より一部抜粋)

 Azərbaycan Dəmir Yolları QSC	ABOUT US
 AZƏRBAYCAN DƏMİR YOLLARI QSC	The construction of railways in Azerbaijan was completed on 1880.
 AZERBAIJAN RAILWAYS CJSC	Currently, the total length of railway lines is 2900 km, of which 802 km is double-tracks 80% of railroads are electrified 60% of railroads equipped with and automatic signaling system
www.ady.az www.adyexpress.az www.adycontainer.com	ADY Container LLC and ADY Express are subsidiary companies belonging to Azerbaijan Railways CJSC providing logistics services to various industries utilizing rail and sea links across Azerbaijan.
	Our mission is to achieve a large content of rail movements in logistics for all industries in the Caspian Sea, Black Sea, Central Asia regions, Europe and Far East.
	2



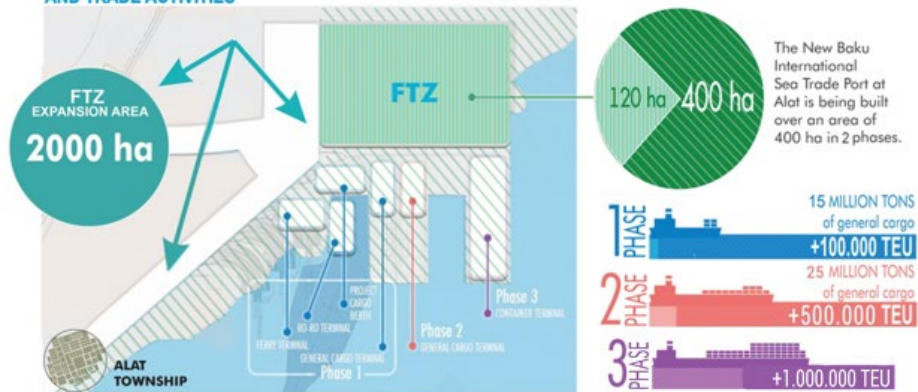
Total capacity of infrastructure along the Trans-Caspian route is more than 30 million tons per year additional transit goods.

Speed for containers block trains more than 1000 km per day



Phased Development of the Port of Baku at Alat

FOR LOGISTICS INTENSIVE INDUSTRIES
AND TRADE ACTIVITIES



7

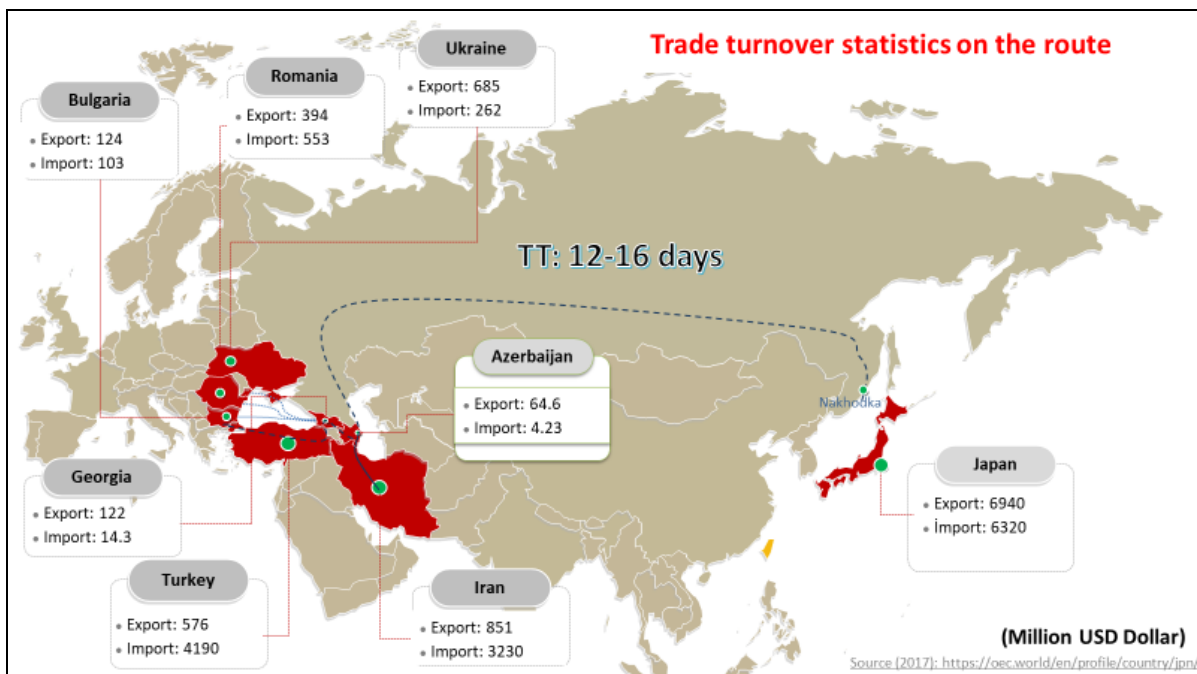
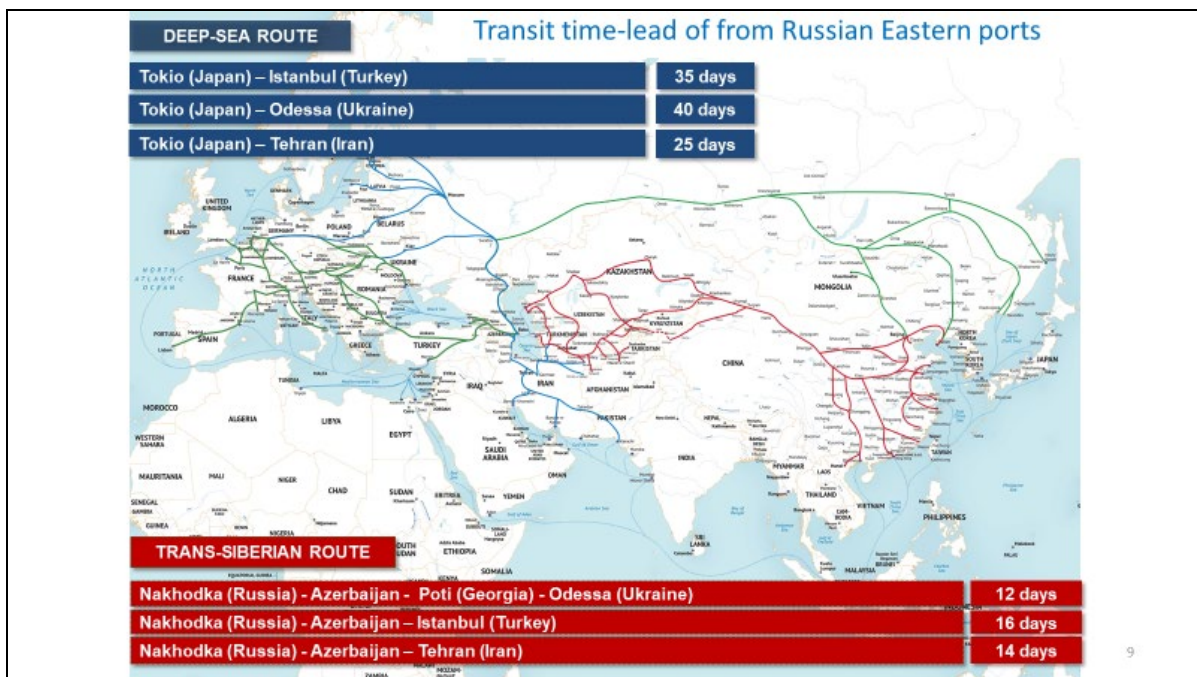
DEEP-SEA ROUTE

Transit time-lead of from Chinese Eastern ports

Tokio (Japan) – Istanbul (Turkey)	35 days
Tokio (Japan) – Odessa (Ukraine)	40 days
Tokio (Japan) – Tehran (Iran)	25 days



8



高澤 直之・(株) エイチ・アイ・エス 法人営業本部
新規事業部第一営業所客員研究員
報告「株式会社H. I. S. が取り組むアゼルバイジャンをハブとした商流形成」

本日は我々エイチ・アイ・エスの新規事業の活動報告にお時間をいただき、ありがとうございます。本事業のプロジェクトマネージャーを担当しておりますエイチ・アイ・エスの高澤と申します。我々のプロジェクトは、本日開催の日本アゼルバイジャン経済合同会議のタイミングに合わせたかのようなのですが、プロジェクト自体は昨年度より、農林水産省及び日本貿易振興機構（JETRO）の支援を賜りつつ、慎重かつ、確実に進めてまいりました。このタイミング、この場で発表できることに感謝しています。

私は、このプロジェクトはこれから日本とアゼルバイジャンを食関連産業で結ぶ新たな位置付けとして考えています。決して日本側だけに利がある訳ではなく、両国の企業が力を合わせる事で、アゼルバイジャンにも波状的な経済効果を生み出す取り組みと考えています。我々は、本プロジェクトに関わる両国の飲食関連企業が、世界の市場を席卷する事を真剣に考えているので、どうぞよろしくお願いします。

今後10年、日本国内での飲食関連市場の成長率はほぼ横ばいとなっていますが、世界の飲食関連市場に目を向けると現在の890兆円から1.5倍増となる1,360兆円となり、その後もさらなる成長傾向にあります。また、世界における日本食レストランの数も、実店舗数として7年間で3.8倍という驚異的な飛躍を見せています。

こうした世界の食関連市場の動向に鑑み、減退しゆく日本の内需要よりも海外における外需要を我々エイチ・アイ・エスが掴みに行くことで、日本の食産業全体が世界で戦う舞台を作る事ができるのではないかと考えました。そしてその舞台を作り整えることこそが、エイチ・アイ・エスの日本企業として日本国内における社会的使命ではないかという考えに至った次第です。

我々エイチ・アイ・エスは、観光ビジネスを主軸としながらも、ホテルビジネス、テーマパークビジネスの横展開も進め、日本国内・海外から認められる企業へと成長しています。我々は観光業＝食産業と考え、世界中で拡大し続ける飲食関連市場の成長性から、今年度から新たに食産業ビジネスに参入することといたしました。これまでの観光事業で養われた、世界69ヶ国・165都市・266拠点に直営店を有する、我々のネットワークを最大限に活用することで、日本企業では例を見ない規模感での営業販売を行える体制となります。例えるならば、今すぐにでも対象商材を世界69ヶ国165都市に向けて一斉に対面営業から販売まで行える強みが我々にはあります。

そこで昨年度より世界の国々を対象として、「物流網」「FTZ」「人口接続率」の3点を重点的に調査し、アゼルバイジャンという国としての取り組みに注目しました。我々が目指す日本食材を供給し、製造ハブ拠点として成りうる国ではないかという仮説を立てました。

物流網に関してはすでに昨年度ジョージア経由の海上コンテナ貨物、シルクウェイ・ウエスト航空の直行航空便カーゴ、大陸横断鉄道のコンテナ貨物といった海・空・陸の3つの物流網のリードタイムおよび輸送価格の抽出と、アゼルバイジャンとの正規通関に成功しています。

特に今年3月に実証した一帯一路構想による大陸横断鉄道での物流実証では、日本→中国→カザフスタン→アゼルバイジャンと陸路物流に関わる全ての国にとって初となる試みのなかで成功を遂げ、我々にとっても大きな成果と自信に繋がりました。

物流網の構築と同時進行で、我々が選ぶ世界戦略商材第1弾として、日本の代表食材と言える「緑茶・抹茶」を選択しました。パートナーとなるアゼルバイジャンの企業はチョコレートメーカーのShirin、お茶や化粧品・健康食品を展開するHarba Floraです。

世界の緑茶市場の成長率を見ていただければわかるとおり、お茶関連商材の加工を得意とするアゼルバイジャンの企業と世界中に販路を構築することが可能なエイチ・アイ・エスとの思惑が一致した形となります。

ここまで説明したことをこの一枚にまとめます。

①我々エイチ・アイ・エスが日本からアゼルバイジャンの企業(Shirin/Harba Flora)へ原材料を供給します。

②物流はシルクウェイ・ウエスト航空をメインとし、物量や価格を考慮して大陸横断鉄道も活用します。

③Shirinは世界的に需要が高まっている「抹茶チョコレート」5種類の製造を開始します。Harba Floraは「緑茶Tパック」の製造を開始。Harba Floraに関しては、来年から販売開始予定の緑茶から抽出される健康食品やコスメの開発も行っています。

④アゼルバイジャンで製造された商品はアゼルバイジャン国内での消費はもとより、周辺国への転送販売も行い、我々エイチ・アイ・エスは主にEU圏やその他の地域での営業販売を強化します。「合計で人口9億人以上の市場開拓を目指す」アゼルバイジャンと日本にとっての共栄プロジェクトとなります。さらに、これはアゼルバイジャン国内で、極めて近い将来に運用開始されるFTZを見据えての先駆的展開となります。

⑤この取り組みの中で、エイチ・アイ・エスの基幹事業である観光業もフルに活用し、日本とアゼルバイジャン間においての観光客の往来を造成、促進を予定していきます。両国の観光客の往来が増す事で、両国の食関連産業が刺激され必然的に貿易物流量が増えると考えています。例えば、日本人観光客がアゼルバイジャン産の羊肉やワイン、ザクロ、サフランなどを知った場合、確実に日本国内での需要が高まる商材であると考えます。逆に、例えばアゼルバイジャンの観光客が訪日する事で、本物の抹茶や緑茶を知り、アゼルバイジャン国内での日本産緑茶関連商品の需要も増加すると考えます。その観光業の往来を持続可能なレベルで実施するノウハウが我々エイチ・アイ・エスにはあると考えています。

ちょうど先週から、日本からアゼルバイジャンに向けてシルクウェイ・ウエスト航空でお茶の原材料の輸出が開始されています。現在、アゼルバイジャンで製造されている抹茶チョコレートと、緑茶のパッケージは、スライド上のようなデザインになっています。こちら左のデザイン伊勢抹茶と伊勢茶のデザインですが、このデザインはエイチ・アイ・エスの世界中の支店のローカルの従業員から、色々とヒアリングをして現地の需要に合わせて考えているデザインとなっています。

5年後の緑茶プロジェクトの目標数値はアゼルバイジャンからの転送販売先国として合計33ヶ国、日本からアゼルバイジャンへの原材料輸出目標額が330万ドル、さらにアゼルバイジャンで加工された商品をアゼルバイジャンから輸出する金額としてはおよそ500万ドル以上としました。

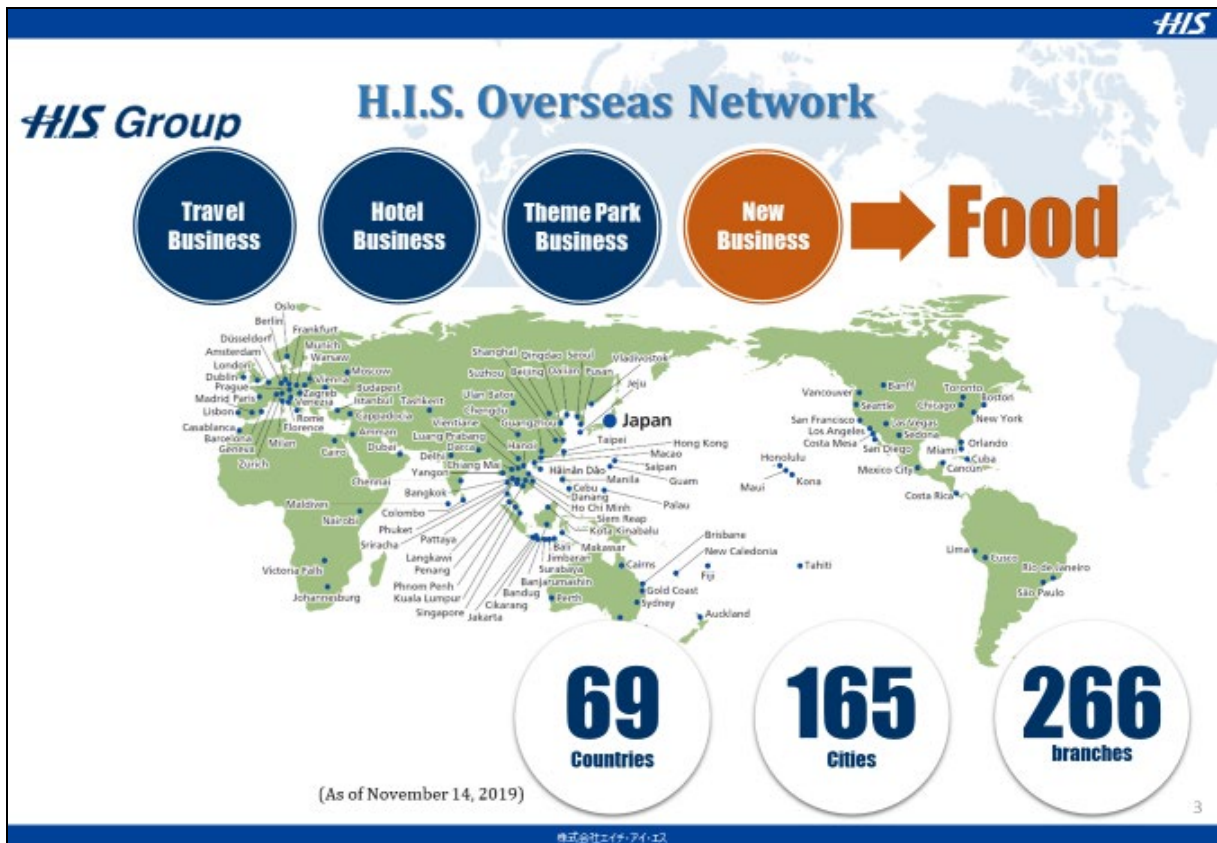
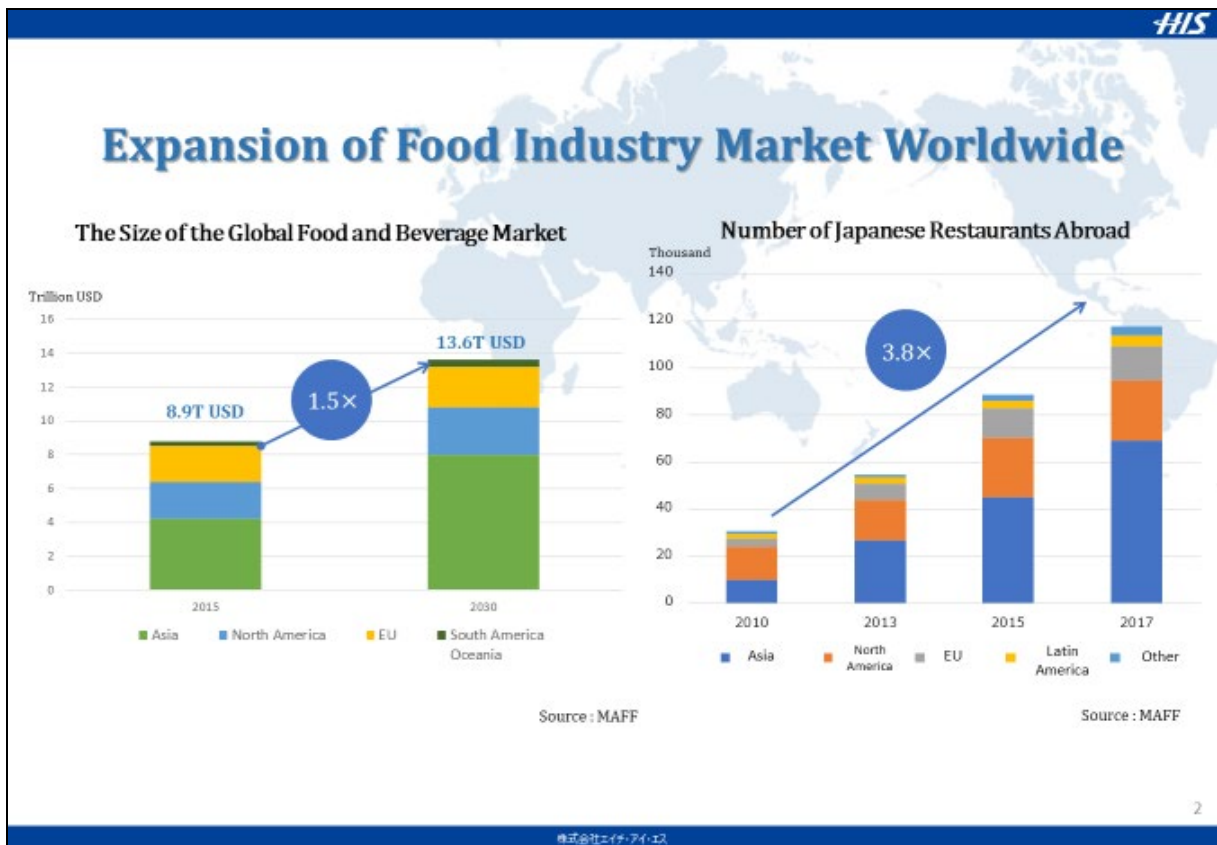
エイチ・アイ・エスの取り組みはこれより世界市場に拡大し、アゼルバイジャンの企業と連携して「現代版・食のシルクロード」を作りにいきたいと思っています。本取り組みに賛同いただ

けるアゼルバイジャンの食関連企業のご紹介も是非お待ちしております。また、我々が共に取り組みたいと考えるアゼルバイジャン企業へのお繋ぎもこの場をお借りしてお願い申し上げます。

最後に、来年1月20日の週には、アゼルバイジャンにおいて本事業の取り組みで製造された緑茶商品、抹茶商品の発表、また現在も輸出開始されている和牛など日本を代表する関連食材の試食レセプションも予定しています。

レセプションの日時詳細が確定いたしましたら、本日この会場におられる皆様を招待させていただければと思います。日本とアゼルバイジャン両国の食産業の幕開け記念日として、是非来年のレセプションにご参加ください。本日はお時間をいただきありがとうございました。

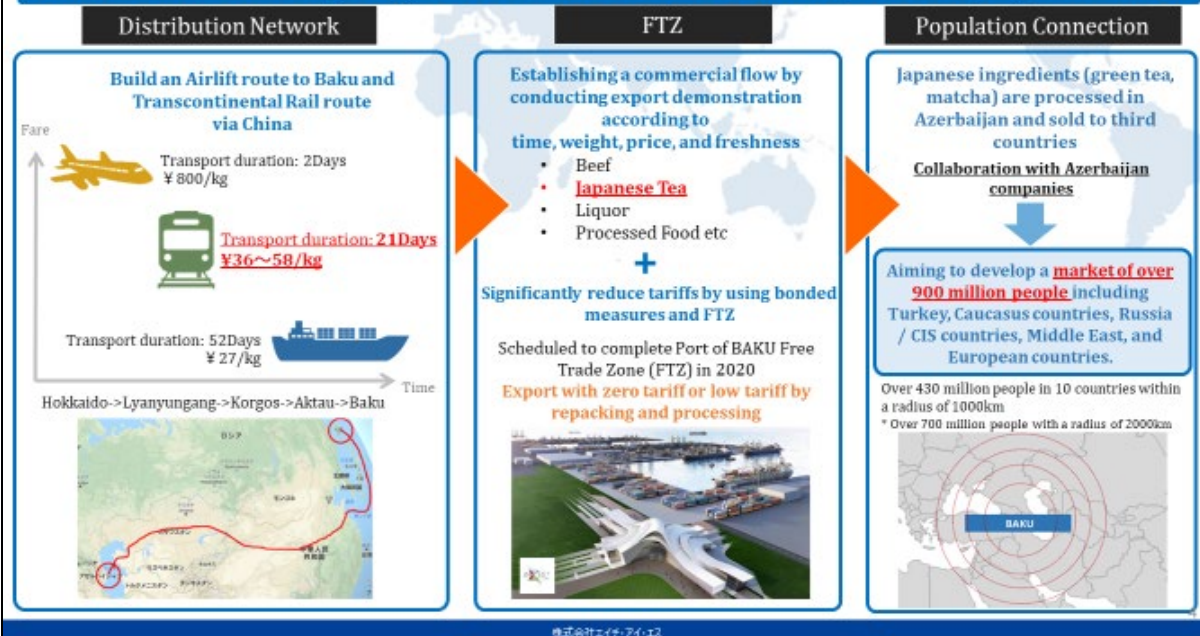
(※以下、報告資料より一部抜粋)



Global product processing and supply model

(Food Value Chain - Pilot verification project on building a comprehensive distribution channel :
Commercial Flow Build-up with Azerbaijan as a hub)

Past and Future: Building a logistics network and commercial flow, to develop a global market



1st Strategic Product : Green Tea

H.I.S. does Sales and Marketing for "Japanese Food" Worldwide

Increased Sales by Local processing and Third-Country Sales

"Green Tea" as the 1st Strategic Products.

Strategic development of "Japanese food" to the global market with Azerbaijan companies which we considered as a hub base.

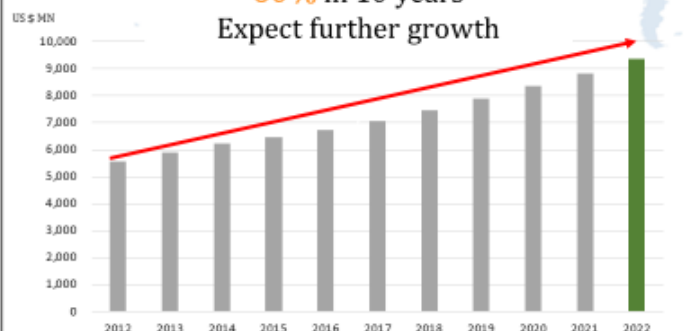
Started a project with a major local chocolate manufacturer "Shirin" and a cosmetic and health food manufacturer "Herba Flora" in Azerbaijan.

SHIRIN
SEVGİ DADINDA



Global Green Tea Market

Expected to **increase**
60% in 10 years
Expect further growth



Source : ITO EN, Ltd. 2018



HIS

Target Figures (Green Tea / Matcha)

Matcha→Shirin*100% Ise Matcha Chocolate
*In 5 years, make 10% of Shirin's total production as the matcha products.
1st Year 75,000 USD
3rd Year 150,000 USD
5th Year 1,875,000 USD

SHIRIN
SEVGİ DADINDA

Green Tea→HARBA FLORA*100% Ise Cha
*Aiming at increasing production (export volume) 10-fold by the 5th year: production of green tea as ingredient for cosmetics items as well as tea bags
1st Year 72,000 USD
3rd Year 144,000 USD
5th Year 1,440,000 USD

HERBA FLORA

Ise Cha
伊勢茶
Green Tea
100% Japanese leaves

1st Year
Further distribution from Azerbaijan: 13 countries
Russia, Romania, Belarus, Georgia, Iran, Iraq, Ukraine, Mongolia, Uzbekistan, Kazakhstan, Turkmenistan, Tajikistan, UAE, etc.,
Export target: about 150,000 USD

5th Year
Increase the sales destination countries from the previously enlisted 13 countries to additional 20 countries in Europe where H.I.S. branches are located.
Export target from Japan: about 3,315,000 USD
Transfer target of processed tea products from Azerbaijan: about 5,000,000 USD

In the future, we will collaborate with Azerbaijani companies on products other than green tea.

Promote food trade and tourism in both countries and build a sustainable business model for export to third countries.

7

株式会社エイチ・アイ・エス

M. アリエフ・Agrarian Credit and Development Agency 総裁
報告「農業分野における協力の可能性」

尊敬する両議長、そしてご出席の皆様、ご挨拶申し上げます。アゼルバイジャンにおける農業の現状と戦略目標、そして二国間の潜在的協力分野について簡潔に報告させていただきます。

まず、農業分野の発展に関する国家戦略ビジョンについてお話します。農業省は戦略目標として、（１）食糧安全保障の確立、（２）輸入代替の推進と輸出促進、（３）地方における雇用機会創出を掲げています。これらを達成すべく、農業省は３つの行動方針、すなわち、Ⅰ.地方住民および農家との緊密な連携、Ⅱ.良き政府（Good Government）であること、Ⅲ.イノベーションの活用、を打ち立て、農業政策を実行しています。

農業省では５つのマイルストーンを設定しています。一つ目が、「アグロ・アナリストィクス」です。これは、新設の農業研究所で実施されている取り組みであり、蓄積された情報や実験データを集約・分析することで政策決定を加速する、あるいはデジタル技術の応用を推進するなどを行っています。二つ目が、「アグロ・ソリューション」です。このほど農業大臣が科学調査・イノベーション研究を専門的に行う研究所を創設し、獣医療施設など９つの農業省傘下の専門機関との連携しつつ、学術研究や農業発展に有効なソリューションの開発に従事しています。三つ目が、「アグロ・ナレッジ」であり、農業付属の大学で農家や起業家向けに人材育成支援を実施しています。四つ目が「アグロ・アシスタンス」と呼ばれるもので、農家や農業分野に携わる事業者に対し広く助成金を交付しています。五つ目が「アグロ・トレーディング」です。こちらは、農家が生産するあらゆる農産品の市場展開を支援するものです。

さて、ここでアゼルバイジャンにおける農業に係る統計データを少し紹介します。喜ばしいことに、2019年の農業成長率は前年比7.1%増と好調な数字を記録しています。またGDPに占める農業の割合は6.2%となっています。しかしながら、農業生産の大半を占めるのが穀物や家畜など一次産品であるため、もし先進的な農産品加工技術を我が国に導入できれば、より大きなインパクトをGDPに与えることになるだろうし、周辺国への農産品輸出拡大にも資することでしょう。

次に、国家による農業支援策についてご説明します。この10年間、政府は農業分野に対し、直接的あるいは間接的に毎年６億ドルの助成金を交付してきました。例えば直接的な助成制度では、2019年では現時点で２億ドル以上の助成金を農家へ交付済みです。灌漑設備や農機の購入に際しては、政府が初期コストの40%を負担します。他にも、国家が利子を負担することで実質無利子となる融資制度も設けられています。また、間接的な助成制度の例では、付加価値税や資産税、輸入税など一連の税負担が免除されます。唯一課されるのが土地税ですが、全体の税比率を見ても土地税の割合はごくわずかなものです。

アゼルバイジャンと日本との農業貿易実績ですが、統計を見れば明らかに少ないことがお分かりでしょう。しかし、我々は二国間には大きなポテンシャルが秘められており、将来的には現在の数字を400倍に増加できるものと信じています。アゼルバイジャンから日本への農産品輸出に関しては、野菜、果物、加工食品、ソフトドリンク、アルコール飲料、タバコ、シルクなどに可能性を見出すことができると思います。

最後のスライドに、今後の日本との農業における協力分野をリストアップしました。官民間問わず、日本の様々な機関・団体と協力が可能だと考えています。もちろん、我々が最も関心を持つ

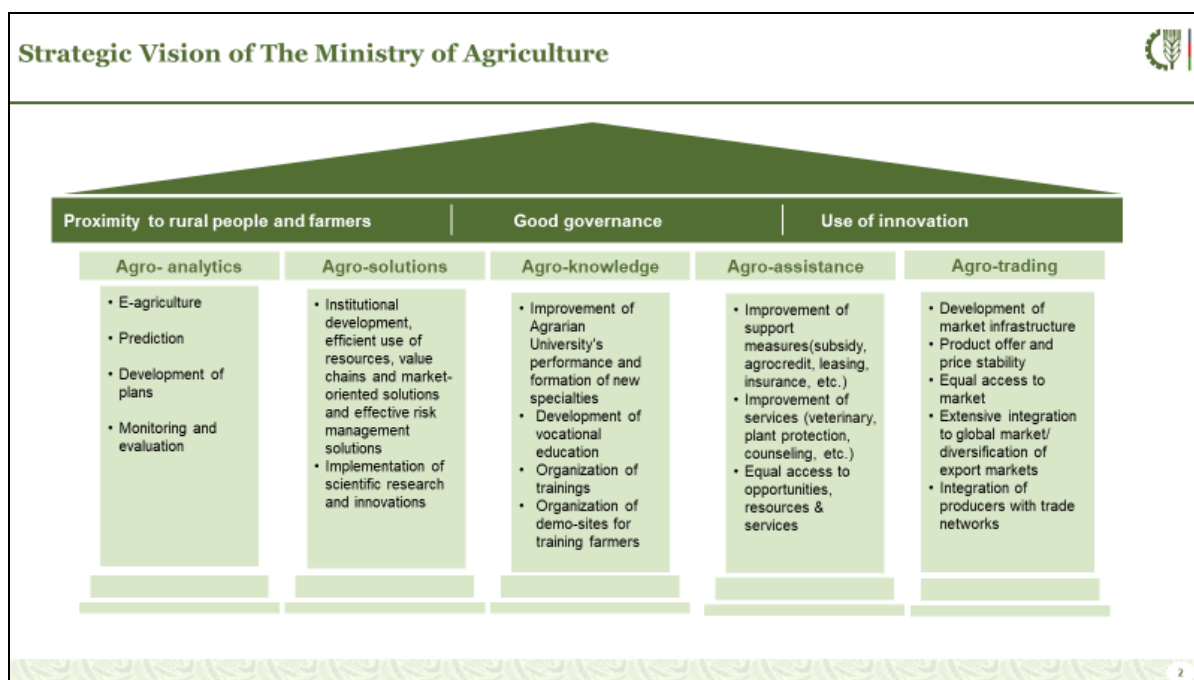
ている分野は、農産品加工における最先端技術の導入です。また研修プログラムや双方の専門家や学生間での経験交流、共同研究なども有望な協力分野でしょう。土壌や水質管理におけるイノベーション開発や共同作業部会の設立、育種や畜産における新技術導入などにおいても、日本企業との協業を心待ちにしております。アゼルバイジャンには税制面での各種優遇制度が整備されており、ビジネスに最適な条件が揃っています。ご清聴ありがとうございました。

【ババエフ議長コメント】

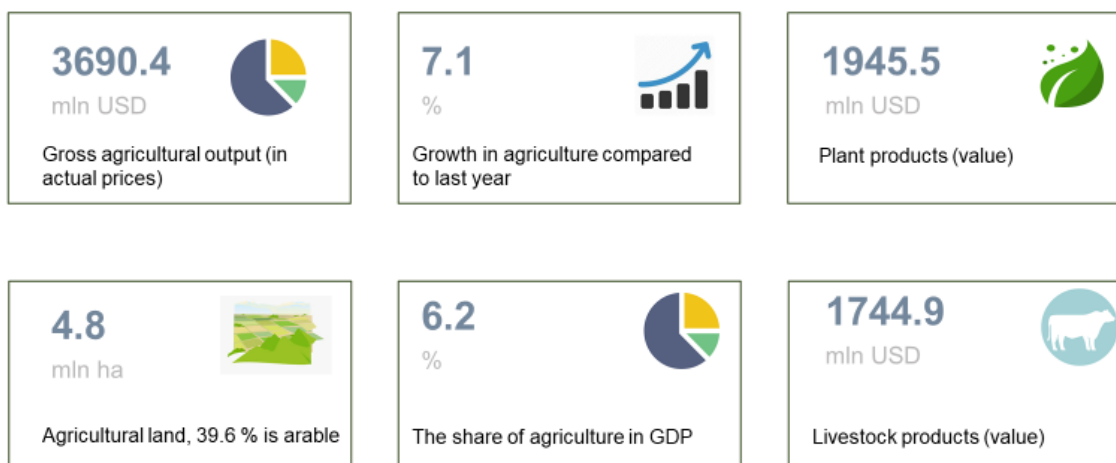
私からも一言補足させてください。アリエフ総裁の報告にあった通り、アゼルバイジャンの農業は急速に発展しつつある分野のひとつであり、すでに多くの投資が官民両セクターからなされています。特に今日において大きな関心事項となっているのがスマート給配水プロジェクト（smart water distribution）です。アゼルバイジャンの水消費量全体のうち国内水資源量から賄われているのはたったの30%のみであり、残りの70%はジョージアやロシア、アルメニアから流れてくる国際河川より取水しているのが現状です。アゼルバイジャンではスマート給配水プロジェクトがすでに開始されており、アリエフ総裁もその責任者のひとりとなっています。もし日本企業の皆様で関心をお持ちの方がいらっしゃれば、是非我々にコンタクトしていただければ幸いです。

また農業分野における技術移転に関してですが、日本の皆様が農業生産の強化・効率化にどのような技術を採用しているのか我々はとても関心があります。アゼルバイジャン側は皆様の経験を学びたいと思っていますし、新規プロジェクトについても密に話し合う準備があります。アゼルバイジャンの農業は今日大きな変革を遂げている最中であり、近い将来に農業分野で素晴らしい成果を得られるものと確信しています。

（※以下、報告資料より一部抜粋）



Azerbaijan's agriculture in figures



3

Support scheme of Agriculture in Azerbaijan



Form of support instruments

Direct agricultural subsidies

Crop subsidy

- Area based
- Output based
- Seeds

Livestock subsidy

- Animal husbandry
- Apiculture
- Sericulture

Production facilities

- Machinery
- Irrigation systems
- Breeding animals

- Producers are exempt from VAT, property and other taxes, apart land tax

Indirect agricultural subsidies

- Tax discounts for producers
- State share of irrigation costs
- Tax discounts on imported goods for agri production
- NFES¹ credits interest subsidy
- Ministry of Agriculture credits interest subsidy

- Taxpayers are exempt from VAT on import, sale and production of agriculture production facilities

¹ National Fund for Entrepreneurship Support (SKTF)

4

Import and export products from Azerbaijan in 2018



Export (million, USD)	Import (million, USD)	Import from Japan (thousand, USD)	Export to Japan (thousand, USD)	Export opportunities to Japan
fruits ¹ 326.3	wheat 205.9	trees, bushes and shrubs 23.7	liquorice juice and extract 205.2	- Vegetables - Fruits - Processed fruits - Soft drinks and alcoholic beverages - Tobacco - Silk
vegetables ² 233.3	cigarettes 152.5	canned fish 12.56	honey 62.46	
tomatoes 177.4	fruits 108.4	whiskey 9.68	pomegranate juice 31.36	
perimisson 114.5	mineral/sparkling water 68.4	sauce and sauce products 6.09	natural grape wines 0.08	
hazelnut 94.1	raw sugar 62.6	fermented beverages ⁴ 3.95	sparkling natural grape wine 0.05	
cotton 80.4	vegetable 56.1			
apple 38.1	butter 55.5			
cherry 37.9	milk/dairy products ³ 50.4			
potato 29.6	tea 49.8			
cotton yarn 23.6	solid waste 49.7			
leather 13.2	cattle 44.8			
tobacco 12.6	palm oil 44.2			
peach 10.6	sunflower oil 42.7			
fruit and vegetable juice 9.6	poultry 38.7			
tea 9.4	potato 38.6			
cucumber 9.1	paddy 36.4			
pomegranate juice 9.0	citrus fruits 27.7			
onion 8.5	banana 26.8			
barley 7.7	maize 12.4			
grape 2.3	sunflower seed 4.0			

SOURCE: MoA, team analysis

¹ Including grape, citrus fruits, hazelnut, banana

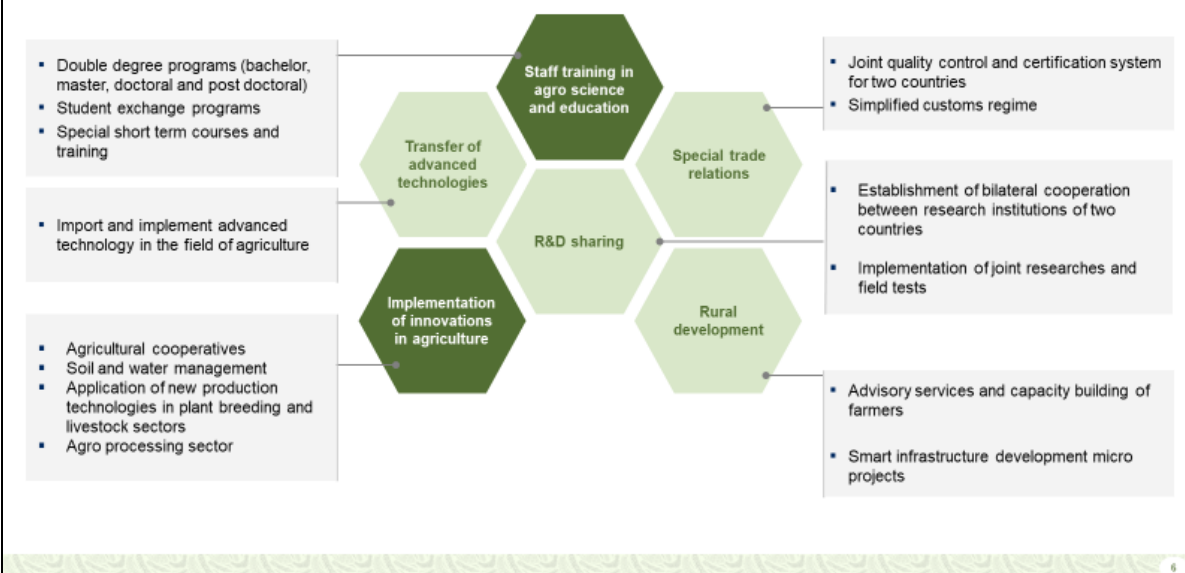
² Including potato

³ Excluding butter

⁴ Cider, penny or pear cider, honey drink, blends of fermented drinks and blends of non-alcoholic beverages with fermented drinks

5

Other areas of cooperation



6

下社 学・(独) 日本貿易振興機構 (ジェトロ)
海外調査部 主幹 (ロシア・CIS担当)
報告「ジェトロの中央アジア・コーカサスにおける取り組み」

ただいまご紹介いただきましたジェトロの下社と申します。ジェトロは日本の経済産業省が策定する対外経済政策に基づき、日本のすべての都道府県および海外50か国以上、70か所以上の拠点からなるネットワークを駆使し、日本と諸外国との貿易と投資を促進する仕事を行っている政府系機関です。アゼルバイジャンには拠点がありませんが、トルコのイスタンブールの事務所が所管しています。本日はジェトロのアゼルバイジャンを含む中央アジアおよびコーカサス諸国に対する主な取り組みをご紹介します。

ジェトロの大きな役割の一つが海外の最新の経済事情を収集・分析し、日本のビジネスマンに提供することです。そのため日本や海外でセミナーを開催しています。最近は忙しくてセミナーに参加できないビジネス関係者のためにウェビナーという形でインターネットを経由して講師がビジネス事情を解説しています。中央アジア・コーカサスに関するセミナーでは、貿易や投資の制度情報や日本企業にとっての新たなビジネスチャンスとリスクに加え、最近では中国の広域経済圏構想「一帯一路」に関する情報にニーズがあると感じています。海外からその国の政府高官が来日する機会をとらえた、日本での投資フォーラムの開催でもジェトロがお手伝いをしています。

その国のビジネス事情を理解するためには、実際にその国を訪れることがとても重要です。ジェトロでは日本や周辺国からビジネス代表団を派遣し、現地企業や商業施設を視察したり、ビジネスマッチングの機会を設けたりしています。ビジネス代表団を派遣する際には相手国のカウンターパートの協力が不可欠です。アゼルバイジャンではAZPROMOがカウンターパートとしてジェトロのプログラムを支援してくれています。写真は2016年にアゼルバイジャンへ派遣した投資環境視察代表団です。参加した日本の各社がアゼルバイジャンビジネス関係者に向け自社の紹介を行ったり、商談を行ったりしました。

ジェトロは日本製品やサービス輸出のため、海外からバイヤーを日本へ招聘し日本のサプライヤーとのマッチングを図る機会を創出しています。分野は機械・設備や食品など多岐にわたっています。日本の優れた機械・設備を導入することで生産性や製品の品質向上が図られるというウイン・ウインの関係構築が期待できます。スライド4は今年9月に名古屋で開催された航空機関係の見本市に合わせてウズベキスタンの国営航空会社から招聘したバイヤーです。会場では熱心な商談が行われ、具体的な成約に向け目下、ジェトロがフォローアップを行っています。

海外からの日本への輸出促進もお手伝いしています。そのプログラムの一つがアジア最大規模の食品見本市であるFOODEXへの出展支援です。中央アジア・コーカサス諸国からはこれまでにタジキスタンのドライフルーツやキルギスのはちみつなどで具体的な成約が生まれています。日本のバイヤーは常に新しい食材を探しています。最近の健康志向や高齢者が多い日本市場の特徴を反映し、オーガニックな食材や小さな個包装に対応した食材に人気があるようです。中央アジア・コーカサスの食材はまだ日本でよく知られていないので、バイヤーに関心を持ってもらうため食材の特徴、つまり原材料や製造工程、調理方法や食べ方、主な効能、他国の製品との差別化のポイントなどを説明した資料の準備が不可欠です。

日本の農林水産物・食品の輸出を加速させるための新たなフードバリューチェーンの形成の取り組みが農林水産省を中心に行われています。ジェトロもこうした事業の一役を担っています。すでにご紹介があったとおりですが、エイチ・アイ・エス様と三重県による取り組みによってアゼルバイジャンという未知の市場に多くの方が関心を持ってくれることを期待しています。

外国企業による日本への投資のお手伝いもジェトロの重要な仕事の一つです。アゼルバイジャンの国際貨物航空会社、シルクウェイ・ウエスト航空が小松空港・関西国際空港に定期便を就航しています。シルクウェイ・ウエスト航空は2015年6月に東京に支店を設立しましたが、同社の日本支店設立に際し、ジェトロではテンポラリーオフィスの提供、支店設立に係る登記、税務、労務のコンサルテーション、行政書士、税理士、社会保険事務所、銀行などサービスプロバイダの紹介等の支援を提供しました。定期便の運航開始により、日本と中央アジア・コーカサス諸国間の輸送需要への対応が可能となりました。主に機械、電子部品、医療機器、薬品、アパレル等の貨物を扱っているということです。

グローバル化が進展する現在、高度な知識・技能を持った人材は国境を越えて活躍しています。日本はこうした優秀な人材を呼び込むことで、さらなる発展をめざしています。ジェトロは高度外国人材の活躍を推進するためのポータルサイトを立ち上げました。アゼルバイジャンの高度人材と日本企業のマッチングの一助になれば幸いです。

以上でジェトロからの報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(※以下、報告資料より一部抜粋)

Buyer invitation program



Copyright (C) 2018 JETRO. All rights reserved.

4

Support for strategic agreement



Copyright (C) 2018JETRO. All rights reserved.

6

Investment to Japan



Copyright (C) 2018JETRO. All rights reserved.

7

2. ガディロフ・アゼルバイジャン輸出・投資促進基金（AZPROMO）投資促進部長 報告「アゼルバイジャンのビジネス環境と投資機会について」

両議長、そしてご出席の皆様、本報告ではアゼルバイジャンのマクロ経済データおよびビジネスチャンスについてお話ししたいと思います。

まずマクロ経済データについて、2018年のGDPは470億ドル、1人当たりGDPはほぼ4,800ドルでした。インフレ率は極めて低く、対外債務額は世界で最も少ない国に数えられます。GDP構成に目を転じますと、昨今の経済多角化の取り組みが奏功し、非資源部門の割合が60%の水準にまで増加しました。2018年の実績では、非資源分野の割合が前年比でわずかに減少しましたが、これは石油価格の高騰に因るものです。投資について、三番目のスライドを見ますと、ここ数年間で多額の投資がなされ、日本も主要な投資国のひとつとなっています。石井会長におかれましては、日本の対アゼルバイジャン投資の促進に尽力して下さっていることに感謝申し上げます。

アゼルバイジャンと日本との貿易関係については、石井会長のご指摘の通り、双方のビジネス・プレイヤーが未だ少ないため、年による貿易高の浮き沈みが多く見られます。今後プレイヤーが増加して、輸出入ともに増加することを期待しています。

先の高澤様の報告ですが、大変興味深く拝聴しました。エイチ・アイ・エスの取り組みについて他の企業にも伝えてほしいとのリクエストがありましたが、是非喜んでアゼルバイジャンの食品加工企業や農業関連企業と共有させていただきたいと思います。またジェトロにおかれましても、エイチ・アイ・エスの取り組みに関連して大きなイニシアティブを発揮して下さいましたことに感謝申し上げます。

さて、アゼルバイジャンのハブ計画については先ほどの報告の通りであり、ここでは詳細を割愛します。改めて地図を見ますと、ユーラシアの十字路に位置するアゼルバイジャンがどれだけ戦略的に重要であるかお分かりだと思いますし、ハブとしての意義が今後益々認識されることを期待しています。また「アゼルバイジャンには然るべきインフラが整備されているのか」という質問をしばしば受けますが、自信を持って「イエス」とお答えできます。国内には1万5,000kmに及ぶ幹線道路が整備され、国際空港も数か所所在しているほか、鉄道や港の拡充が進んでいることは先のアゼルバイジャン側からの報告にあった通りです。

Doing Business 2020を見ますと、アゼルバイジャンは190カ国中34位にランクインし、ビジネスの始めやすさランキングでは9位、融資の獲得しやすさランキングでは1位となっています。これらの結果より、アゼルバイジャンのビジネス環境が良好なものであると判断できるでしょう。

アゼルバイジャンはビジネス志向の政策運営を行っており、現在なお種々の改革が行われている最中です。例えば「ワンストップ窓口」を設置し、許認可取得といった様々な手続きを一元的かつ迅速に行うことができます。また手続きの透明性も改善されたほか、提出書類の数も大きく削減されました。さらに重要なポイントとして、政府が与える許認可はすべて無期限有効であるという点が挙げられます。すなわち、一度許認可を取得すれば、3年や5年といった有効期限に縛られることなく、永久に使用することが可能です。

税制面について紹介します。Doing Businessにも反映されている通り、アゼルバイジャンではここ数年間で税制度が大きく改善されました。例えば農業分野の場合、20年間に渡ってほぼ全ての税負担が免除されます。また、アゼルバイジャンで事業を行う場合、輸出に係る税金は全て免

除となります。

新たな取り組みとして、10番目のスライドに記載のある国々に国営企業の事務所あるいは通商代表部を設置し、各国でアゼルバイジャンへの投資誘致を行っています。

投資環境について、11番目のスライドをご覧ください。スライドには一連の”NO～”が記載されていますが、これらはいずれもポジティブな意味で用いられています。例えば、技術移転に係る規制なし、利益の本国送金に係る制限なし、外資比率の制限なし、などが挙げられます。また、必ずしもアゼルバイジャンでカウンターパートを見つける必要があるわけではなく、自力でビジネスを行っても構いません。これらを総括して一言で言えば、国内と国外の投資家間で制度の差別化をしない、ということになるでしょう。

二国間投資協定についてですが、残念ながらアゼルバイジャンと日本との間に投資協定は未だ結ばれていませんが、現在締結に向けて交渉が進んでいる最中です。他方、二重課税協定についてはすでに締結済みですので、投資協定と共に二国間の経済関係推進の後押しになることを期待しています。

14番目のスライドでは、アゼルバイジャンのインダストリアルパークおよびテクノパークの一覧が示されています。場所によって産業分野や優先分野が異なるため、もし関心のあるものがございましたら、詳細な情報を提供しますのでお申し出ください。インダストリアルパークに関しては、所得税、法人税、土地税および資産税が免除されます。また生産設備の購入に係る付加価値税あるいは関税もゼロとなります。税優遇の期間は7年間です。また、もし何らかの理由で一覧上にある特区で事業を行えない、あるいは行いたくない場合でも、投資促進文書（investment promotion document）の交付によって、希望した場所で事業を行いつつ、インダストリアルパークとほぼ同じ税優遇を享受できます。唯一の違いとして、法人税が0%ではなく10%課されますが、それでも通常課される20%と比べれば、大きなインセンティブと言えるでしょう。

先ほどババエフ議長やアリエフ総裁からもお話しがありましたが、農業は非常に重要な分野になります。アゼルバイジャンには11の気候区分のうち9つが見られ、農業にとって有利な条件が揃っています。また食品産業や一般消費財産業とも共通する部分が多く、産業連関によりそれぞれがさらに発展できると思います。

観光業について、詳細は次の報告者に譲りますが、やはり重要な分野だと考えます。許認可の問題など様々な規制が撤廃されればさらなる発展を見込めるでしょう。

化学産業に関しては、石油分野と密接に関連しているため、重要産業として位置づけられています。機械製造についても同様です。

最後のスライドでは、アゼルバイジャンに進出している企業が示されています。もちろん、伊藤忠商事をはじめとした日本企業も名を連ねています。今後さらに多くの日本企業がこの表に加わることを願っております。

課題についていくつか触れたいと思います。AZPROMOは、どのような分野に協業の可能性があるのかを探るべく、日本の複数都市でロードショー（投資家向け説明会）を実施したいと考えています。これに関して、今後日本のパートナーと議論させていただければ幸いです。加えて、経済産業省の皆様へ一点リクエストがございます。アゼルバイジャンおよびその周辺国で活動している大手コンクリートメーカーが日本のヤマザキマザックよりある工作機械を輸入しようとした際、何らかの制約があるという理由で、日本から直接ではなくトルコの事務所を経由して機

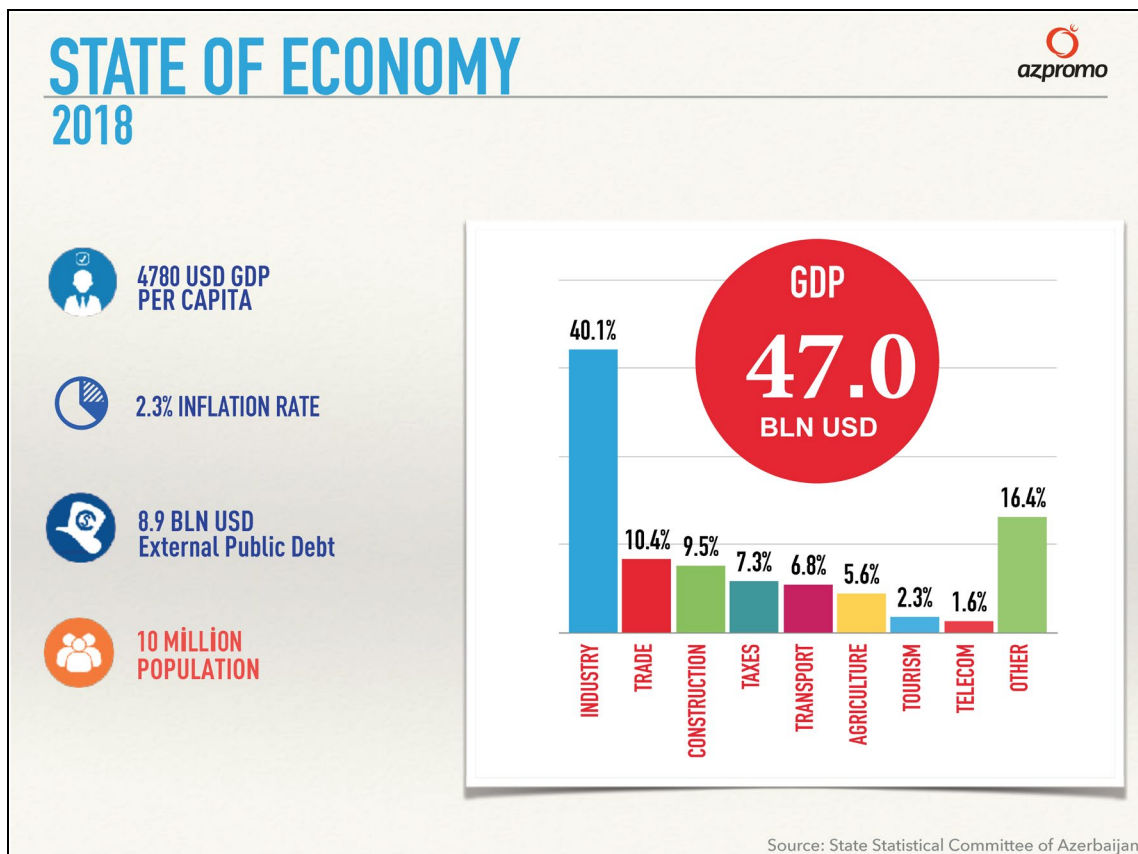
械を納入せざるを得ませんでした。日本の政府、経済産業省におかれましては、こうした制限の撤廃にご協力を賜れば幸甚です。ご清聴ありがとうございました。

【ババエフ議長コメント】

宜しければ私からも一つ補足させてください。プレゼンの中で言及のあったインダストリアルパークやテクノパークに関してですが、こちらはまだ始まったばかりの取り組みです。最初に設立されたのが2011年のスムガイト化学インダストリアルパークであり、私はその特別顧問を務めていました。敷地面積は500haで、現在17社が入居しています。同パークで生産されるものは、石油化学製品からプラスチック、タバコなど多岐に渡ります。またアゼルバイジャン経済省は共同出資の形でインダストリアルパークや経済特区に係るプロジェクトに参画することが可能であり、一定のリスクヘッジとして有効だと考えます。FTZに係るプロジェクトに関しても、現在有望なパートナーを探している最中です。

そして、アゼルバイジャンへの投資をする際には、是非アゼルバイジャンだけでなく周辺市場も射程に入れて検討して下さい。アゼルバイジャンは人口1,000万と小さな市場ですが、近隣にロシアやトルコなど巨大なマーケットが存在します。またロシアやCIS諸国との間にはFTAが結ばれており、関税が発生しません。これらも投資家の関心を惹くポイントになると思います。

(※以下、報告資料より一部抜粋)



ECONOMIC DIVERSIFICATION



DIVERSIFICATION OF
ECONOMY AND DEVELOPMENT
OF NON-OIL SECTORS AS A
KEY STRATEGIC PRIORITY

PRIORITY AREAS

AGRICULTURE AND FOOD

SMES AND CONSUMER GOODS

HEAVY INDUSTRY AND MACHINERY

TOURISM

LOGISTICS AND TRADE

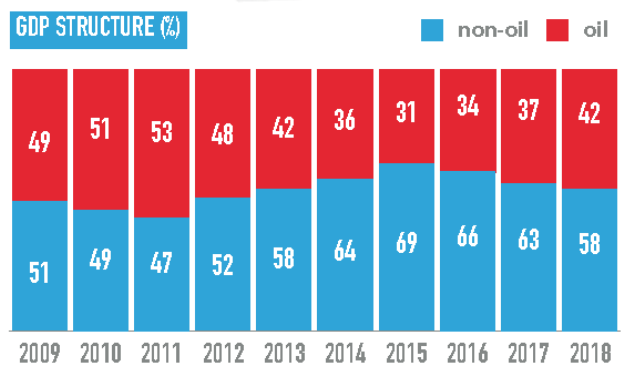
HOUSING

VOCATIONAL EDUCATION

FINANCIAL SERVICES

TELECOMMUNICATION AND IT

UTILITIES



Source: State Statistical Committee of Azerbaijan

INVESTMENT INCENTIVES



1995 - 2018:

263 BLN \$

DOMESTIC:

129.3 BLN \$

FOREIGN:

133.7 BLN \$

TOP INVESTORS



UK



USA



TURKEY



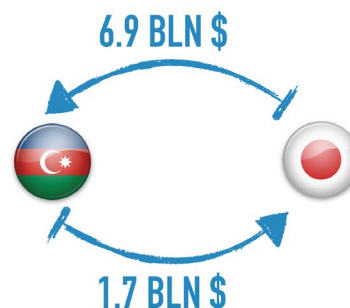
NORWAY



JAPAN



MALAYSIA



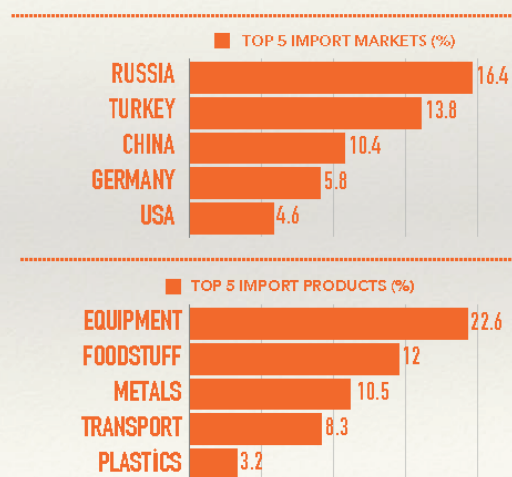
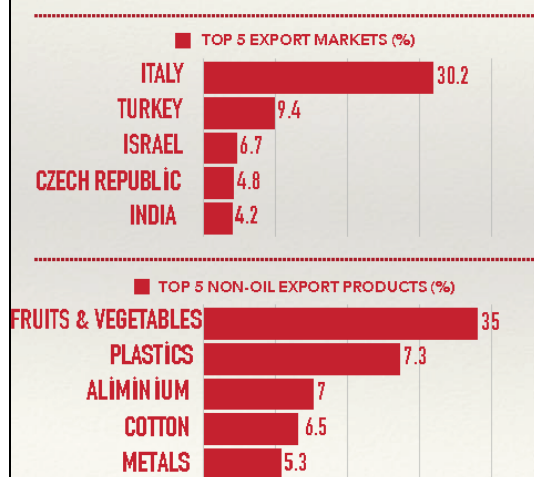
PROVEN TRADING PARTNER



US\$ 19.5 BLN
TOTAL VALUE OF EXPORTS

2018

US\$ 11.5 BLN
TOTAL VALUE OF IMPORTS



Source: State Customs Committee of Azerbaijan

HUGE SURROUNDING MARKET



GLOBAL OUTREACH

50 COUNTRIES WITH 50% OF WORLD CONSUMERS WITHIN 4 HOURS FLIGHT (MEDIUM-HAUL FLIGHT)

FREE ACCESS

CIS + GEORGIA, UKRAINE MARKETS OF 270 MIL CONSUMERS AND 2.1 TRILLION US\$ GDP

TRANSIT HUB

AT EAST-WEST, SOUTH-NORTH AND SOUTH-WEST TRANSIT ROUTS

STRATEGIC ROADMAP FOR THE DEVELOPMENT OF LOGISTICS AND TRADE

PROJECTED SHARE OF AZERBAIJAN IN THE INTERNATIONAL TRANSIT OF GOODS BY 2020

- * CENTRAL ASIA - BLACK SEA ROUTE: 40%
- * CENTRAL ASIA - EUROPE ROUTE: 25%
- * CHINA - EUROPE ROUTE: 3%

EFFECTIVE TIME SAVING ROUTES



WELL DEVELOPED INFRASTRUCTURE



- ✓ 15 THSD KM OF **ROADS AND HIGHWAYS** CONSTRUCTED AND REHABILITATED
- ✓ 6 INTERNATIONAL **AIRPORTS**
- ✓ **BAKU-TBILISI-KARS** RAILROAD ("THE IRON SILKWAY")
- ✓ NEW **BAKU INTERNATIONAL SEA TRADE PORT** WITH CAPACITY OF 10-11.5 MLN TONS OF CARGO AND 50 THSD TEU (TO BE INCREASED UP TO 21-25 MLN TONS OF CARGO AND 1 MLN TEU)
- ✓ CARGO TRANSPORTATION VIA **TRACECA** CORRIDOR INCREASED BY 1.3 TIMES



WB DOING BUSINESS REPORT 2020



OVERALL RANKING

34 / 190

STARTING A BUSINESS

9 / 190

REGISTERING PROPERTY

44 / 190

PAYING TAXES

40 / 190

GETTING CREDIT

1 / 190

ENFORCING CONTRACTS

28 / 190

BUSINESS ORIENTED



REDUCED RED TAPE

- ✓ No state inspections of businesses
- ✓ Streamlined licensing system
- ✓ E-Gov services for business
- ✓ Streamlined public services
- ✓ One-Stop-Shop Systems
- ✓ Low tax burden

NEW REFORM PACKAGE

- ✓ Governance, justice, crime control
- ✓ Macroeconomic environment
- ✓ Human capital & labour market
- ✓ Infrastructure & utilities
- ✓ Financial markets
- ✓ Investor protection & corporations
- ✓ Foreign trade facilitation
- ✓ Technology & innovations
- ✓ Healthcare

EXPORT PROMOTION



No export duties
Export reimbursement
Export grant scheme
Removing trade barriers

TRADE HOUSES

BELARUS
CHINA
UKRAINE
LATVIA
POLAND
UAE

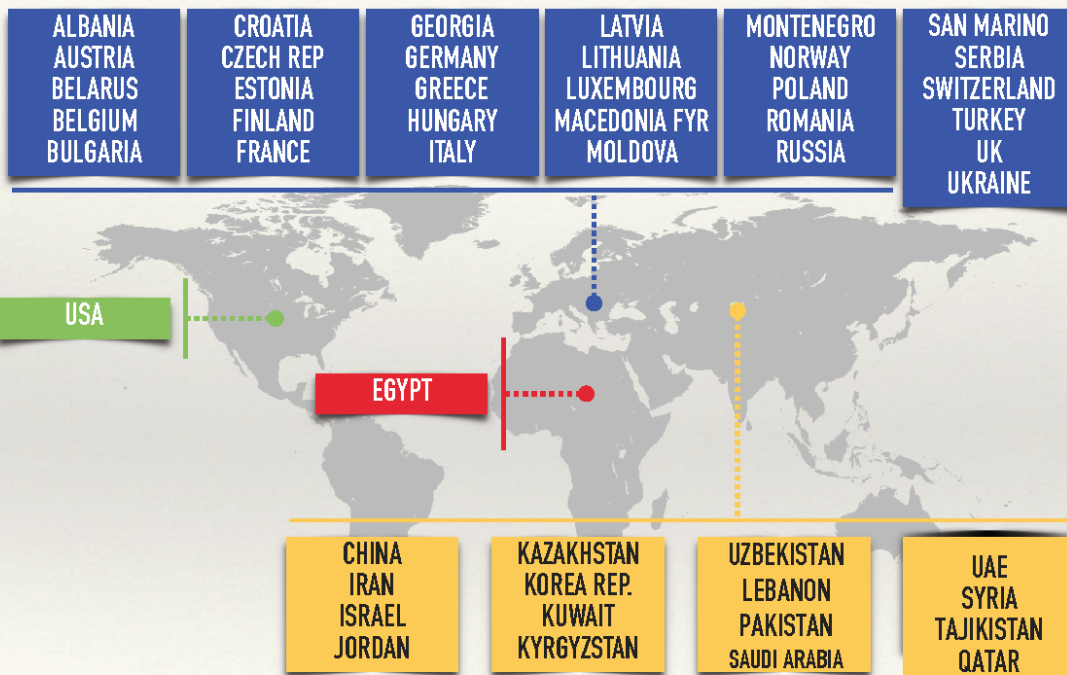
TRADE REPRESENTATIVES

CHINA
UNITED ARAB EMIRATES
EASTERN EUROPE
RUSSIA

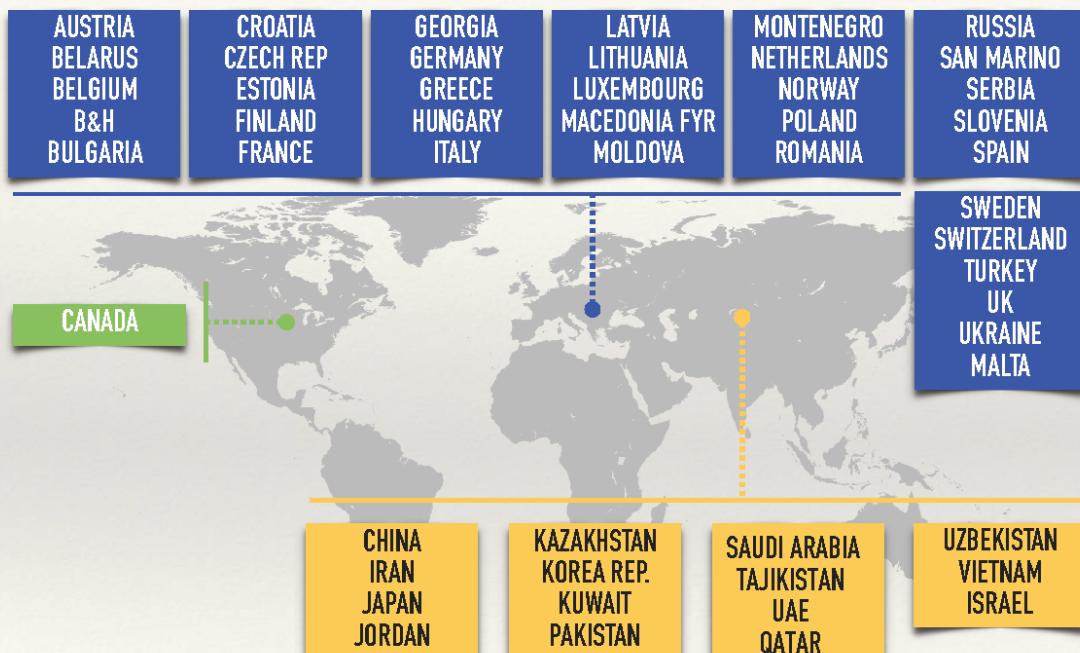
INVESTMENT CLIMATE



BILATERAL INVESTMENT TREATIES



DOUBLE TAXATION TREATIES



INVESTMENT INCENTIVES



INDUSTRIAL AND TECHNOLOGY PARKS IN AZERBAIJAN

	SUMGAIT CHEMICAL INDUSTRIAL PARK	MULTI-INDUSTRY
	BALAKHANI ECO-INDUSTRIAL PARK	WASTE RECYCLING
	MINGACHEVIR INDUSTRIAL PARK	TEXTILE
	PIRALLAHI INDUSTRIAL PARK	PHARMACEUTICALS
	GARADAGH INDUSTRIAL PARK	SHIPBUILDING
	HIGH TECHNOLOGIES PARK (MINISTRY OF TRANSPORT, COMMUNICATION AND INFORMATION TECHNOLOGIES)	HIGH TECHNOLOGIES
	HIGH TECHNOLOGIES PARK (NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES)	HIGH TECHNOLOGIES

INVESTMENT INCENTIVES



INDUSTRIAL AND TECHNOLOGY PARKS

**RESIDENTS OF INDUSTRIAL AND TECHNOLOGY PARKS
ENJOY THE FOLLOWING TAX AND CUSTOMS EXEMPTIONS**

**7
YEARS**

0% INCOME TAX FOR INDIVIDUAL ENTREPRENEURS

0% CORPORATE TAX

0% LAND AND PROPERTY TAX

**0% VAT ON HARDWARE, TECHNOLOGICAL EQUIPMENT AND
STRUCTURES IMPORTED BY IPD HOLDERS**

**0% CUSTOMS DUTY ON HARDWARE, TECHNOLOGICAL
EQUIPMENT AND STRUCTURES IMPORTED BY IPD HOLDERS**

INVESTMENT INCENTIVES



**HOLDERS OF INVESTMENT PROMOTION DOCUMENT
ENJOY THE FOLLOWING TAX AND CUSTOMS EXEMPTIONS**

**7
Y
E
A
R
S**

50% REDUCED INCOME TAX FOR INDIVIDUAL ENTREPRENEURS

50% REDUCED CORPORATE TAX

0% LAND AND PROPERTY TAX

0% VAT ON HARDWARE, TECHNOLOGICAL EQUIPMENT AND
STRUCTURES IMPORTED BY IPD HOLDERS

0% CUSTOMS DUTY ON HARDWARE, TECHNOLOGICAL
EQUIPMENT AND STRUCTURES IMPORTED BY IPD HOLDERS



SECTOR OPPORTUNITIES

- ✓ AGRICULTURE
- ✓ FOOD INDUSTRY
- ✓ TOURISM
- ✓ ICT
- ✓ CHEMICALS
- ✓ MACHINERY



J. タリバザーデ・アゼルバイジャン国家観光庁 国際関係局長 **報告「Azerbaijan: take another look～もう一度見て」**

本日はこのような場を設けて下さいました主催者様、特に日本側の皆様には温かく歓待していただき、心からお礼申し上げます。国家観光庁では、2020年から日本を重点市場として選定することが決定し、積極的に観光プロモーションを行うことになりました。したがって、観光業に関わる日本の潜在的パートナーとコンタクトさせていただき、協力関係を確立できれば幸いです。

それでは、報告に移りたいと思います。恐らく、本日まで出席されている日本の方の大半がアゼルバイジャンについて良く知らないかと存じますので、重要な点だけに絞って説明します。

アゼルバイジャンは長い歴史を誇る国であり、多様で美しい自然、そして固有の文化と伝統を有します。また何世紀にも渡りシルクロードの中継地としても重要な役目を果たしてきました。アゼルバイジャンは南コーカサスとカスピ海西岸に位置し、また11のうち9つの気候区分が国内に存在するため、多様な自然と農産物に恵まれています。世界最大級の泥火山は、多くの観光客が見物に訪れる場所となっています。

アゼルバイジャンへは空路、陸路、鉄道でアクセスできます。バクー国際空港はモダンで洗練された設備が整備されており、英航空サービス会社スカイトラックスからは5つ星の評価を得て

います。

入国ビザに関しては、アゼルバイジャンは現在日本を含む95カ国に対しアライバルビザ制度を適用しており、空港にて電子ビザを申請・取得することができます。またはASANビザシステムと呼ばれるオンラインビザ申請でも事前取得が可能であり、通常5労働日以内、追加料金を払えば3時間以内にビザが発給されます。

アゼルバイジャンが非常に安全な国である点も特筆に値するでしょう。世界経済フォーラムが発表した2017年版観光競争力レポートで、アゼルバイジャンは最も安全な旅行先ランキングで136カ国中35位となりました。

アゼルバイジャンは医療ツーリズムからエクストリームツーリズムまで幅広い旅行形態を提供できます。冬には新年のお祝い、春にはナウルズ、夏にはカスピ海でのレジャー、そして秋にはハイキング、といった具合に年間を通して四季折々の娯楽を楽しむことができます。加えて、ユネスコ世界遺産に登録されている歴史的建造物群やユニークな食文化も、多くの観光客を惹きつけるものとなっています。

首都であるバクーは、歴史的な建造物と現代建築が織り交ざった美しい町です。また、地方部へ行くと、スキーやホームステイ、ワイナリー、スパなどを楽しむことができます。

アゼルバイジャンでは医療ツーリズムを推進しています。具体的には、石油風呂や湯治などによって肌、胃、関節と骨などの疾患の治療を行うことができます。

エイチ・アイ・エスの高澤様が先ほど報告の中でおっしゃっていた通り、まさに観光業=食産業であると思います。アゼルバイジャンでは伝統料理や自然由来のジュースを楽しむことができます。また近年ではワイナリー巡りも人気を博しており、珍しいザクロワインを提供する所もあります。カスピ海のキャビアが有名であることは言うまでもありません。

よりアクティブな旅行を希望するのであれば、ゴーカートやカイトサーフィンゴルフ、乗馬などをお勧めします。特に乗馬に関しては、チョフガンと呼ばれる伝統的な馬術遊戯を体験することも可能です。

ナイトライフも充実しています。バクーでは多くのレストラン、カフェ、パブがあるほか、ジャズやオルタナティブ・ミュージックを楽しめる場所も多く所在します。

さて、我々はMICEの誘致にも力を入れています。MICEはMeeting、Incentive、Conference、Eventの略になりますが、首都バクーのみならず、6つの地方都市でも規模の大小を問わず様々なイベントを開催することができます。ホテルや会場の選択肢も豊富です。MICEや国際イベントの誘致体制をさらに強化するためにアゼルバイジャンではコンベンションビューローが発足しましたが、こうした取り組みが奏功し、2022年の第73回国際宇宙会議開催都市がバクーに決定しました。他にも、F1グランプリやサッカーUEFA EURO 2020といった国際主要スポーツイベントもアゼルバイジャンで開催されています。

最後になりますが、我々は周遊ツアーの提供もしています。すなわち、アゼルバイジャンとジョージア、あるいはアゼルバイジャンとトルコといった2カ国以上をセット訪問する旅行パッケージであり、日本から遠路はるばる訪れる日本人観光客にとっては良いオプションではないかと考えています。それでは報告の締め括りに観光プロモーションビデオをお見せしたいと思います。ありがとうございました。

(※以下、報告資料より一部抜粋)

location



Azerbaijan is located in the South Caucasus, on the western shores of the Caspian Sea. Azerbaijan has borders with Georgia (North West), Iran (South), Turkey (South west) & Russia (North).



how to get here

by air

6 international airports including a brand new terminal at Heydar Aliyev International Airport in Baku

by road

Through:

Russia
Georgia
Turkey
Iran

by rail

Through:

Russia
Georgia
Ukraine



flight connectivity Japan-Azerbaijan

Transit flights

Etihad Airways
Flydubai/Emirates
Gulf Air
Qatar Airways
Turkish Airlines
Aeroflot
S7 Airlines



asan visa

For selected countries

Visa upon arrival: 26\$

For citizens of Japan:

Standard e-visa: 5 working days - \$24

Urgent e-visa: 3 hours - \$50

Single entry: up to 30 days

visa online:

evisa.gov.az

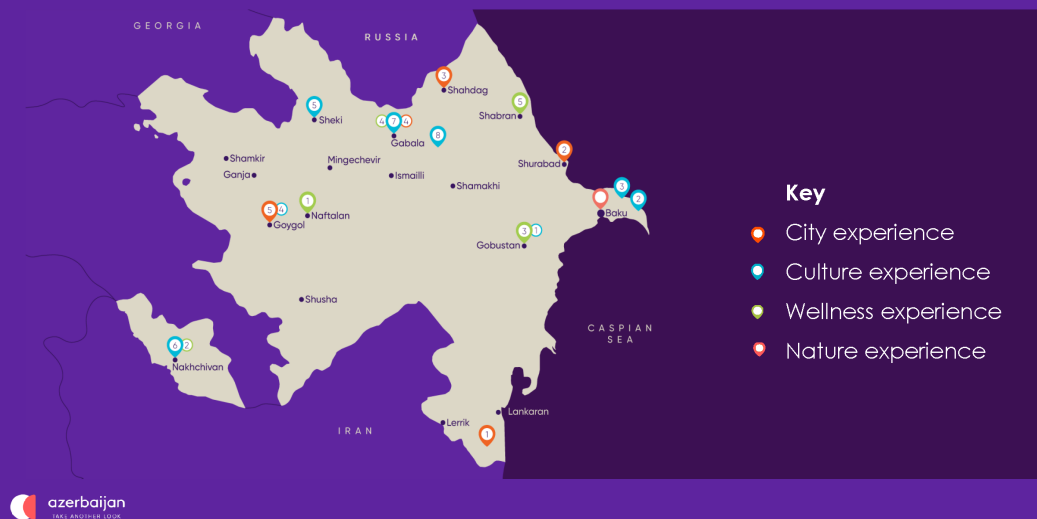
The e-visa must be used within 90 days from the issue date.

The visa grants a single entry for a maximum stay of 30 days.



5

Experience Azerbaijan



6

seasons



December-January

It's a perfect time for a Christmas trip. Christmas celebrations start from the beginning of December on the Fountain Square. Snow in Baku is a rare occasion, but Christmas trees and Christmas fairs help people to get into a festive mood.



February-April

This time of the year is best suited for walks on the streets and business meetings. Spring in Baku is the main and the most spectacular season. In March Azerbaijani people celebrate Novruz – the holiday that symbolizes the rebirth of the Nature.



May

May is ideal for trips to regions and visiting historical sights of Azerbaijan. This period is also won't go unnoticed by shopping lovers because May is when the shopping festival is held.

7

seasons



June–August

The sunny and hot season. Summer in Baku is perfect for people who are tired of long cold Winter. Relax on Absheron beaches and enjoy colorful sunsets.



September–October

The season of hiking, health treatments and business trips.



November

It's time to enjoy the beauty of autumn forests. Wear Layers!



8

modern life *ancient city Baku*

Icheri Sheher

The pearl of Azerbaijan's cultural heritage, has a history of thousands of years and is located in the historic center of Baku.

Ateshgah

The fire-worshipping Zoroastrians left their mark at Ateshgah, where the Fire Temple amazes visitors with its spouts of flame.

Heydar Aliyev Centre

World-famous architect Zaha Hadid designed the crown jewel of our architecture. This astonishing architectural masterpiece is likely to leave you speechless.

Flame Towers

Are a trio of skyscrapers that dominate the skyline of Baku. Our most visible landmark symbolizes the 3 flames from the historic logo of the capital.

salambaku.travel



9

regional opportunities *beyond Baku*

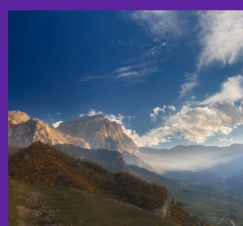
Shamakhi- Ismayilli –Gabala

Shamakhi –mountainous surrounds still hide some fascinating fortress ruins. Several nearby wineries offer tours and degustation.

Ismayilli –stunning nature witnessing the rebirth of Azerbaijani wine. One of Azerbaijan's most ancient villages famous as a handicraft center, especially for its highly artistic copperwares.

Gabala – enjoy skiing, rafting, paragliding, jeep tours and shooting, plus other outdoor experiences. Tufandag Mountain Resort is a must-see place for nature lovers and winter sports enthusiasts. Here, the 15 kilometers of ski slopes provide some unforgettable moments for beginners and professional skiers.

skiazzerbaijan.com



10

regional opportunities *beyond Baku*

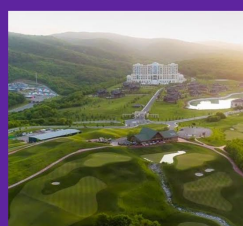
Sheki

Sheki - a former Silk Road city famous for its music and crafts, and a tourist hub at the foot of the Caucasus Mountains. The main attraction is the 18th-century Sheki Khan's Palace, a fabulous example of oriental Azerbaijani architecture.

Guba-Qusar

Guba – attractive with its green nature, forests and mountain areas which is part of the Greater Caucasus Mountains. Khinalig village is over 5,000 years old with its own language, traditions and customs, found nowhere else.

Gusar - is a prime location for skiing and snowboarding, with high-class hotels, interesting local cuisine, which you can try at several roadside restaurants. The rapidly expanding Shahdag resort sits on a glorious shoulder of green mountainside.



11

regional opportunities *beyond Baku*

Medical treatment

Oil bathes

Naftalan oil is a rare type of oil that is used for decades for successful treatment of various skin, joint and bone diseases such as psoriasis, arthritis and rheumatism. A modern 5* hotel and SPA complex offers its guests the whole range of medical treatment and leisure facilities.

Thermal waters

Throughout Azerbaijan's southern zone local healing hot springs, named "Istisu", meaning "hot water" in Azerbaijani are natural treasures of the country. Health resorts treat skin and stomach diseases offering all modern facilities.

Salt caves in Nakhchivan

Overnights in natural caves of salt are used for treatment of asthma and lung diseases. At the same time guests can enjoy 5* hotel services here.



12

unique taste *of traditions*

Mind blowing food

Our national cuisine is very rich. About 2000 dishes are known in Azerbaijan cuisine. Food is being made from natural, fresh products following traditional recipes.

Wine

We've been making wine for thousand of years. The varied terrain of our fast-improving wineries across the country results in a myriad of flavors and bouquets.

azerbaijanwine.com

Fish and caviar

Caspian fish has its own special taste and is best served with narsherb. Beluga caviar is now one of the world's most expensive delicacies.



13

outdoor activities *in beautiful landscapes*

Carting

You can imagine yourself a Formula 1 driver on the largest carting track in Baku - Baku City Karting.

Kitesurfing

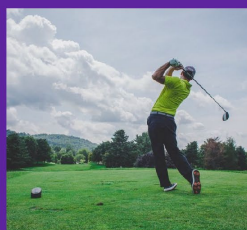
You'll find perfect conditions to learn kitesurfing at the flat water lagoon at Shurabaa, close to Baku. Once you've mastered it in the shallow waters of the lake, take your board out into the open Caspian.

Golf

Baku has a challenging and enjoyable course close to the city center, or you can travel to Quba to play on the National Federation course, which has breathtaking mountain views.

Horse riding

Horses have been a matter of pride and dignity for centuries. Azerbaijan has favorable geographical and climatic conditions for animal breeding and equestrian development. The first presence of horses dates back to 5,000 B.C.E. Nowadays horse tours are popular among tourists.



14

outdoor activities *in beautiful land*

Retro cars

Do you love the vintage lifestyle or are you fascinated by the chance to discover one of the most vibrant cities in the world in one of these vintage cars? Create a lifetime memory in Baku with touch of retro chic!

Jeep tours

Jeep tours are a fascinating and adventurous way to travel around Azerbaijan. Driving through picturesque valleys, rolling hills and shallow rivers, you will love all the beauty that Azerbaijan's nature has to offer.

Skiing

Beautiful views over the Caucasus Mountains, well-prepared slopes with friendly instructors and staff, and a natural scenery of incomparable beauty and harmony.

Helicopter tours

A unique opportunity not only to see the general landscape of the Absheron Peninsula but also to enjoy the feeling of speed, views of Caspian Sea and panorama of Baku from the sky.



15

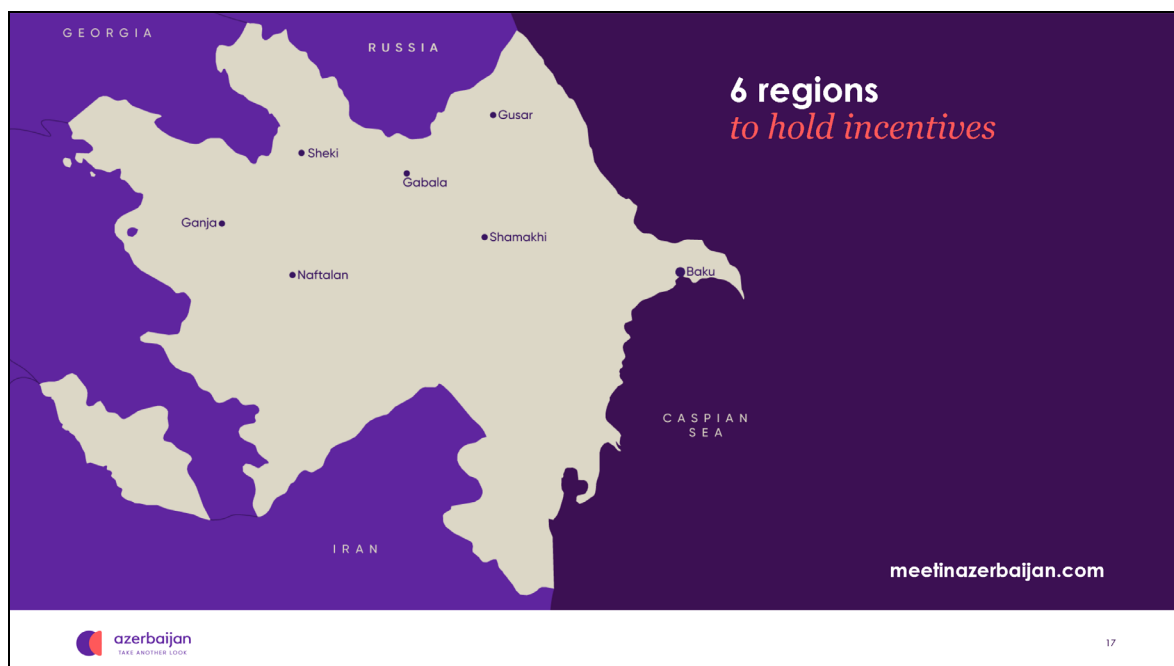
in step with time *on ancient streets*

Nightlife

Colorful streets of Baku are illuminated by signboards of restaurants, coffees, pubs, wine houses and nightclubs. Baku has a thriving jazz community, and DJs from around the world come to contribute to our lively club scene.

Shopping

The malls of Baku have all the luxury brands. But for a real Azerbaijan experience, lose yourself in the color and bustle of a traditional bazaar. Feel the spirit of the Silk Road!



capacities

68 000 people

Maximum capacity of the biggest venue in Azerbaijan

3 500 people

Maximum capacity of the largest Convention Center

596

Number of hotels in Azerbaijan

46 693

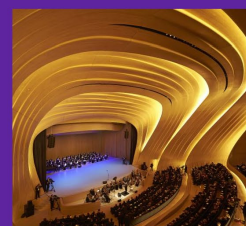
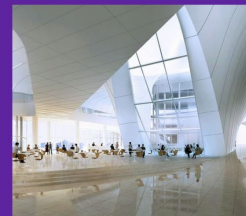
Number of bed place in the hotels



18

premium venues

Heydar Aliyev Center
Baku Convention Center
Gabala Congress Hall
Baku Expo Center



special venues

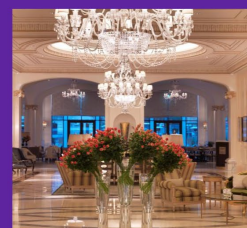
International Mugham Center
Azerbaijan Carpet Museum
Buta Palace
Elite Events Hall
Elektra Events Hall
Baku Crystal Hall



hotels

Baku can offer you any kind of accommodation you may desire.

Your choice can range from luxury hotels in cutting-edge buildings, international and local hotel chains, and family run establishments through to small, quaint inns and youth hostels — and anything in between.



Azerbaijan Convention Bureau

*Part of Azerbaijan
Tourism Board*

Brings the key meetings industry players operating in Azerbaijan together. Represents the Azerbaijan Meeting Alliance internationally and nationally.

Main goals:

- Promote Azerbaijan in a global market as a new meetings industry destination;
- Increase the share of MICE industry in the local economy.



upcoming *international events*

Experience Azerbaijan

April, 2020

Formula 1 Azerbaijan Grand Prix 2020

June, 2020

UEFA EURO 2020

13 June – 4 July



23

<質疑応答・コメント>

【古市 茂・農林水産省食料産業局輸出促進課輸出戦略調査官：コメント】

農林水産省はエイチ・アイ・エスのプロジェクトを支援しており、その関係で本日の経済合同会議に参加させていただきました。本プロジェクトは当省の補助金による実証事業の枠組みで実施されたもので、鉄道利用による物流網形成、フードバリューチェーンの確立を支援しました。結果的に、実際にアゼルバイジャンで伊勢茶を使った抹茶チョコレートを生産して欧州各国のマーケットに輸出することに成功しました。プロジェクトとして成長していることを大変嬉しく思います。

個人的なことを申しますと、私自身20年前にJBICに出向し、セヴェルナヤ・ガス火力複合発電所およびガスパイプラインフェーズⅠ、Ⅱを支援させていただきました。その際にアゼルバイジャンに何度か出張しましたが、今回のプレゼンでビデオを拝見し、アゼルバイジャンが非常に発展しているということをつくづく感じます。Doing Businessのランキングが34位と非常に高ランクにあるということがその証左でもあると思います。今回のエイチ・アイ・エスのプロジェクトの成否については、何度かご説明がありましたFTZの完全な確立と安定的な運用、優遇制度の付与が非常に重要になると思います。Doing Businessのランキングで良好な結果を収めていることもあり何ら懸念はありませんが、引き続き政府の皆様からのご支援をお願いしたいと思います。

また、農業分野での協力に関する発言がありましたが、実態としてほとんど始まっていないというのが現状だと認識しています。今後協力を進めていくには、まずお互いの農業の実態や状況を把握し、どのような取り組みが可能かを追求していくことが肝要だと思います。また一般論で申し上げれば、民間企業の投資によって技術移転を進める、すなわちビジネスとして成立することが非常に重要だと思います。エイチ・アイ・エスのようなビジネスがしっかりと確立して、お互いにウイン・ウインの関係が成立していくということが、ほかの分野、産業、企業への協力関係を広めていく上で大切ですので、一つ一つ着実に協力を進めていただければありがたいと思います。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

【一般参加企業より質問】

アゼルバイジャンのe-Government（電子政府）についてお聞かせください。昨年、貴国の携帯電話会社であるBakcellが世界初のmobile residencyを発行したとのニュースを拝見しました。アゼルバイジャンは、エストニアに続くe-Government構築を目指しているというお話も聞きますが、このような方向性を今後も促進されるのでしょうか。また、現在様々な国でスタートアップが話題となっていますが、アゼルバイジャンではスタートアップ企業やイノベーションに対しサポートがなされているのでしょうか。

【アリエフ・Agrarian Credit and Development Agency総裁よりコメント・回答】

コメントありがとうございます。農業における協力については、双方の省庁間でコンスタントに議論してしていきたいと思います。本日私が報告で取り上げた分野以外の協力可能性についても模索できれば幸いです。両省間で協力覚書などを締結できれば、協力推進の後押しにもなるで

しょう。

そして質問に関して、政府全体の取り組みについてはお答えしかねますが、農業分野に限って言えば、手続きや各種申請はe-Governmentを通じて行われています。昨年まではすべて紙ベースで行われていましたが、現在は電子署名やIDカードの導入によりオンライン上であらゆる手続きを完結することができるようになりました。また農業スタートアップの支援については、若手起業家向けと女性起業家向け2種類の支援プログラムがあり、国連食糧農業機関（FAO）やEU、国際労働機関（ILO）と連携して取り組んでいます。

【ガディオフ・AZPROMO投資促進部長より回答】

スタートアップ支援については、我が国のみならず世界的に重要性が増しています。アゼルバイジャンでは経済省のバックアップの下でスタートアップの支援が実施されています。ビジネス・インキュベーター施設が整備されたほか、大学や民間団体もスタートアップ支援に積極的に取り組んでいます。我が国のスタートアップが国際コンテストで好成績を収めたという話もよく耳にします。

<議長総括／閉会挨拶>

石井・日本アゼルバイジャン経済委員会会長

ババエフ・アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長、ご来日のアゼルバイジャン側代表団の皆様、ならびにご列席の皆様。本日、日本側議長として、また日本アゼルバイジャン経済委員会会長として、改めまして本日のご参加に心より御礼申し上げます。本日は皆様のご協力により実り多い情報交換と討議が行われ、非常に充実した会議となったと思います。

双方の報告により、石油・ガスをはじめとするエネルギー分野で両国の間に確固たる協力関係が築かれていることが確認されました。また一方、アゼルバイジャン側からは運輸ロジスティクス、インダストリアルパークおよび新たなFTZ、さらにはユーラシア陸上輸送のハブ化などの提案、また中小企業育成協力、農業における農産品の輸出入、さらに大臣よりお話がありましたSmart water distributionの提案、そして最後に素晴らしいプレゼンテーションとなりましたアゼルバイジャンの観光ポテンシャルなど、各分野の様々な協力関係のご提案をいただいたと思います。

我々経済委員会としましては、民間企業が参入可能な案件につきましては実際のビジネスに結びつくように積極的に努力してまいります。政府間の協力に関わる案件に関しましては、本日ご来臨賜りました日本政府関係者の皆様に直接お伝えすることができたことは、非常に有意義なことだったと考えます。本日ご参加でない関係省庁の皆様も含め、必要に応じ、今後とも情報共有に努めてまいりたいと思います。

逆に、本日日本側からの報告や事業提案について、アゼルバイジャン側でご関心、ご質問などがありましたら、報告者に直接、あるいは経済合同会議の日本側の事務局であるROTOBOにいつでもお気軽に声をかけていただければと思います。

基調報告で指摘させていただいたとおり、日本とアゼルバイジャンの経済関係が次の段階へ発展していくためには、新規事業分野の開拓とビジネス参入の裾野拡大が非常に重要だと思っております。その点におきまして、日本アゼルバイジャン経済委員会会員ではないのですが、エイチ・アイ・エス様から事業分野として両国においては非伝統的、つまり新しい事業である食品加工とロジスティクスに関わる事業構想についてご報告いただけたことは、誠に心強く、この事業の発展をお祈り申し上げる次第です。

最後になりましたが、今回の経済合同委員会の開催に際し、ババエフ議長をはじめ、アゼルバイジャン側関係者の皆様のご協力に対し、あらためて感謝申し上げます。また、双方の報告者の皆様、会議のスムーズな進行にご協力をいただきました通訳の皆様に対しても厚く御礼申し上げます。

さて、第11回となります日本アゼルバイジャン経済合同会議は、双方の都合のよい時期にバクーで開催させていただきたいと思います。次回、貴国でお目にかかるまで双方の本日の結果を着実にフォローし、成功例を見出す努力を続けてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。両国の経済関係が今後ますます拡大・発展することを祈念しつつ、第10回経済合同委員会の私の閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

ババエフ・アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長

石井議長、ご参加の皆様、二国間には協力を推し進めるための様々な可能性と分野が存在することが、今回の経済合同会議を通してお分かりいただけたと思います。あとは我々がそれらをどう活かすか次第です。両国のビジネス界同士の関係をより強化することが課題ですが、我々は楽観的な見通しに立っています。なぜなら、第一に、本日の報告にあった通り、政府の強力なサポート体制が整っています。第二に、両国には協力の素晴らしい経験が蓄積されています。そして第三に、両国の経済およびビジネス界は非常に大きなポテンシャルを有しています。こうした理由から、二国間関係の前途は明るいものと見て取れるでしょう。

またこの場をお借りして、2025年大阪万博と2020年夏季東京オリンピック・パラリンピックの成功を祈念したいと思います。東京でオリンピックが開催されるのは2回目となりますが、実はアゼルバイジャンは前回大会のリオデジャネイロオリンピックでは、自国の歴史上最多の18個のメダルを獲得しました。そして、オリンピックの歴史にとっても我々の代表チームにとっても、東京2020が将来に渡って語り継がれる重要なイベントになると信じております。

最後になりますが、経済合同会議という重要なイベントを成功裡に実施して下さった日本政府はじめ日本の皆様に心から御礼申し上げます。議定書に関してはまだ調整中となっておりますが、近日中に双方の合意に達し、締結できることを期待しています。皆様のご繁栄とご活躍を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

<第10回経済合同会議議定書署名式>

第10回日本アゼルバイジャン経済合同会議議定書

署名者： 石井敬太 日本アゼルバイジャン経済委員会会長

／伊藤忠商事（株）常務執行役員エネルギー・化学品カンパニープレジデント

M.ババエフ アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長

／アゼルバイジャン共和国環境・天然資源大臣

（注）上記議定書の署名は、合同会議当日ではなく、後日、外交ルートを通じて行われた。